大正七年一月十五日

關西建築協會雜誌

第一輯 第參号



關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書ヲ本會ニ提出スベシ此諸否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二終身贊助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ揭スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇ヲ受ク終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納ノ會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一會頭　一名

二理事長　一名

三理事　四名

四理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ノ任期ハ貳年トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一主記　一名

二主計　一名

三編輯　四名

四編輯補　若干名

主記ハ庶務ヲ主計ハ會計ヲ編輯ハ編纂ヲ處理ス

編纂補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長之ヲ任命ス

書記ハ理事會之ヲ任命ス

第十四條　主記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ發表スルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會談話會、討輪會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ開行ス

一建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究二調査研究報告ノ發表三建築ニ關スル重要事項ノ評決四決議事項ノ實行促進五會誌ノ發刊六建築ニ關スル圖書ノ刊行七建築ニ關スル講演會ノ開催八建築ニ關スル展覽會ノ開催九建築ニ關スル有志者ノ親睦會十建築ニ關スル有益ナル事項

第十九條　會員ハ會費年額金拾圓ヲ本會ニ納出スベシ但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免除ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金六圓ヲ普通贊助員ハ普通贊助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ但シ期日內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

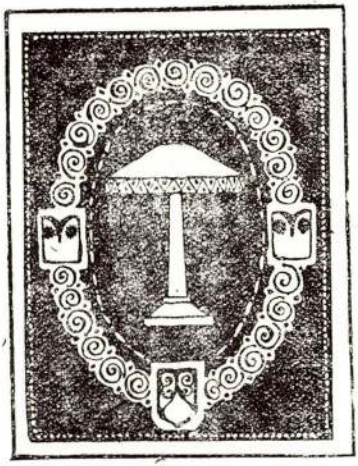
第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

本會ノ財產ニ關スル重要ノ處分ハ每月ノ收支ハ本會ノ財產目錄ヲ作リ翌月理事會及總會ニ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

電燈裝飾器具製作販賣



電氣諸工事設計及請負

原安商會

商會主　原田金次郎

本店　東京市京橋區松川町五番地
電話京橋（特長六二三）（長六二四）

支店　大阪市東區高麗橋筋三丁目
電話本局長一一三八

工場　東京市下谷區竹町
電話下谷　四四〇九

關西建築協會雜誌 第壹輯 第參號

目次

口繪

獨軍に脅迫されつゝあるヴェニス市（三色版）
大阪市及接續町村の學校負擔區別傳染病發生比較表
罹災前の東京國技館（內部及外部）
國技館燒跡の慘狀
新裝成りたる住友銀行東京支店
東京銀行集會所の新館
獨飛行機の夜襲に脅かされつゝ倫敦（塔橋上改定砲彈破裂の狀態）
聯合軍飛行機の投下爆彈が小亞細亞ペールー港の鐵道驛に命中して盛に延燒しつゝある光景
神戸郵便局の火災

保健法實施の急務 …… 會員 片岡安 …… 一
國防上より觀たる都市の防備 …… 會員 森山伊望 …… 二
——建築條例制度の急務——
在來所感 …… 會員 T N生 …… 二四
議院建築問答 …… 會員 …… 三二
衛生時論 …… 東城生 …… 三三
保健衛生調査會に就て——公衆保健法制定の急務 貧民窟改造（住宅法制定）に就て
住宅問題 …… 英國及大陸の共同住宅舘＝エドウキン、チー、ホール氏 …… 四三
住宅に關する時代觀察

名士の住宅觀——佐多愛彦氏、本山彦一氏、平賀敏氏、小倉正恒氏、麻生二郎氏
都市と建築……五六
東京の市區改正に就て——都市研究生、都市建築の取締、都市の美觀と建物の色彩、家屋問題——リーズ市の會合……七一
我校の生徒養成に就て……會員 藤本好雄……七二
東京市街の建築的贅澤……會員 武田五一……七五
國技館災害視察報告……會員 萬野壯一郎……七九
國技館災害視察所感……會員 木子七郎……八四
神戸郵便局の火災に就いて……會員 波江悌夫……八九
貧しき家より……會員 うき生……九五
"Ka"の獨白……會員 須藤眞金……一〇一
東都の友へ……會員 甲南生……一〇六
暗の光……會員 野人生……一一一
三國セルロイド會社工場災害調査報告書……第四部委員會……一一三
會報……一三二

附錄

都市計畫……前紐育市技師子ルソン、リユイス述
編輯たより……亞米利加土木學會々員

建築と電氣!!

最新式電燈器具製作

電氣エレヴェーター工事

最近据付場所

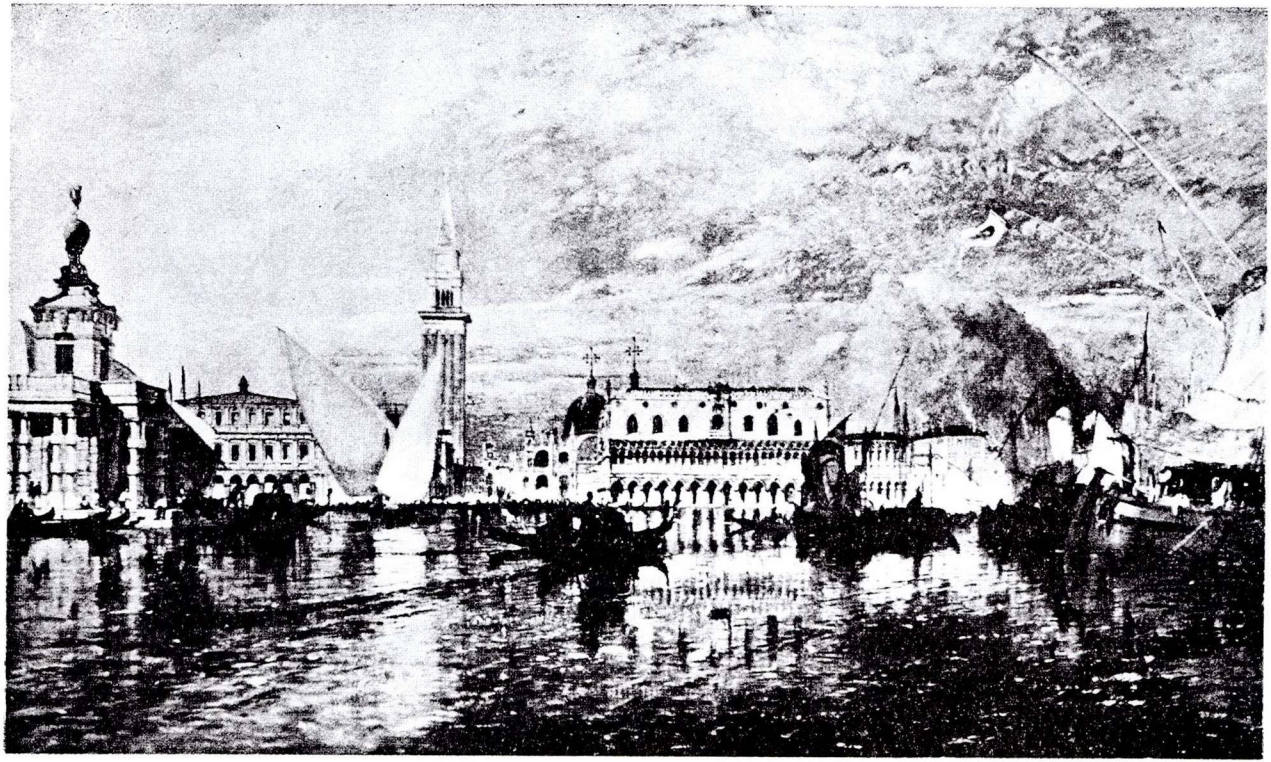
大阪 石原時計店
大阪 福西合名會社
大阪 住友銀行支店
福岡 九州電燈鉄道本社
大阪 朝日新聞社

電燈電力電話電鈴工事

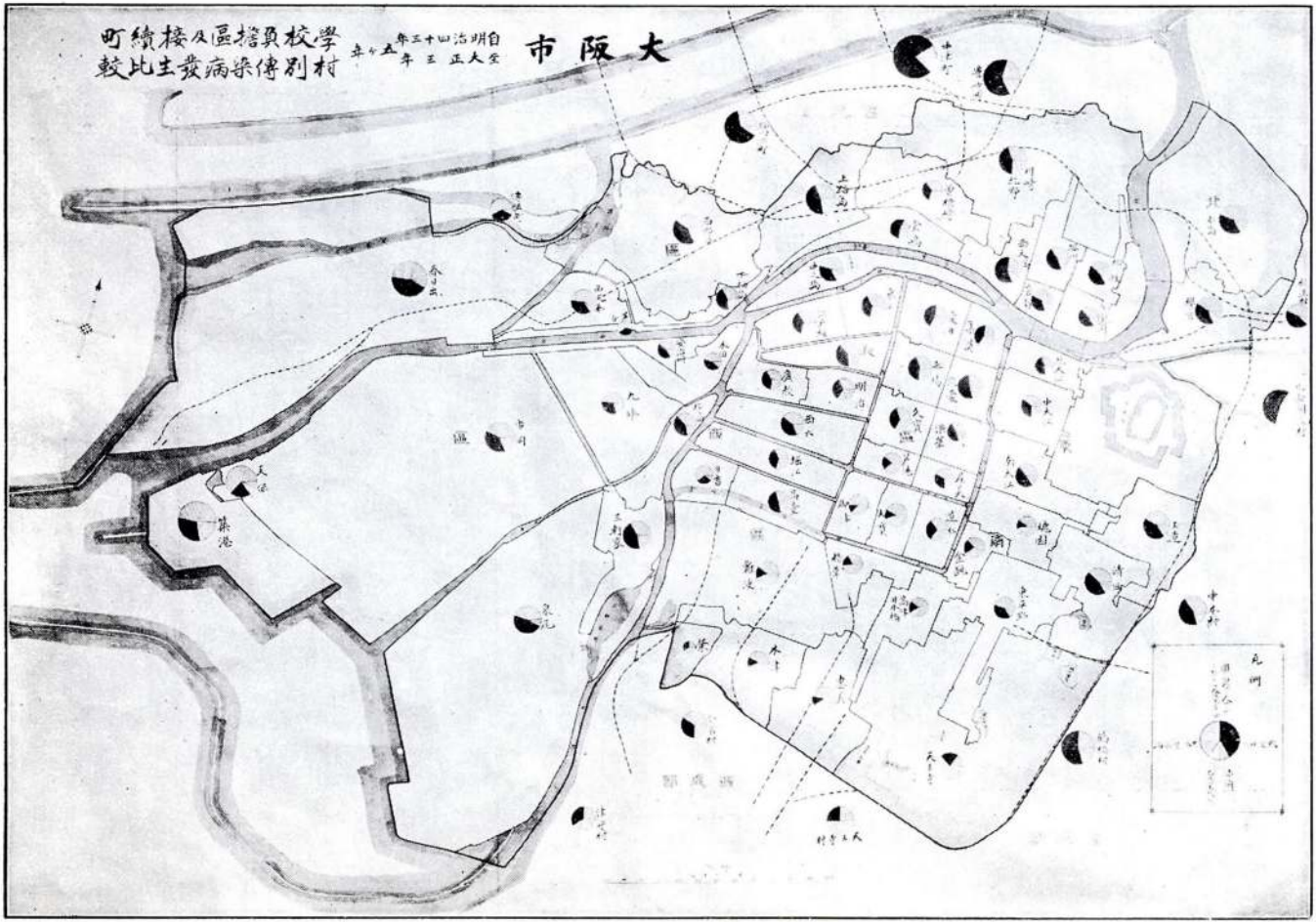
大阪市東區南久宝寺町四丁目心斎橋筋

みよし組大阪支店

電話南一〇三八番

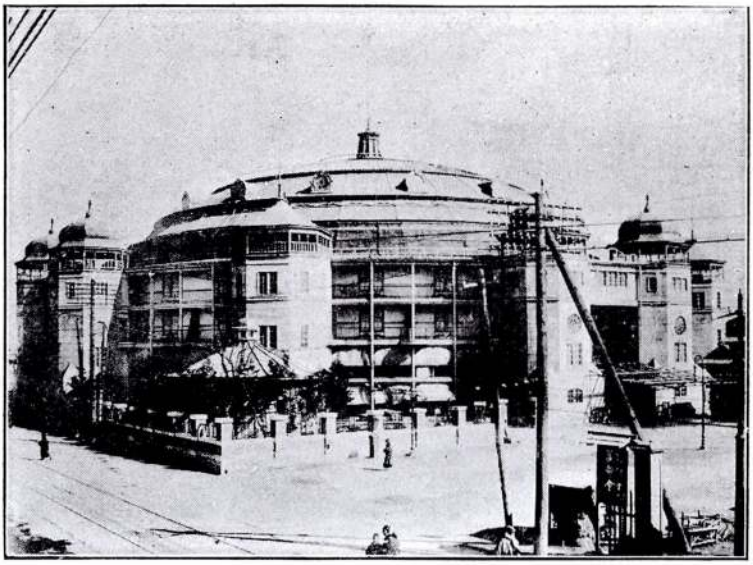


獨軍に脅迫されつゝあるヴェニス市　（美しき建築と彫刻繪画の寶庫は果して破壊と掠奪とを免かるゝや）

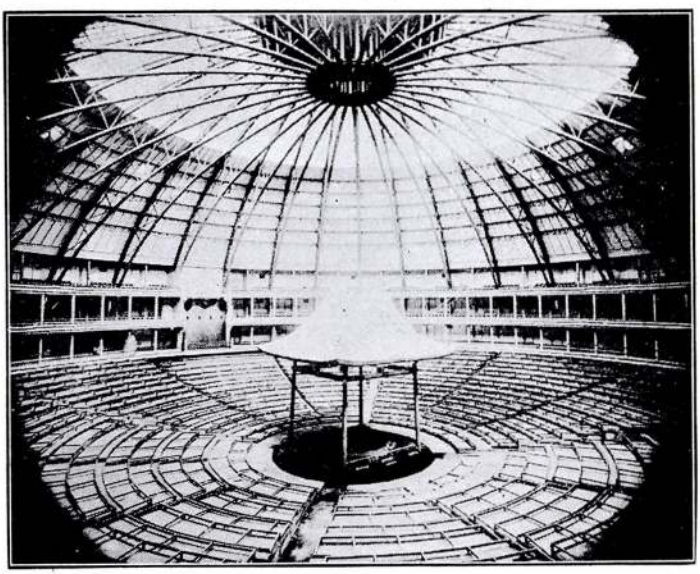


大阪市及接續町村の學校負擔區別傳染病發生比較表（大正六年度マテ五ヶ年平均）

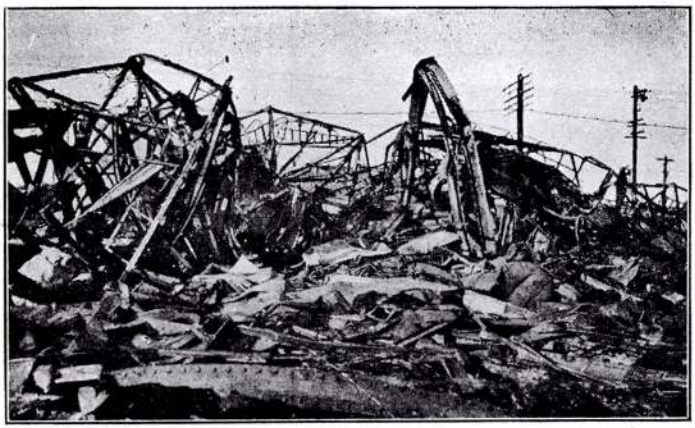
表中の最高率を示をものは主として接續町村にして、中津町、豐崎町、北新開莊村、鶴橋村、鷺洲村、中本村の順次なり、市内にては築港、春日出、市岡、上福島、西野田、川崎北野、都島、玉造、清堀の順位にして、市中心地を距ること遠き程其發生率大なるを見る、以て如何に衛生工事（上下水設備）が傳染病發生を輕減し得るかを知るべし。（黑は膿室扶斯）



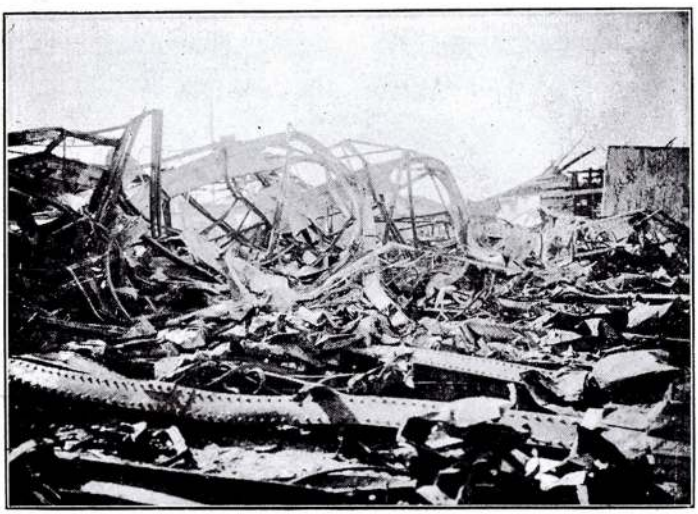
羅災前の東京國技館(外觀)



羅災前の東京國技館(內部)

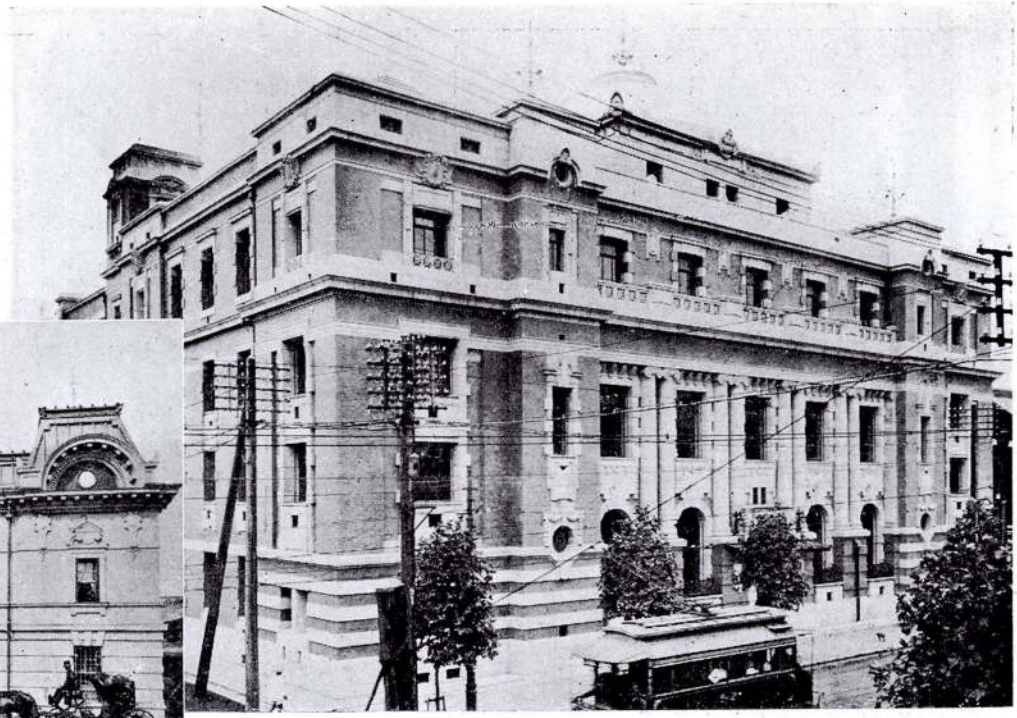


國技館燒跡の慘狀

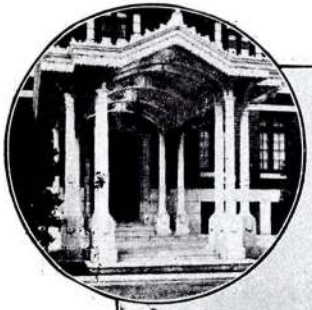




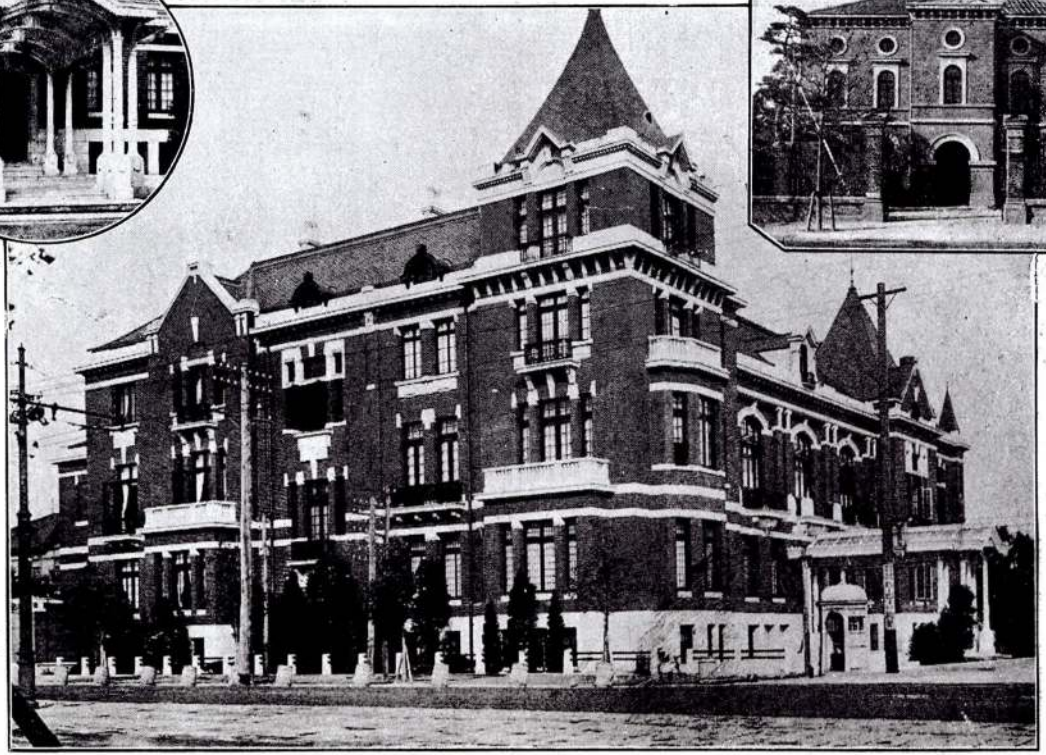
全支店舊建物



新裝成りたる住友銀行東京支店

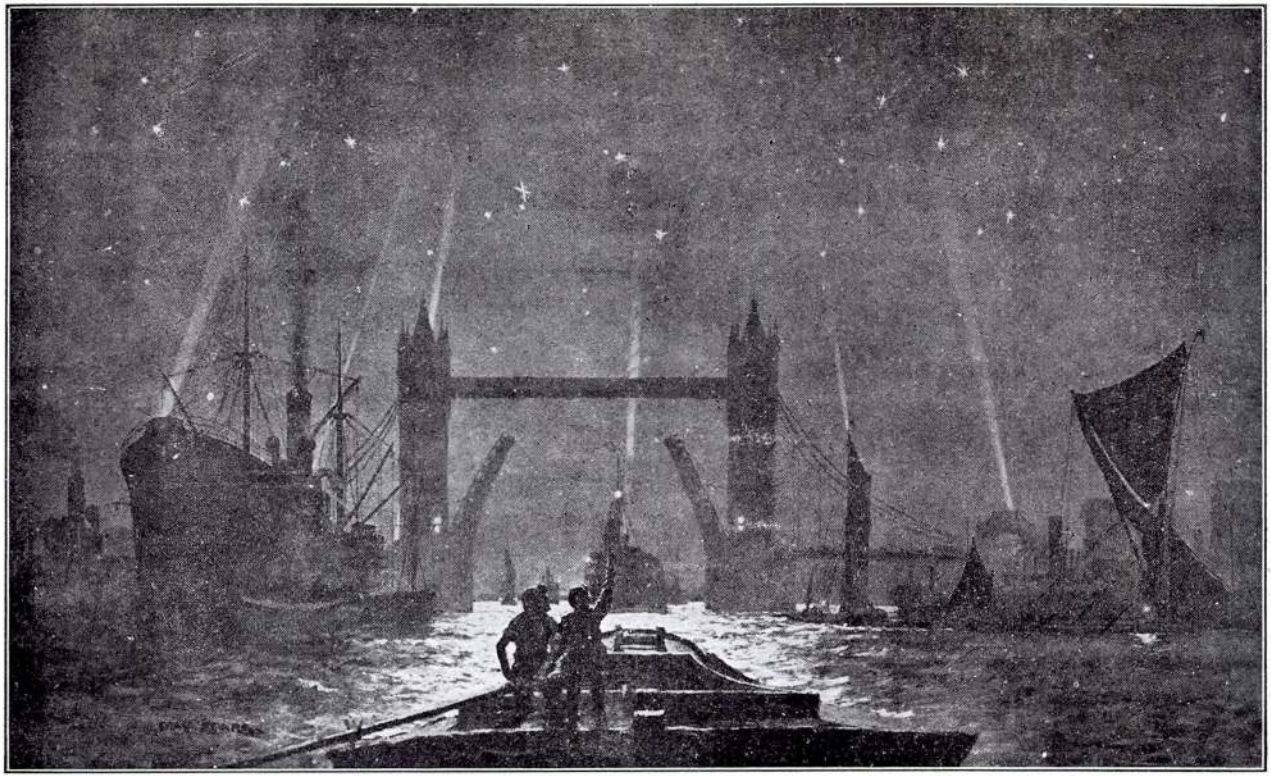


新館正面車寄

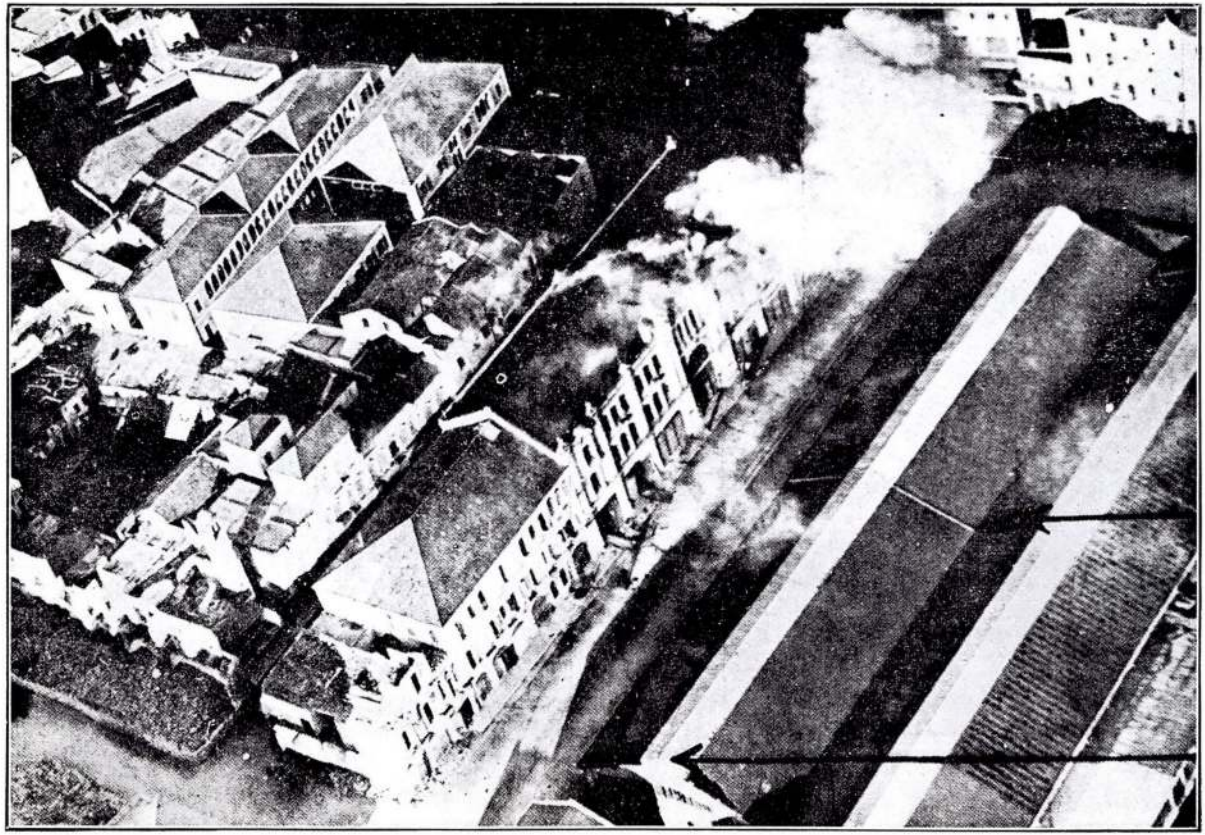


仝上舊館

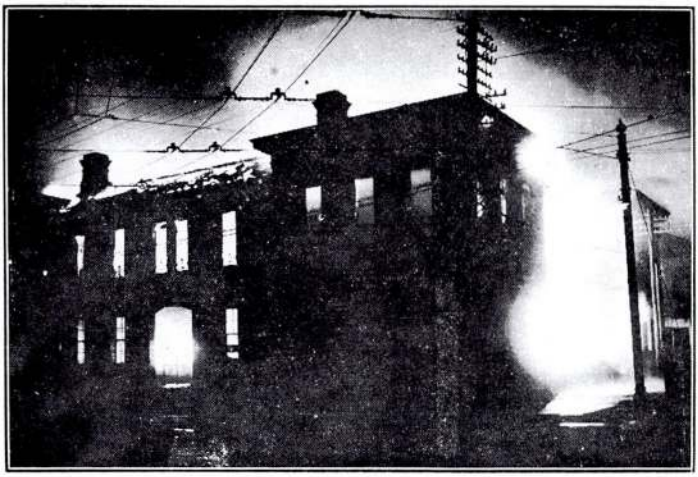
東京銀行集會所の新館



（藉銀の裂破彈砲空攻上橋塔）　敦倫ゝるさか脅に襲夜の機行飛獨

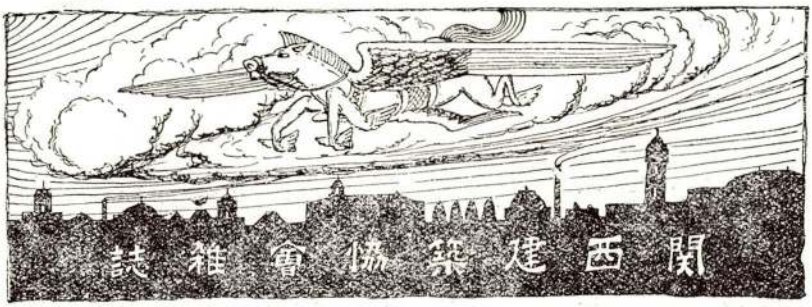


聯合軍飛行機の投下爆彈が小亞細亞ベールー港の鐵道驛に命中して盛んに延燒しつゝある光景





神戸郵便局の火災（午前五時頃）



保健法實施の急務

國家の存在は其國民の健康を基礎と成し其緊張せる活動を以て富強を致すより他に之が途の存ずる莫し。殊に國防の目的を達するには其重要なるものを第一に人第二に軍需品第三に金と做す而して現代に於ては先づ健康なる國民の多數を得ることを以て凡ての國家的施設の根本と成すべきは寔に明白なる事理なりとす。今や歐米の國家は一こして國民保健の法制を有せざる莫く國民の自覺と相俟つて其健康狀態の向上を圖り以て着々之が實績を擧げざるもの莫し。然るに何事ぞ我國朝野の人士は未だ徹底せる保健論を唱ふる者無く現代の發達せる衛生學も唯其枝葉にのみ適用さるゝに過ぎず。國民衛生運動なるもの亦頗る微弱にして到底一般の國民を覺醒せしむるに足らざるの狀態は實に寒心すべきことならずや歐米の文明國は近時其國民の壽命を著しく延長しつゝあるに反し我國民の衛生狀態は概して低下せんとするの傾向を示し纔に急性傳染病の蔓延を防止し得るを其施設の極致と爲すが如きは現代文明の潮流を無視するものにあらずして何んぞや。昨年新設されたる衛生保健調査會の如きは唯其一端に觸るゝものなりと雖も其不徹底なる組織は未だ以て之に國民の健康向上を倚賴し得るものと謂ふを得ず要は一刻も早く保健法の制定を急ぎ國法上合理的の施設を爲すを目標とすべき也



國防上より觀たる都市の防備

＝建築條例制定の急務＝

會員　片岡安

(一) 現代都市の國家的地位
(二) 飛行機の進歩と新しき國防計畫
(三) 國防計畫と都市防備
(四) 建築條例の大方針樹立の急務

(一) 現代都市の國家的地位

現代文明國の都市が、其經濟的の價値を向上するを以て其生命と做すことは、今や、世界的の傾向と成りて現はれつゝあるといふも、敢て過言へがない。維れ、一つは、產業組織の一變再轉して漸次大資本主義と成り、凡ての商工業が世界的波動に支配さるゝ時代に進み、其堅實なる抵抗力を得むとして、經濟力集中の形態を求むるの傾向を生じ、茲に、大都市に其樞軸を移さざるを得ざるが爲である。又一つは、交通機關の發達と、一般科學の人生々活に應用さるゝとの進歩とは、竟に人口の都市集中を促し、今日に於ては、既に、奈何なる國に於ても、學者、政治家、實業家、技術

家は素より、宗教家、藝術家に至るまで、其國が有する大部分は大都市に蝟集し、國富の發展を支配する有力者は、全部主要都市に存在するの狀態となつた爲である。

現代の都市は近代に至り膨脹に膨張を重ねて、今や、中古の面影も無き程に變遷し、改造に改造を重ねて、其設備と内容を一變したとは、少しく歐米の事情に通ずる者の等しく驚歎する處である。けれども、唯、是を以て、一つの自然的趨勢として看過する一般の皮相觀には、吾人は敢て與することは出來ない。現代の都市が何故に斯くの如く膨張の勢を持續するやを、もう少し内容的に研究して見ることは、蓋し、緊急の事項であると同時に、其改良設備は何故に必要であるかを徹底的に攻究せねばならぬのである、

今、試みに、世界の大都市が奈何なる程度を以て膨張しつゝあるかを見むが爲、其人口增加の狀態を左に摘記せむに。

英京倫敦は、紀元一千八百年頃に於て人口九拾五萬内外であつた、それが、一千八百六拾年には貳百七拾五萬と成り、一千八百七拾一年には三百貳拾萬、一千八百八拾一年には四百六拾二萬、一千八百九拾一年には五百五拾五萬、一千九百年には六百五拾八萬、一千九百十年には實に七百二十五萬に達し、最近のセンサスに據れば、八百四十七萬千百四十六人（一九一三年度）といふ驚くべき數字を示してゐるのである。即ち、一千八百七十年以來は、十箇年毎に約百萬人を增加しつゝあるから、倫敦の人口が一千萬人に達するのは、今後二十年を待つの要はないかも知れぬ。又、大西洋の對岸なる紐育にては、一千八百年頃に於て人口僅に六萬に過ぎざりしに、千八百六十年には八十一萬人と成り、千八百八十年には百二十萬、千八百九十年には二百五十萬、千九百年には三百四

十四萬、千九百十年には四百七十六萬と成り、現在に於ては、既に五百三十三萬六千人（千九百十四年度）となつた。其膨張計數は、最近の十箇年は百二十萬人以上を算するとなつたのである。故に、斯の計數を持續するものとすれば、紐育の人口が一千萬人に達するのは、蓋し、今后四十年を出でざるべきを推定せしめる。

佛蘭西の巴里は、彼の普佛戰爭の際に百八十萬の人口を有せしものが、今は既に三百萬に垂むとし、伯林は同じ時に僅か八十萬の人口を有せしものが、今日では二百萬を越したのである。若し夫れ、北米合衆國の市俄古市に至りては、十九世紀の初めに僅に四千の人口を有するに過ぎざりしが千八百十年には十萬と成り、千八百八十年には五十萬を算じ、爾后、十年毎に五十萬人を增加して現に二百二十萬人を包容せる大都市と成つたのである。我東京市も、明治維新の際は、人口八十萬と稱せられてゐた（其實際の數字は深く信ずるを得ざるも大數に於て誤なきものと假定す）然るに最近五十年の間に於て、既に二百萬人を少しく越したように推算さるゝのである。大阪市も、明治十年頃には人口三十萬と稱せられたものが、今は、百四十六萬を少しく越したのである。而して、最近十箇年に於ける增加量は、毎年三萬五千人以上なるを以て、今後十五箇年を經れば、大阪市の人口は確に二百萬人に達すべく、又、三百萬の人口を算するに至るは、今后四十年を要せざるものと見ねばならぬ。

其他、歐米の大都市は、最近、漸次其膨張率を大にして、益々發展せんとするものならざるはなきの傾向を示し、中にも、獨逸や北米の都市に至つては、殊更に其甚しきものあるを見るのである。ヂユッセルドルフは、千八百七十一年に人口七萬を算せしも、千九百十二年には、實に、三十五萬

六千人と成り、フランクフルト、アム、マインは同年間に八萬より四十一萬に達し、ケルンは、千八百八十年に十四萬五千なりしものが、今は、實に、五十二萬を越へたのである。又、北米の費府聖路易、バッファロー等は、孰れも最近膨大した著しき實例である。

現代の都市が何故に斯る著しき發展の途に就きたるかは、寔に複雜なる原因の然らしむる處なるべきも、大体に於て、之を近世に於ける産業組織の變遷と看做すべきを至當とする。抑も、現代の國家主義は、往古の覇道と趣意を異にし、唯徒に武力を涵はむとするも其目的を達する譯にはゆかない。強大なる富力の後援と製造工業の優秀なる發展に俟ち、初めて、其武力も光輝を發するのであるから、生存競爭の現代に於ける國家關係に在りては、先づ、第一に、凡ての産業に於て覇者たるを第一の要諦とせねばならぬのは、蓋し、明白の道理である。即ち、産業の覇者として成功せざるものは、奈何に武力を以て立たんとするとも、所詮、勝者たるを得ないのである。故に宇内に於て立國の途を講ぜん者は、先づ以て經濟的大奮闘を爲し、優勝なる地位を獲得するを第一義として其有する處の、凡ゆる精力を傾倒するのである。武力の養成は、其經濟的優勝の背景なき以上、何等價値なきものとするのは、這次の大戰亂に於て益々明白となつた譯である。而して、一國の大都市は、實に、其經濟活動の中樞にして、凡ての産業計畫は、其源を此處に發して國富の大貯水池と成り、又、其調節地として國運を支配すると謂ふも、決して過言ではない。

大都市が、其國家の運命に關して夫れの頭腦たり又脊髓として活動するに至りしは、主として拾九世紀の下半より以後に屬し。國家統一主義の旺盛なるに隨ひて益々其傾向を著しくしたのである而して、其傾向を助長したる實際力は、全く科學應用の進歩に起因するものと謂ふを妨げない。國

防計畫の輓近に於ける大進歩も、亦科學應用の著しき發展に因るのであつて、都市の大發展と其動機を一にするのである。

現代の都市は、國家存在の最大なる負擔者と成りたる以上、其責任の重且つ大なることは、敢て之を敷衍するまでもない程明なる事實である。けれども、今、試みに、其具体的事實の二三を擧くれば。

中央銀行、其他各大銀行の本支店、國際貿易其他大商業者の營業所、製造工業者の本店又は支店兵器製造所、百貨積載の倉庫、鐵道終點驛、海陸連聯絡設備、諸官省、王宮、兵營。

等の存在は、事實其國の經濟的運命を支配する頭腦である。而して、其存亡は、唯、行政機關又は經濟的營業所の問題のみに考ふる譯にはゆかない。其の及ぶ處の損害は、國家の致命的苦痛に立到るべき危險を含むのである。現時各國の都市が鋭意其改良計畫に熱中するのも、一は其商業の發展上已むを得ざる結果であるが、其の根本の理由は、都市の國家的地位益々重大なる傾向を看取して、其趨勢に遲れざらんとする故に外ならぬ。現代都市の地位亦重しと謂ふべきである。

(二) 飛行術の進歩と國防計畫

國防計畫は、國家の存在を確保し其威信を發揚する爲に絶對的必要のものなれども、其程度は、先づ國力に相應するを第一の條件とせねばならぬ。我國に於て、海軍の五十萬噸八八艦隊編成を標準とするとか、陸軍の廿箇師團より更に進むで二十五箇軍團に移らむとするが如きは、近時に於ける我國情の程度としては、果して之に耐へ得るや否やを懸念されてゐるから、其擴張は現に我政治

界の暗礁である。併し乍ら、國防計畫は、一方外面の壓迫に對する反撥力である以上、夫れに相應するだけの程度のものであらねばならぬ。余輩は、八八艦隊や廿五箇軍團なるものが、我國の對外防備として適當なるものなるや、或は、夫れ程にまで之を擴張するの要なきものなるやの攻究は、今姑く之を論せず、唯、現代科學が、漸次に、新しき兵器彈藥の發明と其用法の改良を促し、次第に戰術の推移を來しつゝある其機運を最も機敏に洞察し、以て、其内容の充實を圖るべき時代なるを識らねばならね。故に、國防計畫の擴張は、寧ろ、現狀に就ての内容充實の急なるに如くはない。就中、飛行術の應用を其最大なるものとする。昨秋の陸軍大演習に於て、十二臺の飛行機は、完全に其演習を終了せしもの僅に二三機に過ぎず、歐洲戰場に於ける近時の飛行機戰を聞く者をして隔世の感あらしめるのは、我國現時の國防計畫に應用科學の充分に利用されざるを証明して剩りあるものである。余輩は、飛行機及飛行船の進歩が、最近十箇年殊に今次の大戰亂以來に在ることを稽ふる毎に、我國の國防計畫は、何となしに、鈍刀の磨かれざるを大切に鞘に收めつゝあるような感がする。

飛行船の進歩は、飛行機よりも少しく先じたのは事實である。今より十年前、獨逸政府の顧問ルドルフ、マルチン博士は、飛行船戰爭の、將來獨佛両國間に起り得ることを指摘し、其當時に於ける佛國飛行船操縱の優秀なる技能を賞揚して。

『若し彼れが現に所有するラ、パトリー型四艘の空中軍艦を數百倍と成して、我國境なるメッツやストラスブルグの要塞を襲撃し、進むで、エッセンのクルップ工場やスバンダウの兵器工場を撲滅せん歟、其危險や寔に怖るべきものである。殊に、夜中に於て、中立國の上空數千メートルを

航空して、伯林其他の大都市を襲ふに至つては、何等之を豫知するの途がない。若し、斯る彼れの計畫が漸次進行するものとすれば、歐洲の陸軍は宜しく騎兵團を縮少して、大航空艦隊を建造せねばならぬ。騎兵の眼界は小なれども、空中船の視界は廣大にして、凡ゆる偵察を遂ぐる外、無線電信や寫眞等の利器を以て敵の內情を知り得るの便あり云々……』

『而して、其建設費に至りては、ラ、バトリ型一般廿萬馬克、硬質アルミニユーム型のもの一艘五十萬馬克に過ぎないから、一億萬馬克を以て二三百艘の空中艦隊が出來るのである。有力なる空中艦隊は、陸上の奈何なる武力も之を征服し得ないから、空中艦隊を以て之に對抗するより外に途はない。空中戰の抗爭は互に其氣嚢を彈子にて擊破り之を落下せしめるか、燐液又は二硫化炭素液を敵の氣嚢に振り掛けて爆破せしむるかの方法を用ゆるを順序とする。茲に於て、我獨乙のツエツペリン伯のアルミニユーム飛行船は、佛蘭西の軟性氣嚢式のものに比すれば一日の長あるを認める。即ち、佛の氣嚢式のものは、一擊に打ち墜さるゝことあるも、ツエツペリン型のものは、內容の區劃多き爲め容易に之を射墜す譯にゆかない……』

『飛行船に藉りて海港を閉塞すること亦易々たるものがある。即ち、强大なる飛行船の數十艘に水雷を積載して、テームス河口やエルベ河口に之を沈めるときは、一擧にして其航路を絶ち得るではないか。日本國の如き土地狹く人口多き國が、若し、露西亞其他の空中艦隊に依りて外部を閉塞されたとき、其窮狀は、蓋し容易なものではあるまい。併し、日本人の怜悧なる智嚢は、近き將來に於て隣國のものに海上權を奪はるゝが如きことはなからう……』

『吾人の過去を見よ、皆誤れるにあらずや。當時の大宰相ビスマークを中心とせる當局は、千八百

八十四年の議會にベルリン及ライプチッヒ間、ベルリン及アンハルト間、ベルリン及マグデブルグ間三大鐵道線路建設の許可に反對して、右三線の鐵路は其交通量に比して過大なりとした。唯先帝フレデリック、ウキリヤム四世の果斷に依つて漸く復活したのである。他の各國に於て、當局の姑息は更に著しきものあり、佛蘭西に於ては、有名なるチエールが、鐵道建設に關して、「巴里人は斯る玩具を弄ぶものではない、玩具は決して人間や貨物を運び得ない」と云つた。嗚呼時代は時々刻々に進み、其所謂玩具を以て覇道の中心と做すようになつて來た。空中艦隊の如きは今後の戰爭に於て怖るべき威力を發揮すべきものなること、尙、積極的の鐵道建設が、ビスマークやチエールの如き大人物にさへも不可解なりしと等しく、現代の當局に餘り深く顧られざるは寔に嘆ずべきことである』と言ふて居る。

今より十年前にマルチン博士が唱へたる上記の空中艦隊豫想は、大体に於て其通りに發達し來り獨のツエツペリンは既に數十回に亘りて倫敦を攻撃したのである。唯、要塞や軍隊の密集部隊が飛行船の爆彈にて粉碎されたる實例は、未だ之を聞かざれども、又、バトリー型空中船が伯林やエツセンを襲撃した例も之を耳にせないが、余輩は、近き將來或は今次の戰亂中に其實現の來らんとも限らざるを信ずるものである。空中戰爭が、今や、飛行船よりも寧ろ飛行機によつて開始されたのは、必ずしも、飛行艦隊の進歩が行き詰つたことを立證するものではない。唯、飛行機の進歩は、其發動機の研究と共に進むことが出來るに反して、飛行船の發達は、氣囊の構造及其填充の瓦斯、發動機と氣囊との關係、空中溫度の變化等複雜なる分子に由つて支配さるゝが故に、飛行機の進歩程に迅速に進まないのであることを識らねばならぬ。

飛行機の進歩も、矢張り、其初めは佛蘭西に於て最も優秀なる成績を示し、千九百六年、ブレリオ氏が、彼の單葉飛行機にてドーバー海峽を横斷したのを記錄とし、翌年、デーリー、メール紙の倫敦マンチエスター間百七十哩一と飛びの十萬圓懸賞は、佛人ポーラン氏に獲得され、其翌年、英國海岸約一千哩飛行（三箇處立寄の場所あり）の同新聞社の十萬圓懸賞も、亦同じく佛人タブトー氏の手に落ちた。夫れと前後して、飛行機製作の米人ライト兄弟は、英佛獨の間に盛に歡迎され、彼れ特有の複葉飛行機を以て、陸海軍當局者に技術の傳授を爲しつゝあつたのである。獨乙の現皇儲がウキルバー、ライト氏と同乘して、飛行機操縱の練習を爲したことや、伯林の士官學校にライト氏が一時敎官たりしことが報ぜられたのは、佛蘭西に於て、サントス、デユーモンやファーマン氏が、老熟せる飛行家として佛國の飛行界を世界獨特のものとなしつゝあつた時である。佛蘭西の飛行熱は他列國に一步を先じて、各處に飛行學校を起し、飛行場の設ある都市亦鮮からず、上は大臣より下は一般勞働者に至るまで、其輕快なる飛行競爭を奬勵したのは事實である。今より六七年前巴里及マドリツド間飛行選手の出發の際、內閣大臣其他民間の有志一同之を飛行場に待ちたりしに、一飛行機誤つて上空より落下し、大臣席に殺到し來りて、總理大臣に重傷を負はせ、陸軍大臣を即死せしめた悲慘なる舞臺のあつたことは、吾人の記憶に新なる處である。由來、佛蘭西人は、飛行家として自らも許し他も認めてゐたのであつて、現今の飛行機戰鬪に於ても、可成り輕妙なる行動を爲しつゝあるといふことであるが、一方、遲れ馳せながら參加したる獨乙飛行機の發達は、亦驚くべき長足の進步である。近來、數十機一隊と成りて倫敦を襲擊したこと數回に及び、其投下する爆彈亦必ずしも小量のものでないらしい。幸に、倫敦に於ては、飛行船の襲擊を受けつゝ二年

間其防備に就て研究を積みたれば、餘り甚しき損害は受けぬことゝは信ずれども、今後、飛行機の進歩に由り、其攻撃の偉力は幾何まで增進するや、豫め測り識る譯にゆかない。

倫敦は、テームスの河口より遡つて其位地を發見するを飛行機又は飛行船の便利なる進路とするが故に、其防禦に就ても、東倫敦の外郊一帶に嚴重なる攻空砲を準備すれば、大体之を喰止めることが出來るけれども、若し、我邦の大都市の如き海岸に近きものは、殆むど之を防禦するの方法さへ付かぬのである。東京や大阪、名古屋、横濱、神戸等の都市は、敵の艦隊より水上飛行機を飛ばして直ちに殺到するときは、其上空に到着し得ること實に易々たるものと見ねばならぬ。飛行機襲撃に最も便利なる都市が、凡て我國の首腦都市なることは、愈々外國との戰爭を想像すれば餘り好き心地にはなれない。斯回の大戰亂に際し獨機が巴里を襲撃せざる理由も、恐らく、巴里が海岸都市でなくして、其位置を發見するに困難である爲か、或は、困難ならざる道程を通過すれば、途中に於て幾度も攻撃さるゝ虞あるが爲でなくてはならぬ。

飛行機の如き輕妙なる攻撃が漸次發達せんとする傾向は、一國の國防計畫としては決して之を看過する譯にはゆかない。獨乙のマルチン博士が十年前に與へたる飛行艦隊急設の警告は、尙今後も益々之を尊重すべきであるが、飛行機に對しての研究と其建設は、更により重要なものとなつて來たのである。今後の國防計畫には、什うしても飛行隊費が少くとも全軍事費の一割に近きものを支出して、其精鋭を圖るべきものではないかと想はれる。這次、米國參戰の第一着手として、聯合軍の爲に十萬の飛行機建造を企てたといふことである。其費用は、少くとも十億圓を要するであらう又、米國參戰の軍事費百幾十億の內、飛行隊費二億八千萬圓を計上したと知られてゐる。

要するに、空中艦隊の大攻撃及飛行機の連續襲撃は、現時にては戰局を支配する程の良好なる成績を擧げてはゐないけれども、吾人の見る處では、幾年かの後には、其威力が漸次增進して、遂に怖るべき結果を現はすものと想はざるを得ない。縱し、夫れ程までに偉大なる成績を擧げ得ずとするも、既に、戰局には最も有力なる偵察機關と成り、戰線を遠ざかれる敵內地の大都市襲擊といふ怖るべき機能を有する以上、吾人は、絕東の孤島に在ればとて決して之を輕忽に看過してはならぬ。吾人が現に有する飛行隊の能力の如きは、世界的に觀るときに、到底、之を現代の飛行隊として取扱ふ譯にはゆかない。唯、練習の過程として其存在を認める程度のものと謂はねばならぬ。敵軍行隊の空中攻擊に對しては、飛行機と飛行船を以て之に對抗すべきを戰術の原則とする以上、我國の飛は、更に一段の增設を要すべきである。

(三) 國防計畫と都市防備

一國の防備は、精銳なる陸海軍の充實を以て、初めて其目的を達し得るのである。けれども、愈々實際の戰爭となれば、奈何なる强兵も百戰百勝をのみ期し得るものではない。又、攻擊と防禦の兩方面より見るも、何時までも其一方にのみ偏すると限らぬのである。我國の四面環海なる地理的狀況は、從來、外國の攻擊を受くるに最も不便にして、蒙古來襲の一事以外には、未だ一回も防禦の位地に立つたことはなかつた。併し乍ら、十九世紀末より造船の技術は著しく進步し、砲火の發達亦甚しきものあるに至り、各國共に强大なる海軍を建造して海上に其雄を爭ふを國際競爭の基礎とするようになつて來た。最近三十年間、英國の覇權が地球の全面を覆ふたのは、其產業の優れる

ものありし無ならんも、大体は、彼の海軍力と其商船の分量が他國より優秀であつたからである。這次大戰亂の禍根は、新進の獨乙帝國が、其國内の充實漸く英國を超越せんとして、其覇權を海面に藉らすして獲得せんとした其錯誤に出でたものと謂ふて差支がない。換言すれば十九世紀の下半期以來、國家の生存競爭は、什うしても海面を根據として立たねばならぬ程に航海の技術が進歩し來たのであつて、我邦の如き古來外國の攻撃より免れた地形も、今は全く其事情を異にして、四方より自由に攻撃されねばならぬ時代となつたのである。故に、今日我國の防備は、英國の夫れの如く海軍を強大にして、先づ、海面よりの自由なる攻撃に備へ、更に、進むで、積極的に他を壓するの覺悟を要するは、敢て之を敷衍するまでもない。陸上の要塞や其他の兵備は、其精鋭を期するの緊急なること、國家の獨立を確保する爲に亦已むべからざるものである。余輩は、今亦此處に我邦に於ける國防計畫の全体を批評せんとするものではないけれども、現時及今後に亘る戰爭に於て、敵軍が重要都市の撲滅を畫策したときに、夫れに對應する防備を充分に研究して置くことの甚だ緊急事たるを唱へむとするのである。

敵國の重要都市を空中より攻撃する策戰は、古來未だ少しも研究されなかつたけれども、飛行術の進歩と共に、斯の策略は作戰計畫上重要な地位を占めむとする傾向が、最近十年以來著しく文明國の覺醒を促し、現代都市が其國家に負ふ處の責務益々重大となる趨勢と相俟つて、重要都市の防備が、愈々緊要事たらむとするは、這回大戰亂の進行に連れて愈々明白となつて來たのである。吾人は、從來、敵對戰爭を唯單に武力の競爭として之を考へた、併し乍ら、國際の武斷的勝負を決するに際して、唯、軍人が戰術の巧妙を爭ふが如きは、其表面に於ける接觸點に過ぎずして、其全局

を支配する勝敗は、武力を涵ふ根源の深さに由るものでなくてはならぬ。其武力を養ふ根源とは果して何であるかといふに、優勢なる産業組織の實質と其耐久力である。縱へ兵力に於て甚しき優勢を持せざるも、其耐久力に於て他の企て及ぶべからざる組織あるに於ては、最後の覇者たること必ずしも不可能ではない。今回の大戰亂に於て、同盟國も聯合軍も戰爭當初より拂ひたる犧牲の甚大なるに拘はらず、双方とも未だに持久力を發揮しつゝあるのは、孰れも互角に優勢なる産業組織の實力を有するからであつて、若し其孰れかに、より多く優勢なる實力を有せむ歟、其兵力は、縱へ對等にもせよ、勝敗は立ぞころに決する筈である。

優勢なる産業組織の實質を更に具体的に攻究するときは、吾人は、經濟の大系の下に都市を以て其中樞實体なるべきを認めざるを得ない。現代の都市は、實に、産業組織の核子にして、凡ゆる製造工場より、經濟上の凡ての機關は、皆是れ都市の大傘下に包含さるゝのであることは、理論にあらずして、實際の傾向である。故に將來の戰爭に於て、敵對行動の最大なる部分を成すものは、敵國の重要都市撲滅の畫策であると謂はねばならぬ。若し、航空隊の活動に藉りて敵の大本營を全滅せしむるとか、王宮、兵器廠を破壞するとか、彈藥及食料の倉庫、病院、中央銀行、製造工場等を襲撃して奏効せむ歟、其影響は頗る重大にして、其程度奈何によりては、前面の戰局を一變せしむるの偉効を發揮するは敢て空想とのみ云ふ譯にはゆかない。現に、倫敦は、獨飛行隊の襲撃には比較的有利にして、白耳義海岸のオステンドより僅に百五拾哩にて達し得べきが爲か、常に襲撃に惱まされつゝあり。唯、損害程度少き爲に纔に慰藉しつゝあれども、若し、獨飛行隊の進歩更に著しくして、攻空砲や飛行隊の發達之に及ばざるに於ては、英國の受くる打撃は蓋し容易ならぬもの

あるであらう。場合によれば戰線に於ける潰亂の基因を成すようなことに立至るかも知れぬ。幸なるかな、英國東海岸の對攻空設備は、今や充分に完備し、倫敦外郊の攻空設備と飛行警備隊は嚴重に配置され、鵜の目鷹の目で以て監視しつゝあるから、總に、其怖るべき損害から免かれるのである。去る十一月上旬二十幾臺かの獨飛行機の來襲に際し、之等の警備隊は十分に其効力を發揮し僅に其二機が警備線を突破して、倫敦の中空に達したに過ぎなかつたといふことである。近來、英國人が頻りに敵都市の復讐襲撃を叫びつゝあれども、現在の戰線より伯林までは、敵が倫敦を襲撃するよりも二倍以上の距離があり、又、エッセンのクルップ工場へも二百哩を算し、其襲撃は、距離以外に種々の困難あると見へ、未だに其奏効を耳にせざるは、必ずしも英佛飛行隊の不備とのみ解釋する譯にもゆかない。何れ、早晩、相當強大な損害を敵の都市に與ふる時機に達するであらう。

要するに、今後、世界各國の國防計畫は、大に飛行隊を重んずべく、寔に明白なる事實であつて我邦に於ても、斯の際、鋭意其研究に耽らねばならぬ。而して、是と相關聯し、今後益々國家的に重要な任務を負はむとする都市の防備は、非常に重大なる意義を有つようになつて來たのである。都市が飛行隊の襲撃に際して絶對的抵抗力を有することは不可能であるけれども、其損害を成る可く輕微ならしむることの努力即ち其防備の攻究は、今後の都市に於て十分に考慮せねばならぬ筈である。歐洲の大都市が、今や、苦々しき經驗を得て、重要なる建物の投下爆彈に對する防禦法を講じつゝあるのは、都市防備の急要に迫られた爲である。投下爆彈の破壞力は、其爆發力と落下の加速度に依る運動量とより打算すれば可成り著大なるものにして。其衝動に耐ゆる構造物は、恐らく現今に於て未だ一も之れ無しと謂ふも過言ではない。故に、今後の構造物は、其建物の性質に依り

て十分の注意を拂ひ、投下彈の爲に損害を受けざる仕組とせねばならぬ。其方法としては、屋上に土嚢其他彈性に富めるものを積みて、不燃質構造と成すより外に途は無いのである。現時に於ける倫敦邊りの建物にては、上部より三階乃至二階の床までは破壞されても、地下室までも迫むだことはないといふことである。けれども、投下彈の進歩をも覊へて、將來の構造物を工夫せねばならぬ。

都市防備の緊要なるは、其都市の大なるに從ひ益々其程度を增すのである。我國に於ては、東京を第一とし、大阪、京都、神戸、名古屋、横濱の六大都市及其接續市街は、今後發達するに從ひて愈々益々防備の重要なるを感ずるのである。殊に、其地位としては、一京都を除く外孰れも海岸都市にして、敵國飛行隊が接近することの便利は歐洲の大都市中之に比すべきものが無いのである。又、古來敵國の來襲を受けざりし地理上の便利はありしも、今は、航海術の進歩に基り、大陸續きよりも却つて襲撃に便利な地勢となつて來たことを稽へると、我國の大都市は、世界各國中罕に觀る程其防備の重要なるを識らねばならぬ。然るに、不合理なるかな、我國の大都市は、世界文明國中唯一の木造都市にして、現代各國の都市が有する或る程度の抵抗力さへも有つてゐないのである。我國の都市が其建造物の改造を企てたのは、僅に最近四十年來の事に屬するから、未だ中古以前の野蠻な狀態を脫することの出來ないのは無理もないけれども、若し現在の儘に進むならば、縱へ、今後五十年を經るも、百年の星霜を積むも、決して、吾人が緊要とする防備は出來る見込が無いのである。我邦に於ける都市防備の貧弱なる、僅少の海嘯に惱み、定例の颶風にさへ傷き、頻々たる火災に飜弄されつゝあるではないか。一朝、敵飛行隊の襲撃を受けむ歟、奈何に敵對攻撃により之を喰止むるとも、投下爆彈の爲に都市の全滅は免れないものと見ねばならぬ。嗟、危い哉、我國の

都市は、飛行隊の前には風前の灯のようなものである。

(四) 建築條例の大方針樹立の急務

上述の如く、我國の重要都市は、今後益々發展すべき運命を有し、改良擴築と其産業濟經上の位地が愈々重大となるべきは、殆むど疑ふの餘地はないのである。又、我國の進取發展なる國是から見ても、爾かあるべきを期すべきである。而して、今後、世界の競爭場裡に於て我國家の優勢を確保せんには、世界的の交通接觸に於て、一歩も劣等の位地に下る譯にゆかない。凡ての生産業に於て、經濟狀態に於て、又、國防計畫に於て、堂々たる地歩を踏み固めて進まむとする以上、重要都市の防備は、蓋し、之を輕忽に閑却し去るべき問題ではないのである。

都市の防備は、之を天然力に對する防備と人力に對する防備とに區別し得る。而して、平和の時代に於ては、人力に對する防備は殆むど無意味のものならむも、外敵の襲撃を受くるに際しては却々重要な問題となるのである。天然力に對する防備としては、古來數千年間世界各國が其方法を研究し、一歩一歩完備の域に達しつゝ來たのであるけれども、最近、構造學の著しき進歩は、凡ゆる構造物に急激なる一進化を與へ、古來四千年間の苦心に次で更に一層の改良を促しつゝあるような狀態である。之に反し、我國に於ては、古來、誤れる木造建築を主体として都市を經營し來り、今日まで其防備を完全ならしめ得なかつたのは、之を世界競爭の現代より觀れば、甚しき苦痛を感せざるを得ない。抑も、都市建造物の完全なる防備とは奈何なるものであるかといふに、風雨霜雪火災震災或は爆發力等に對して絶對安全ならざるまでも、其破壞力の大なる場合に尙且つ被害程度の

僅少なる構造物を要望するのである。歐米各國に於ては、伊太利の南部及亞米利加の西海岸を除くの外地震に惱まさるゝことなきも、我國の如き地震國に在りては、天然力に對する防備だけでも却々容易な問題ではない。況して、木造都市として火災防禦の力を全然缺ぐに至りては、到底、之を現代の都市として歐米各國の實際と比肩し得ることは出來ないのである。斯の意味に於ても、我國の都市は、一日も早く桃源の迷夢より覺めて、確實なる防備力を有する建造物に仍りて組み立てられるように努力せねばならぬのであるが、今、此處に主として唱へむとするのは、國防計畫の一要件として、重要都市の防備を急速に攻究し、其實施に着手せんことを提案するのである。

我國の都市は、首都東京に於てさへも、國家は其建築に何等の勾束を加へてゐない。所謂法治國の名はあれども、建築構造物の如き國家の重大なる物權に對し所謂無爲にして化すてふ太古の政治を應用してゐるような狀態である。固より、警視廳令に依りて屋上制限の如き些少なる行政的命令なきにはあらざれども、構造物の根本に觸るゝ國法無きを奈何ともする譯にはゆかない。覺醒せざる市民が、隨意に自己本意を發揮する構造物を營むのはまだしも、政府直屬公館の現狀を覽る毎に吾人は、其不徹底なる方針に驚かざるを得ない。少しく之を國家の前途より見、又、國防計畫の一端より稽ふれば、現時の帝都は、當さに支離滅裂にして、將來の發展を期待することは素より、現在世界文明の大勢に遲るゝこと確に百年を超ゆるのである。歐米の都市は、拾八世紀の初より、其建物の堅牢ならんことを期して其完備に努め、拾九世紀に入りてよりは國法を以て其勾束を企て、現時に於ては、益々其制裁を嚴重にするようになつて來たのである。故に、近時急速に發達し來れる空中戰隊の攻擊に對しても、まだ著しき打擊を蒙つてはゐないのである。之れ、必ずしも、空中

戰隊の出現を豫想して、其建築物を堅牢に取扱つたのではないけれども、天然力に對する防備に於て完全を期した爲に、投下彈より受くる損害が其局部に限られて都市全体に及ばないのである。若し之を我帝都の現在に於て想像するならば、其結果や戰慄に耐へざるものあるべきは、寔に明白な事柄である。中古時代世界各國に於ける都市の防備を觀るに、主として其外廓を堅牢にし、以て、敵軍の侵入を防ぐことを目的とした。獨り、我國の都市は、唯城廓のみを堅牢にして、其都市の外廓防備は企てなかつたのである。之等の作戰計畫の差異に就ては大に之を研究すべき價値あるものと思はれるけれども、今此處には姑く之を論せずして、唯、中古時代の都市防備は今や一變し、水平上の外廓より上空に對する防備に轉化せねばならぬことを唱導するに止める。

上空に對する都市の防備は、這次大戰爭以來、重要都市に於ては最も深く之を考へねばならぬ問題となつて來たのは更に詳述するまでもない。然るに、我邦の有識者間に、之を國防計畫と並行して研究すべきものであることを唱へざるは何故なるや、吾人は、其不徹底なる態度を了解するに苦むのである。都市の防備は、敵飛行隊の接近を防ぐを以て第一策とすること勿論であるから、完全なる飛行隊を用意し、攻空砲の設備を嚴重になすは吾人の最も贊意を表する處であるが、更に、一面に於て、重要なる都市其れ自身の防備を十分に成し置くとは、實に、緊急の問題であらねばならぬ。幸か不幸か、我國の大都市は、未だ、其建造物に就て何等の制裁を加へざる不耕野生の花圃の如きものであるから、其整理培養の爲に、此際、一大國法を以て其防備を一定し、將來の堅實なる都市を實現せしむるの最も好き機會なるを感せざるを得ない。吾人は、建築條例を唯國防計畫のみより出發して制定すべきものであるといふ程に、偏狹な思想を有するものではない。寧ろ、國民の

保健、經濟活動の保護及都市美觀等の向上發展を期する意味に於て、其急要を感ずるのであるけれども、國家の存在てふ最高の目的を其最大眼目と做すは、亦已むを得ざるに出づるのである。

吾人は、我國に於ける建築條例の內容に就て、我國の如き過渡期の都市に在りては、大勇斷を以て其編成に膺るべきものなることを考ふる者である。併し乍ら、現時の如き低調なる先覺者の態度を、尠くとも、或る程度まで緊張せしめることの最も重要なるを感じ、我國に於ける重要都市の建築條例制定は、國防計畫の充實と共に目下の急務なる所以を敷衍するのである（終）

■戰慄すべき木造家屋■

我國の建築如何を考へて見ると實に戰慄に堪へない。屋根は瓦と板一枚の木造でお負けに地下室はない。我國の現狀は一朝外國飛行機の襲來を受けドン〳〵爆彈でも投下されやうものなら火災の中心點は各所に起つて如何なる大都市でも忽ち焦土と化して仕舞ふ。そこで我國木造家屋の可燃性を何とかして除くべき工夫をせなければならぬ。畢竟國防上吾國の都市將來の建築を如何にすべきといふ問題に逢着する。併し一都市の全部を改造して鐵骨「コンクリート」や耐火練瓦造に積替へるとは經濟上許されぬから差當り其一部を劃し宮殿官衙學校病院等一旦緩急ある場合に敵飛行機が爆彈投下の目標となる樣な重要大建築物は茲に集合せしむる方針を立て其等の建築物は常に耐火耐震的に爲し置くは勿論戰時には直ちに對爆彈裝置の施され得る工夫をして置く必要がある。

（會員　武田五一氏談）



在米所感

會員　森山伊望

（於十二月例會）

○先達ての大會の時、理事の方から今度の例會に何か在米當時の所感を述べよとの御話がありましたのですが、私の樣なものが皆さんの前で御話を致すのは誠に恐縮の次第でありますけれども御辭退するのも如何かと思ひまして思ひ切つて茲に上りました。

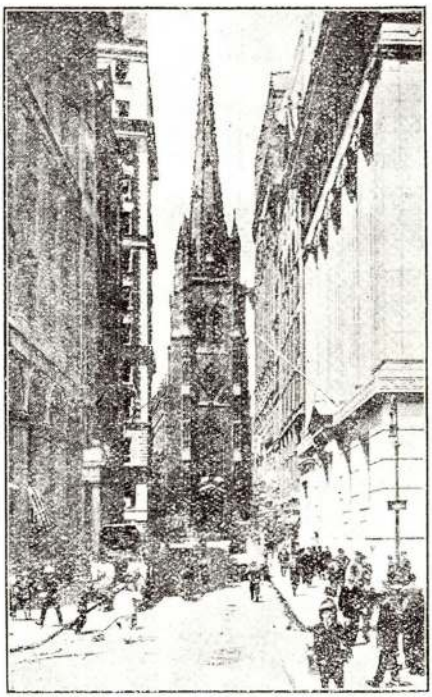
○私の樣なものは會員の資格がありますかどうか自分で疑つて居りますが皆さんの御同情によりまして、入會致す事の出來ましたのは誠に難有い事で幸ひ此席上に立ちましたから特に御禮を申上げて置きます。

○私は明治三十九年に渡米いたしました。初めのうちこそ珍らしい物ばかりでありますけれども二年三年經つに從つて此度は親しい物ばかりになつてしまつて、日本へ歸つて來ますと却つて日本の方に珍らしい物が多い樣な次第ですから、如何樣な事を御話し申したら、皆樣に御參考と迄で行かずとも、珍しい事であるか實は其の話に苦しんで居る次第であります。

○只建築について最も强く感じましたのは亞米利加人の人種的特長が遺憾なく現はれて居るといふ点であります、私が彼の地へ參りました當時は紐育の町の中で一番高い建物は二十三階の「フラット、アイアン」館でしたが、今日では五十五階の「ウールウオース」館で

協會雜誌の第二號に掲載されてありましたが高さは七百九十二尺といふ事ですから約八百尺の高い建物が出來上つた譯でありまして今日では米國人の誇りの一つでありますが夫れが爲めに『バークレーストリート』の如きは一日に二、三、時間位しか日を見ない處がありまます。

○紐育の町は御承知でもありませうが、京都や大阪の町の様に規則正しい碁盤目に出來て居りまして、唯一つ、「ブロードウエー」が斜になつて居ります「スカイスクレッパー」の建築が一杯に立並んでる光景はさすが米國第一の商業都市といふことを首肯させます、往還の雜踏は亦世界一でありませうと思ひます。



紐育市ウオールストリート

○亞米利加人は建築と經濟といふことについては痛切な考へを持つて居ると見ねまして紐育では大低建物を敷地一杯に建てます、最も日本の家の様に軒が深くありませんから差支ないのでありませうが隣家との境界に壁の基礎を造ることは實際に困難を伴ふのであります、處が紐育では往々隣の家の壁へ空を開けて自分の家の床梁を架けることがあります、自個本位といひませうか無遠慮な米人氣質が現はれて居るのでありまして日本の家屋が軒を出して居るために敷地の四方は大程少許の余地を殘して居るのを見ると遠慮深い日本人の奥ゆかしい氣質が現はれて居ると考へます

○先日頂戴いたしました協會雜誌第二號に掲げられました大阪市火災分布圖を拜見いたしまして特に感じましたが、紐育の消火設備は誠に遺憾なく出來て居りまして羨望に堪へません、市内は二三丁置きに赤い鐵柱が立つて居ります、これは火災非常報知器でありまして誰でも出火を見付けたものは直ちに此の箱に設けてある通信器によりまして最も近い消防分署に報知することが出來ます。各分署では「ファイヤ、エンヂン」が大抵二臺と火夫室とが設けてあります、それから十人乘の自働車併に紐育では建物が凡て高いものでありますから繼ぎ梯子の出來る裝置の自動車があります。分署の二階には平常十人宛の消防夫が寢泊いたして居りまして、此外に臺所と下女室が設けてあります、いざ出火の報知がありますと消防夫は直に用意をいたしまして非常口から階下の自働車に下ります、此非常口といふのは徑約二尺圓形の穴で眞中に直徑二吋半位の眞鍮の棒が立つて居ります、階段を回つて下りる手間を省く方法であります。火夫の方では直ぐに「エンヂン」に火を容れまして用意が出來上ります、三年前迄は三頭の馬に曳かせましたが、今日では總て自動車になつて居ります、一時間四十哩位の速力で走るのですから遠い處でも約四分位で現場へ驅け付ける事が出來るやうになつて居ます。人通の多い往來を此の自動車が驅け跋る有樣は見物です、絶へず非常汽笛を鳴らして行く自動車は總て通行路が規定されて居りますから、往來の人々も皆立留まつて通す事になつて居るのですから早い譯であります。

○斯の樣に殆んど完備された消防機關が出來て居るのに加へて建築物は殆んど耐火構造であるのでありますから紐育では半時間も繼續した火災は聞いたことがありません、誠に羨望に堪へないのでありまして吾國に斯くの如き設備と用意とはいつになつたら出來るのでありませうか心細い次第であります。

誠につまらぬ事を順序もなく並べまして御聞苦しいことでありましたろうが、これで御許を願ひます。



議院建築問答

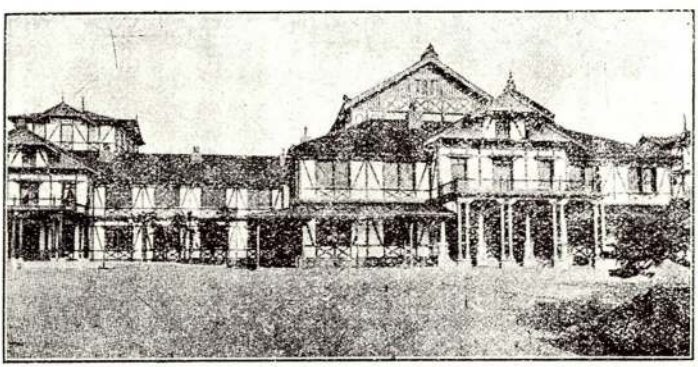
會員　T　N　生

戊午元旦、珍客來訪、年頭の辭を述ぶる頗る殷懃也、久濶を叙し、相共に疎遠を謝す、既往を回想して談漸く熱す、學窓を去りて分袖既に數歳、時に強いて寒暑を問はざるも相見れば肝膽相照らすものあり、相共に多難の歳月を送りて其志す處を異にすると雖も希くは終始不變の坦懐を持して精進せん哉と多望なる前途を祝して盃を重ねたりき。

客曰く「聞く近時關西建築界に於て議院建築問題を論議し大に政府案に反對するものありと其要旨如何、余等門外漢より見れば甚だ其意を得ざるものあり、現在の議事堂建築の老朽にして貧弱、早晩大修繕を加へざれば一種の危險構造物に近き事は知れり、されば昨夏突如臨時建築調査委員會の組織せらるゝや、最も至當の所置なりしを信じ、且つ委員會顔觸れも、夫々主要なる人物を網羅し、殊に專門家技術官の選任も頗る公平なるを觀て、今回多年の懸案も漸く解決の時機到來せるものと思意せり、殊に其政府案の大要は頗る簡明にして要を得たるが如し、何すれぞ殊更に反對の聲を擧ぐるの必要やある」。と

余答へて曰く「或は然らん、豈夫れ然らんや議院建築問題の論議は貴公の知る如く今回特に始まりたるに非ずして多年の懸案たり、而して我國主要なる大建築の一として、尚又憲政濟美の成果を產むべき公館として、從來幾多の研究を重ね來り、其意義に於て其内容に於て其規模

に於て其外裝に於て、或程度迄の理解を國民に與へたるのみならず、住年第二次桂内閣時代に於て著しく大規模の計畫案を立て、朝野の技術家を聘して其意見を聽き、最も主要なる大方針を確立したるに係らず、時機尚到來せずして沙汰止みとなりたるは世間周知の事實なり、然るに今回の委員會の組織せらるゝや其人選の數に於ても其質に於ても前回に劣れるものあるのみならず、主要なる調査方針は全然從來の決議事項を拋擲して省みざるの觀あり殊に昨年秋季迄に得たる該委員會の決議事項を見るに甚だしき矛盾を發見するあり。即ち余等は默として止むべきに非ずとなすもの也。由來我國人士の通弊として、目前の事情に拘束せられて屢々大局を



現在の帝國議院建築

逸し、事定まりて後紛々たる論議起り贊するものも、駁するものも、議論のために議論して喧嘩過ぎての棒を振り廻すの愚を演ずる事往々あり過去は追ふべからず、慮つて悔なきこそ大正國民の執るべき道に非ざるなきか、況や議院建築の如きは國家を奉げて研究を盡すべき問題にして、之を小にしては我國建築界の消長に關し之を大にしては一國民の風敎文化に連なるものあるおや。今回の調査委員會が重任を負ひて尚且姑息なる一時的政策に沒頭するあらば國民は擧つて其得失を打算し利害を考察し愼重審議を計る事を覺悟せざるべからず」

客冬て曰く「聞く關西建築協會は特別委員を選びて該問題を研究しつゝありと、然るに世上途說をなすもの

あり、關西建築界は民間の技術士多く、自家本來の目的のために殊更に政府案に反對するありと果して然らば公等の意見は爭の爲めに爭ふものにしていはば名の爲めに戰ふに非さるなきかを憂ふ」と

余即ち歎息して曰く「貴公は余等の親友を以て、特に世上の惡聲を傳達せらる、余等の感謝は何を以て酬いん。若し世上余等の行動に憶測を逞ふするものあらば、そは偏するもの、迷語に任せん。余等は余等の主張を堂々發表するに躊躇するものに非ざる也。往年該問題の東京建築界に投下せらるゝや在野建築家の主張は實に熱烈の調を帶び、世論を喚起して政府の反省を促したる事あり、然るに今回の場合に於ては殆んど眠れる獅子の如く數多矛盾ある決議事項を知るも知らぬも「不關焉」たる事風馬牛も及ばざるか如し。されば此際余等相謀りて、堂々其不備を指摘し、大事を過たざらしめん事豈徒爾ならんや」。

客曰く「然らば公等の以て一國の風敎に關し建築界の消長に係れる所以を聞かん」

余曰く「我國の議院建築をして雄姿堂々たる大建築とし、以て現狀を救濟する事は刻下の急務なり、殊に第三十九議會の盛夏の候に開かるゝや、きなきだに狹隘なる陰鬱なる現在の議場は到底賢明なる議員諸君をして愼重審議を遂行する能はざる程の苦痛を味はしめたり、近時國家の選良と尊敬せらるゝ議員諸氏が議場の神聖を犯して亂暴不謹愼なる行動の屢々繰り返さるゝにつき非難の聲は漸く高まらんとす、而して是が原因の依る處は多々あらんも賢明なる諸氏をして斯くの如き設備不完全にして粗造貧弱なる建築物裡に國家の重大事を討議論爭せしむる事其最大なる原因の一たらずんばあらざる也。我國の最も重要なる建築が我國今日の興隆なる盛運に伴はざる倭少危險なる三十年來の舊建築を用ひつゝあるが爲めに外ならざるべし。されば茲に改築問題の再燃し來りし事當然の成行にして政府諸公の賢明なる措置に感謝措く能はざるものは豈議員諸氏のみに非ざる也」。

客曰く「乃建築家の主張する懸賞設計案の實施せられん時來ると考察する爲なるべし」

余思はず叫んで曰く「そは大なる誤解なり。大なる皮肉なり、君見ずや我國に於ける重要なる諸官衙建築が今日尚可燃性危險なる木造建物に滿足せざるを得ざる狀態に在りし事の如何に建築界の消長に關連せしかを。明治初年銀座街頭其他に煉瓦造の建築を新築して國民に示したる政府の措置は賢なりしに相違なしとするも彼の如き粗造なる煉瓦造を以て國民の開發指導に資せんとし幼稚なる時代の些々たる事實も如何に國民の煉瓦建築に對する興味を殺ぎしか、如何に洋風建築に對する厭忌侮蔑の情を間接に養成したりしかを追想すれば今日の官衙建築の貧弱粗造が一國の風敎に連關し、國民も政府を信賴するの程度に於ても影響する處あると同時に國民の建築を理解するの情に於て甚大なる障害ならざるを得ず、連年多額の火災損害を蒙りつゝ尙悟らざる國民の幼稚なる經濟思想を顧みて我國の大藏省の木造舊式の建築が一國の財政經濟に如何に交涉する處あるかを感せざんばあらざる也。斯くして一國の重大なる憲政の要義を國民に識らしめん爲めに數多の政治家が口を連ねて絕叫するも何等深刻なる理解を與へ得ざるに外ならず。知らず賢明なる政治界の識者が我國に於て特に重要なる議院建築の意義並に其連關附隨する數多の問題を閑却して可なるべきを知らず用意周到なる現內閣諸公が輕々に議院建築を調査せしむるかを。余等は余等の專門的眼界より見れば事は少なりと雖も則ち大に我國建築界の盛衰に關するものある也。世人は稍もすれば吾國建築界の幼雅なる現狀を笑ふが如し、乍然我國の建築界をして進步發達せしむる所以の第一義は實に國民の建築的自覺に依るべきを信ず、世人は此重要なる國家的建築を視る事對岸の火災の如し、一國の重要なる政治家、敎育家、財政家、實業家、軍事家等の諸識者にして一言半句の評言すらあらざる也、況んや文藝方面の諸名士に於て沈默を守る以上は專門建築家が汲々として自家頭上の蠅を拂ふに急なる事或

は當然の事情なるやも知れざる也。されど重要なる意義は懸つて議院建築に集中しつゝある也

客曰く「然らば公等の以て政府案の姑息矛盾とする要點如何」。

余曰く「政府案は今回の改築を名づくるに假建築と稱す。蓋し假建築を實施して現狀を救濟し更らに時機の到來を待つて本建築を起すが如し、これ疑問の第一にあらずや、何となれば名は假建築と稱するも之れに要する工事期間は十年を要するとなす、知らず愈本建築を爲すに當りては百年の歲月を費さんとするにや、我國の如き急激なる文化の推移に遭遇せる國家の現狀に在りては財政上長年月を建築に費す事の止むを得ざるものなきに非ず。されど假建築に斯くの如き時日を費すとせば果して現在の議院建築は之れを如何に處置せんとするにや。更らに應急の假建築を以て此の十年間の急を救ふの愚を演ずるか然らずんば一大修繕を加へざるべからざる也。

而して更に解する能はざるは此の假建築に要する敷地は現在東京に於ける最も好適地と目さるゝ永田町一圓を選定しつゝある也、然らば本建築は之を何邊の地に新築せんとするなるべきか、茲に於て余等は大に疑なき能はざる也、名は假建築と稱するも之をして本建築の素地たらしめんとするに非ざるなきかと、果して然らば是れ國民を欺き、國家の選良を愚にするの策にして余等の執らざる處也。何すれぞ堂々として本建築の設計案を審議せざる」

客の曰く「假建築か本建築か其詳細なる專門的事項によりて了解し得らるべけん」

余答へて曰く然り「而して其の專門的決議事項を觀るに實に判斷に苦しまざるを得ざる程の矛盾案たればなり。

蓋し假建築たるが爲か外觀に關する研究は措いて問はず、主として內容の充實を計らんとする原案を立てゝ構造設備に關する事項のみ主として決議せるもの也、いはゞ之れ未熟案なる也不徹底案なる也、假建築なれば假建築としての徹底せる事項を擧げ得べきなり、又本建築の基

礎案とするならばそは本建築としての研究立脚點より出立せざるべからず、況んや建築に關する構造設備は第二次の案件にして決して、重要なる基本事項に非ざる也。のみならず此種の第二次案ならば何も官民合議の調査會を要せざる也、或は專門技術家丈の考究に任して可也、我國議院建築の臨時調査會が主要なる案件を措きて第二次の議決に努力せし理由を知るに困しまざるを得ず、之れや余等の以て大に滿足せざる一大理由にして政府案の內容に於て不徹底なる未熟なる點を指摘して世の識者に問はんとする所以に外ならず」

客即ち笑つて曰く「貴說の如くんば一步を讓つて、政府案が一時的便法を以て選定せる敷地に假建築を起工するとしても、やがて本建築たるべき段取となるならば、彼等の爲すが儘に任すとするも他日之れを本建築たらしむる事を得べけん」

余更らに聲を勵まして曰く「否々、建築術たる其工事中屢々模樣替を要する場合に立到る事多し。而して之が爲めに工費の上に可なりの失費を要する事慨ね然り。のみならず局部的變更は可なりとするも根本的模樣替なるものは斷じて爲し得べからず、殊に假建築に出立して他日本建築に改めんとするも假建築は假建築丈けの規模にして到底本建築の規模たる事を得べけんや、現に今回の決議事項を研究するに假建築なるが爲めか工費の豫算を縮少せるが爲めに其規模の點について數多の犧牲を拂ひたるが如し是れや余等の以て假建築案を排する第二の理由たる也。

客曰く「豫算は果して貴公の言ふ如く少額なりや」

余曰く「然り甚しき小額なり、先年の調査會に於ては千七百萬圓を計上せりと記憶す、今回の豫算は七百五十萬圓にして本館建築費としては實に六百拾萬圓に過ぎず、是れ假建築なるが爲めに依る豫算の總額たり而して歐洲大亂の影響を受けて諸物價暴騰し各種職工賃金の高價なる今日果して斯くの如き工費を以て十年後完成

の曉に於て遺憾なきを得べけんや」

客曰く「聞く先年の調査會の豫算は一國の記念建築として充分なる豫算たりとするも主として裝飾費に要する項目多きに非ずや」

余曰く「余等之を知らず、其内容を知らざればなり乍然其規模の如何によりて其總工費の大小は打算し得べきもの也、國家多事の際無用の費途に多額を計上せし筈なからん」。

客曰く「今回の政府案の主張せる構造設備の完全を期する所以は即ち無用の費途を省きたるに非ざるか」

余曰く「無用の費途を省くは可なり、乍然必要にして充分なるべき費目を除去するは、以て内容の完全に非ざる也、余等の解せざる第三の理由は實に此點にあり。近時建築界に於て建築の意義に二樣の見解あり、一は外容に重きを置き、一は内容の充實を以て足れりとする也。前者は建築を以て藝術と解し後者は建築を以て技術と解す、此の二樣の見解は近年始まりしに非ずして多年の問題たると同時に歐洲先進國に於ても夫々研究しつゝある問題なり。而して近時斯界の風潮は甚しく後者に傾き、甚しきは食は身を養へば足る、衣は身を掩へば足る、住は雨露を凌げば足る程の主張を固守するものあり。乍然今日の如き世運に於て建築家のみが此種の主張を執ると雖何等世上を益する所以に非ざる也、論語に言はずや、「文勝質則史質勝文則野。文質彬々然後君子」と建築の意義に於ても同樣の原則在りて存す、一國の堂々たる重要建築をして其外裝を顧みずして工場も當ならざるものあらばそは由々しき大事ならずや。凡そ無用の費途は避けざるべからず。乍然必要にして充分なるべき費目は斷じて不問に附すべきに非ざる也、殊に建築の術たる外觀内容相整ひてこそ其妙味はあれ、況んや我國主要なる大建築たる議院建築に於てをや、若し此回の調査會が此種の囚はれたる見解を惡用して說明するあらば愚や及ぶべからざるを知る。余等が今日其錯誤を指摘し、百年の大計を樹立して後年の憂なからん事を切望する所以は實に以上の三點に在り」

客曰く「貴公等の主張する要點は大略識るを得たり乍然現在の我國財政を以て尚且つ充分なる支出を得ずんば之を如何とはする」

余曰く「萬一充分なる費目を計上する能はずんば、支出し得らるゝ時機の到來する迄待つに在り、然らずんば百年の後憂なき本建築の大設計案を樹立し、而も支出し得る丈の費目を以て工事に着手するに在り、假建築に十年の歳月を待たんとする今日の實情に在りては一日も早く本建築の根本案を立てゝ其着手を爲すべきの時なり、目前の事情に囚はれて一時的姑息案に沒頭して後年の物笑たらん事、大正新時代の國民のなすべき業にあらざる也。大正も既に七歳を數ふるに非ずや。須らく堂々雄大の氣魂を以て將來を謀らざれば近きに憂來らん事火を見るよりも明か也」、

客笑つて曰く「年始廻禮の客に向つて萬丈の氣焔を吐く所以のものは乃ち大正式禮法乎」

と兩者乃ち呵々大笑す。更らに數盃を重ねて談餘盡きず人生の快事此裡に在り。

□ 議院建築臨時調査委員會決議事項 □

委員會の決議は九項より成る其要點左の如し

第一、敷地は從來の議院建築豫定地たる麹町區永田町所在官有地の内約一萬七千坪を以て之に充つ。

第二、室數及び其坪數は總建坪約三千六百坪とし室數は兩院事務局の意見に依りて按配せす

第三、建物及び階數は鐵筋「コンクリート」三階建とす

第四、各室は按配は大体歐米諸國の例を調査し中央部及び貴族院、衆議院の三部に分ち中央部は皇室用諸室及び貴衆兩院共通の諸室とす。

第五、工費及び年限は總額七百五十萬圓にして大正七年度より向ふ十箇年の繼續事業とし其内議院本館の建築費は六百拾萬圓なり。

第六、本建築設計を懸賞に附す、その經費は六萬圓の豫算なり。

第七、設計競技方法につき委員間に種々の意見ありたるも結局二次競技法に依る事に決定せり。

第八、構造及設備其他については前項懸賞競技に依つて得たる設計に準じて夫々決定すべきも、大体は時勢の進運に應ずべき方針を以て決定することゝせり。

尚本豫算の年度割は初年度參拾萬圓次年度參拾五萬圓三年度九拾五萬圓以降年々約百萬圓を支出すべく而して初年度に於ては該敷地に在る馬政局及び樞密院事務局の取拂並に前記設計の懸賞募集をなし次年度に至りては前記取拂の殘務及敷地の地均工事をなし愈々三年度より本工事に着手の都合なるべき由なり



衛生時論

東城生

保健衛生調査會に就て

昨年六月二十八日勅令第百七十二號を以て保健衛生調査會官制は發布されて、即時施行のことゝなりたるが、其委員會の內部々門も左の通りに確定した。即ち、

第一條　保健衛生調査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ國民ノ保健衛生ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　調査會ハ會長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ內務次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ調査審議ノ成績ヲ內務大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ內務大臣ノ指定スル委員其職務ヲ代理ス

第五條　調査會ニ幹事一人ヲ置ク內務大臣ノ奏請ニ依リ內務省高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　調査會ニ書記ヲ置ク內務省判任官ノ

内ヨリ内務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第七條、會長、委員、幹事又ハ書記會務ニ依リ旅行スルトキハ旅費ヲ給ス

同上調査委員會調査部門

第一部　乳兒、幼兒、學齡兒童死亡原因

第二部　肺結核

第三部　花柳病

第四部　癩病

第五部　精神病

第六部　衣食住

第七部　農村衛生

第八部　統計

以上の官制は、現時我國の國民衛生狀態が一般文明的向上の流れに伴はざるやに疑はるゝ際、寔に、時宜に適したる調査會と觀るを至當とし吾人は双手を擧げて其動機には賛同する者なれども、唯其動機のみにて、其實質には、不幸にして甚しき不滿を感ぜざるを得ないのである。國民保健の向上を期待し得る現代に於て、獨り我國は、防疫的事務以外に積極的の衛生行政を施設するに至らざる過度の狀態を一刻も早く脫却して、衛生施設の普及を圖らねばならぬこと今や一般に認められて來たのである。然るに、是より漸く調査に取掛らんとするは、所謂盜人を看て繩を綯ふの類にあらざるなき歟。吾人は短刀直入其法制の研究に移らむことを希望せざるを得ない。之を詳しく云へば、我國の現時に衛生上の統計や我國民の直實なる病理衛生は十分に確實なるものにあらざるやも知れない。故に、先づ以て其調査より始め、確定的の數字及學術的の極致研究に到達し、夫れより其取締法に及ぶといふ趣意より斯る部門的研究に入れるものならんが、之等は、物の緩急大小を顧へざる學究的議論としか見る譯にゆかない。本年、米國の鐵材輸出禁止に際し、其善後策研究の或る調査會に於て、堂々たる學者が、先づ以て我國の不足材料を精密に調査して然る後に其善後策に移るべしと唱へたのは事實である。併し乍ら、常識上大數を得て之を基礎とするを便利と

し、其大數の上に善後策を講じたのを記憶する。我國民の健康狀態も今後精密なる統計を作り、其死亡狀況の精査を爲し、其手當に關する學術的適應手段をも講じ、相當の成案を得て初めて保健法の研究に移るとすれば、丁度鐵材不足高の精密調査の如きものにして、何時其結果に達するやさへも知ることが出來ないのである。我國にては、國勢調査の機關缺乏し、實際に近き統計を得る能はざるは必ずしも衛生狀態のみではない。最も甚しきは都市の人口に關する數字にして、未だ一度も精確なものを發表し得ないような始末である。隨つて、其市民に對する直實の健康狀態を數量的に識ることは、事實上不可能なりと謂はねばならぬ。併し乍ら、衛生狀態に關して何等纏りたる統計無きかといふに、必ずしもそうではない。內閣統計局の衛生年表を始め、各大都市や各府縣に於て發表する衛生統計、中央及地方衛生會の報告及各所の結核豫防協會の報告等は、可成りに我邦の衛生を識らしめるものと思ふのである。而して、現時世界の文明國民が、其衛生狀態の向上に對して採り來りし方法は、皆移して我國民の保健法に適用し得るものなるを覺るとき、吾人は、一刻も早く我國民衛生運動の急要を感せざるを得ない。

由來、我國民の通弊として、所謂『餅は餅屋』主義に拘泥して、專門家以外の者に其事柄を相談せざるを誇とする。之等は、或る程度以內に於てこそ必要な事であるけれども、國民衛生の如き大問題に至りては、之を醫術家のみに一任して顧ざるが如き從來の態度は、寔に國事を誤るものである。國民の衛生狀態改善は、今や、世界的人類一般の問題と成り、其向上に大々的施設を爲すを以て文明の精華と做すのである。故に、今後、我國も、從來の如き不徹底なる衛生施設に甘せず、現代の凡ゆる科學の智識を利用して、其積極的なる方針を樹立せねばならぬのである。吾輩は、保健衛生の調査を不必要なりと云ふ者にはあらざれども、內務大臣の一諮詢機關として各種病症に於ける治療成績の現狀を知らんとするが如き手緩きものに、國民保健

の向上を期待する程朦昧なる者ではない。吾人は當局者が何故に一歩を進めて國民衛生に對する積極的施設の研究を天下に問はざるやを怪む者にある。

都市住民の健康狀態が、都市膨脹の趨勢と共に漸次低下せむとするは、否むべからざる事實である。故に、文明國としては、其向上に對して、可成り深刻に研究が積まれて來た。學者の側より又政治家の方面より、或は、技術者の立場より、數十年來其爲に多大な努力と施設が行はれ、兎にも角にも相當の効果を擧げたのである。我國は、後進國として、倖儌にも、其研究の成績を勞せずして識ることを得たのであるから、其全部を其儘鵜呑にする譯にはゆかざれども、之を我國情に照して多少變應せしめるならば、人類互惠の利益として、直ちに我國民に幸するのである。之を例へば、下水道改良の如き、上水給與の如き、住宅改善の如き、或は、田園都市の新設、食料檢査、强制療養品、さては、塵芥處理等の如き積極的施設は、之を徹底せしむるならば、其都市住民の健康狀態を改善することは決して疑ふの餘地なき事柄となつて來たのである。若し、之等の改善的施設は未だ我國に其必要鮮しと做し、醫術的にのみ依賴して國民健康の向上を圖らむとするならば、全く近視眼的の遣り方で、國家永遠の爲には排斥すべきものである。醫術の進歩は最も尊重して之に信賴すべきではあるが、國民の衛生施設を全然醫術にのみ托して顧ざらむとする方今の當局者及一般先覺者の態度に對して、吾人は、堂々と其非を鳴さなければならぬのである。

吾人は、今此處に、近代の下水改良や住宅改善が奈何に著しく都市住民の健康狀態を向上せしめたかの、歐洲に於ける幾多實例を擧ぐるの煩を避くるけれども、少しく歐米都市の事實を識る者は、皆な一齊に、其好果に對して、驚歎せざる者はないのである。然るに、何事ぞ、當局の諮問機關たる保健衛生調査會は、少しも之に觸れずして、部分的に各種病症の分類的取扱を主眼とし、都市全體に亘る下水、住宅、食料

檢査等の大問題を僅に第六部の小部門に押し込めて餘り重要視せざるあたりは、什うしても、醫術家のみを以て國民衛生を負擔せんとする誤つた思想に捉はれてゐるものと思ふより外に理解し得ない。本誌に於ては、別項又は別冊に、文明國民の衛生狀態が漸次向上されつゝある幾多の記述を掲載するが故に、讀者は大抵斯の趣意を理解さるゝことゝ信ずれども、唯一言此處に敷衍して措きたきは『我國都市住民の低率なるは、主として其住宅の狀態に基因する』を一般に知らしめたいことである。本協會に於ては斯の點に深く注意して細民住宅の窮狀を研究し、彼等の其非衛生的設備から受くる處の怖るべき不健康狀態を調査し、之を江湖に愬へて、其住宅改善を唱へむと欲するのである。吾人は、保健衛生調査會の不合理なる組織と其不徹底なる委員會の成り行に危惧を懷き、敢て、之を國民に質さんとするのである。

公衆保健法制定の急要

□現代文明國の最も著しき特徴の一とつ
□一般保健法を缺ける我邦
□公衆保健の積極策
□吾人の健康と住宅及周圍の影響
□田園都市レツチウオースの實例
□英國も僅に八年前に保健法を完成
□保健法の急要をすら感ぜざる我國

現代文明國の最も著しき特徴の中には、其健康を保全することに成功しつゝあるを其一とつに數へねばならぬ。不老不死は、古來人類の熱望する處なれども、之を科學的に研究して漸く其端緒を啓きしは、最近、生理學と衛生工學の進歩より以後に屬する。是まで開拓されし生理學の敎ゆる處に由り、歐米各國は、盛に衛生設備を施して、國家又は團體の一般的保健方法を講じ、更に、個人に向つては、衛生上不合理の行爲を禁止すること益々頻繁ならんとするので

ある。今や、文明國として保健法の備はらざるは莫く、衛生局の事業は國務中の重大なる地位を占むるに至つたのである。獨り我邦にては、保健法として一般國民の健康狀態確保に適用すべき法律さへも無く、唯、傳染病取締規則、其他、病者取扱、藥業取締等に關する病氣發生前後に關係ある法律が纔に適用さるゝに過ぎない殊に、地方廳の衛生官に至りては、其權能至つて小さく、到底、現代文明國の衛生行政を遂行するようになつてゐないのは、寔に心細き狀態と謂はねばならぬ。

現時の衛生生理學の進歩は頗る廣き範圍に亙り、從來の如く唯醫術家の專問に屬する方面のみの考究を以て足れりとする譯にはゆかない。殊に、上下水道の設備、家屋建築取締、街衢清潔法、食料品檢査等の都市衛生に關する複雜な問題は、殆んど凡ゆる科學的能力を集中して之に應ぜざれば、決して滿足なる結果に達するものではない。故に、公衆保健の積極策として、各國の都市は、孰れも緻密なる衛生取締の法律を施行し、住宅の適當なる構造と其維持、住宅及周圍の排除を清潔にすること、住宅內外の害毒除去等を勵行し、一般的の非衛生設備を撤去せしむべき多大な權能を附與せらるゝのである

吾人の健康は、主として、住宅の構造と其周圍の衛生的設備奈何に因りて左右さるゝものであることは、今や一點の疑ひを挾むべき餘地無き時代となつたのである。古來大都市の死亡率は、田園農村の夫れに比して驚くべき程高率であつたけれども、近時都市住宅の設備漸次改良さるゝに從ひて其差益々小と成り、最近倫敦のセンサスの示す處に據れば、農村と全く差無きことを報じ、殊に、一部改良住宅區をのみ計上すれば、一般的農村よりも更に其死亡率の小なるを知ることが出來たのである。又、著しき實例に據れば、千九百年、英國倫敦の北部三十哩の地に建設されたる田園都市レッチウオースは其建設當初より上下水道其他の衛生設備を第一とし、漸次に住宅の建築を施工し、主として、現時の衛生學に順適する方法に據りたる結果、

千九百七年のセンサスを覽るに、死亡率は千人に付拾參人弱、幼兒死亡率千人に付九拾參人、結核死亡者は一萬人に付五人の低率であつた。之等は、僅に一例に過ぎないけれども、國民の健康狀態は、個人の衛生上合理的の節制以外に住居の境遇に因ること甚大なるものあることを示す實例は、數百數千を以て數ふることが出來るのである。

公衆保健法は、文明國民の生活向上を指導すべき大法典なるは此處に敷衍するまでもなきことなれども、我國一般に其法律の急要を未だ覺らざるかに見ゆるは、余輩の恒に不可思議に感ずる處である。國民の優勝なる發展の先驅を爲すものは、其健康狀態の好良なることであるを稽ふれば、我國現時の狀態は決して此儘に打棄て置くべきものではない。英國が公衆保健法を制定したのは千八百七拾五年にして、今を去る四拾二年前である。併し乍ら、是と相關聯し、職工住宅法を通過したのは千八百九十年にして都市計畫法が完成したのは、漸く千九百九年である。斯の三大法典は、相關聯して初めて文明國の民の居住を安全に確保し得るものとすれば、英國如き先進國も僅に今より八年前に至りて完全なる公衆保健法の制定に達したものと見られる。

我國は、未だ大体の公衆保健法さへ制定されてゐない。素より、個人個人の衛生思想は甚だ幼稚にして、何等保健法の急要を感ずるの聲さへも聞かない有樣であるから、斯る法律を施行するとも餘り効果は無いかも知れない。近時、結核豫防協會の目覺しき活動、中央及地方衛生會の間斷なき努力に藉り、大に一般士民の衛生思想を涵養しつゝあれども、未だ以て、一般先覺の士を陣頭に立たせるまでの緊張力を持たないのは、寔に嘆しきことである。公衆保健の大運動は、社會覺醒の第一警鐘である。斯の運動は、飜て法律と成りて現はれ、社會一般の改良事業の先驅となるのであるから、吾人は、如何なる專門家なるを問はず互に相提携し、大に社會に向つて其急要を叫ばねばならぬ。

貧民窟改造（住宅法制定）に就て

都市改良計畫の根本に觸るゝ急務の一つ＝歐米都市の貧民窟改造＝オースマンの計畫實行＝貧民窟住民の健康狀態と其居住＝グラスゴーに於ける一實例＝英國工業都市の貧民窟一瞥と其効果＝漸次脅迫されつゝある我都市住民の健康＝英國「職工住宅法」の內容＝我協會の細民部落研究と其希望

都市改良計畫の根本に觸るゝ事項數多あれども、貧民窟の改造は、最も急務なるものゝ一つである。其理由は、衛生上直接間接の危害を都市に蒙らしむること慨るべきものあると、更に都市將來の發展を妨げ、風紀の墮落を誘致するの虞あることゝである。歐米各國の都市は、最近四五十年以來凡ゆる方法を講じて貧民窟の改造を企てざるはなく、或は法律の力を用ひ、或は家屋公營を試み、孰も其結果を擧げつゝあるのは、主として上述の理由の下に努力したからである。併し乍ら、之を一方より觀れば、勞働階級の生活向上を合理的に强制したるような結果になるので、英國にては、主として社會政策の立場より其實行を期したのである。巴里や伯林にては其傾向なきにあらざるも。大体は都市の善化政策より來たるものと看ることが出來る。巴里がオースマンの計畫を實行して、今日の美しき都市を實現するまでに貧民窟を一掃し一般街路を擴築した費用は、實に五億萬圓に上れりといふを見ても、奈何に巴里市街の完備を考慮したかゞ想像される。

貧民窟住民の健康狀態は、普通中產以上のものに比し、一般に惡劣なることは殆んど知れ亘りたる事實なれども、之を以て一概に營養不良

にのみ歸すべきではない。素より個人衛生思想の幼稚なることが其原因の一部を成すならんも大体に於ては、其住居の境遇が彼等をして不健康ならしむのであることは、各種の實驗に於て明瞭となつた。

今、試みに、英國グラスゴー市に於て調査したる著名の一實例を擧ぐれば。兒童七萬二千八百人に就き、其家庭の生活狀態に依り之を四類に分割して、其發育程度を見た結果に據れば。

類別	身長（吋）	體重（封度）
第一類	男四三・六（女四四・三）	男五二・六（女五一・五）
第二類	四八・一（四七・八）	五六・一（五四・八）
第三類	五〇・〇（四九・六）	六〇・六（五九・四）
第四類	五一・三（五一・六）	六四・三（六五・五）

（年齢五才より十八才までの全平均）

第一類は一室を第二類は二室を第三類は三室を。

第四類は四室以上を有する家庭に在る者。

上表に據れば、最も貧しき一室家庭の子女は、豐富なる四室以上の家庭の子女よりも、身長五吋許體重十二封度内外小なるを見るのである。之れ全く家屋の住居關係に因るものにして、陰鬱なる小室に群居して、凡ゆる非衛生的の事情に暴さるゝ者が發育不完全なるを立證するのである。併し乍ら、營養不良が或程度まで、生活程度低き者の發育を妨げゐるかも知れないといふ懸念を生ずるのであるが、左の實例は明に亦斯る懸念の當らざるを證明する。

アークル博士は、リバプール市の學校生徒を四類に分ち、之を其郊外田園都市ポート、サンライトの學校生徒と比較した。

第一類は最貧民、第二類は職工階級、第三類は中流、第四類は上流、而して、ポートサンライトは主として職工階級の者。

		身長	體重
年齢七才	第一類	四四・〇吋	四三・〇封度
	第二類	四四・三	四三・〇
	第三類	四五・三	四四・一
	第四類	四七・〇	四九・三
	ポートサンライト	四七・〇	五〇・五

	第一類	四九・七吋	五五・五封度
	第二類	五一・八	五九・〇
年齢十一才	第三類	五三・一	六一・四
	第四類	五五・五	七〇・〇
	ポートサンライト	五七・〇	七九・五
	第一類	五五・二	七一・一
	第二類	五六・二	七五・八
年齢十四才	第三類	五八・二	九五・八
	第四類	六一・七	九四・五
	ポートサンライト	六二・二	一〇八・〇

（以上の二表はトンプソン氏著家屋政策教科書に據る）

アークル博士の調査より稽ふるに、リバプール市の最も富裕な生活を爲す家庭に於ける子女の發育よりも、近郊田園都市に於ける職工階級の子女の方が、却つて其身長体量共に優れてゐることを知るのである。ポートサンライトは、石鹸製造の成功者リバー氏が、其工場經營と共に、理想に庶幾き職工住宅を計畫して造りたる田園都邑にして、主もに衛生上の考慮を基礎として經營したものである。リバー氏の斯の計畫は、明に彼れが着眼の高尚なることを示すと共に、其成功は、單り彼れの誇りとすべきに止まらずして、一般都市住宅改造の急要を事實に於て證據立てたのである。

倫敦其他英國の工業都市は、其貧民窟の危險なる衛生狀態を看るに忍びず、竟に、千八百九十年『職工階級住宅法』を制定し、各都市をして、斷然たる貧民窟一掃計畫に着手せしめたのである。一体、英國にては、古くより公衆保健法を布かれたるが故に、各都市共多少非衛生的の障礙除去に就ては努力しつゝあつたけれども職工住宅法の通過に由り、初めて塲末不健康地帶の一掃を企て、大々的手術を施すの機運に達したのである。職工住宅法に據り、英國都市が貧民窟を買收したる費用は、千九百六年に至るまでに、既に二千二百萬圓以上に達し、其後漸次之を續行しつゝあるといふことより推定すれば、今日にては、或は四五千萬圓にも上つてゐるならんと想はる。而して、改良貸家の經營も着々成功しつゝあるけれども、未だ一般職工を全部滿足せしめる程度にまでは達してゐない。

倫敦が最近急劇に其死亡率を減じて世界屈指

の健康都市と成りし主たる原因は、貧民窟を一掃して公營長屋の經營を斷行した事に在るを知る者は、大都市塲末地帶の改造が都市改良計畫の根本であることを覺るであらう。都市住民の健康が漸次脅迫されんとする我邦現時の傾向を觀る者は、什うしても、其病根の一とつたる貧民窟の研究を怠つてはならぬ。現時我邦の行政組織は、貧民窟に手を着けることの出來ないような風になつてゐる。又、之が實行を擁護すべき法律も無いといふ有樣にて、上下擧つて之に手を觸れざるを原則とすれども、苟も都市住民の健康を確保せんには、其第一着として貧民窟の大改造に觸るゝことを順序とする。茲に於て乎、公衆保健法に尋いで住宅法の制定を望まざるを得ない。英國の職工住宅法は、其目的が、善良なる職工階級の人々に向つて、低廉なる而も衛生上合理的の居宅を供給するに在れども、其前提として、塲末の細民部落改造に關する法律を包含する。即ち、其法律は左の七編より成るのである。

第一編、大部落改造法、第二編、非衛生家屋、有害築造物及小部落改造法、第三編、職工住宅新設法、第四編、總則及法律上の手續、第五編蘇格蘭に適用する法、第六編、愛蘭土に適用する法、第七編、反訴及臨時法。

我關西建築協會に於ては、差し當り、大阪市内に於ける細民部落の狀態を研究せんと企て、既に南區の關屋町より其家屋の實測を始め、衞生上奈何に不合理なる生活を爲しつゝあるやを具体的に調査し、其救濟法より惹いて根本的改造の案を樹てんとしてゐる。併し乍ら、其實行は到底一協會の爲し能ふ處ではない。されば、輿論の後援と法律の制定が出來上り、都市行政の機關が其處まで延び來るときに斯の實行が初めて可能なるべきことを考ふれば、斯の問題もまだ々々前途の遼遠なるやに思はれる。吾人は其前途の遼遠なるに慴れて斯の問題に蓋をすることを好まない。飽く迄も熱心に細民部落改良の急務を叫ぶものである。



住宅問題

住宅に關する時代觀察

我國の一般社會は、建築に對する觀念甚だ幼稚にして、所謂智識階級たる人士さへも誤られたる建築觀を持する者多く、文明程度の計量器として視らるゝ各種の新築建造物が、一般に低級趣味にして、而も現代の科學應用を無視したような傾向なきにあらず、殊に、住宅に於ては其程度更に一層著しきものを發見するは、寔に嘆はしきことである。近時、都市の發展に尋いで、衛生思想の普及、交通機關の便利等は、漸次に、郊外地に住宅を建築する者を多く生じ一面より觀れば、著しき進歩のように想はれるけれども、少しく其事情を研究せん歟、上述の如く科學的設備を無視し、趣味の向上を欠きたる跡歷々たるものあるを發見するのである。之を一概に論ずるとは出來ないが、其現はれたる欠點の概要を列擧すれば、

一、迷信に因る誤想の爲に地の利を十分に應用する能はず

一、衛生工學の智識を欠ぐ爲に其設備を怠ること

一、外界との關係を稽へず孤獨に其設備を爲す爲に住宅地として近隣が相互に受くべき利益を受けざること

一、構造上及設備上の新智識を深く應用せざる

こと等にして、其因て來る根蒂は、畢竟、住宅の如き複雜なる問題を、素人觀の單純なる思想を以て解決せんとするからである。固より、個人の生活狀態に適合せしむる爲に配置を按排するには、住居すべき主人公の考を基礎とすべきは勿論にして、主人公としては、十分に其要求と理想を述べることは必要の條件なれども、自ら建設主即ち設計主と成り濟し、御出入の大工を頤使して以て虛榮心を滿足せんとする者多きを見る時は、現代の我國一般人士の浮薄を感せざるを得ない。之を一種の成金式と見れば閒支へ無しといふものゝ、所謂上流の紳士階級にも却々斯の手合ひの少なからざるを傳ふる者がある。我國現時の住宅が、混沌として少しも新時代の形態を具へず、科學的應用の不十分と趣味の雜駁なることを特徴とするは、奈何に過渡時代の常なりとは云へ、余りに慨然たる狀態である試みに、東京や大阪附近の上流紳士の邸宅なるものを視よ、純粹なる書院造りの日本式家屋の傍に、歐米式バンガローの如きものゝ附屬し、廊下を以て之を連接し、其孰れが本体なるやちよつと判斷出來ざるのが一般的の狀態である。墻塀及門の如きに至ては、其亂雜なること殆んど應接に遑無しといふも閒支へなく、四脚門に土塀、冠木門に板塀などは先づ無事とし、石墻を周らして鑄鐵の透し扉に煉瓦の門柱は、歐米式直傳と見らるべく、數寄屋造りの輕奢なる手法は、趣味の深きようにも見ゆれども、住宅と少しも釣合の取れざるものが多いのである。要するに、我國現時の住宅は、其服裝の如く少しも定見なく、全く素人觀に據り隨處に隨意に造られつゝあるといふを至當とすべく、其間に建築上の達觀したる思想を少しも見出すことは出來ない。然らば我國には建築技術家は我國現代の住宅に接觸せざるのであるか、又は、彼等の技能は未だ住宅問題を解決し得る程度に達せざるのであるかゞ疑問として殘る。

斯の疑問は、即ち吾々建築技術家の社會的存在を疑ふといふ意味であつて、建築家に對する一の刺擊であり又侮辱である。建築技術家なる者

現時の混沌たる我國の住宅に向つて相當の研究を爲し、各自其意見や計畫の眞義を發表し、一は以て社會に其範を示し、傍ら其計畫や意見の足らざるを互に相補ふことを努めねばならぬ。

英國及大陸の共同住宅舘

前英國王立建築學會副會長　エドウキン、チー、ホール氏

我國大都市の共同住宅舘は、近來漸く其必要を唱ふるに至り、紳士縉商の郊外住居に移る者の增加すると共に、益々之を要求するの趨勢である。殊に、關西地方の理想的郊外住居地は、西は住吉、須磨、鹽屋、或は明石邊に及び、北は、有馬、京都、石山にも達し、南は、濱寺、淡の輪、東は、奈良地方に迫ぶが故に、大阪又は神戸の中心に活動するには、什うしても、市中に適當なる共同住宅舘を要するのである。其內容に就ては他日詳論する積りであるが、今此處には、英國及歐洲大陸の都市に於ける近時の共同住宅舘の概況を擧げる爲に、前英國王立建築學會副會長エドウキン、チー、ホール氏の講演を掲げて其參考とする――（譯者片岡）

三四拾年前までは、倫敦にて住宅の共同舘（フラット）を看ることは稀であつた。其初て建築されたとき人々其充用を危むだのは事實である。然るに、其後徐々に斯の共同舘（フラット）內に於ける住宅の便利が承認されて、今日では、市中は勿論、近郊に至るまで既に建設さるゝようになつて來た。最初は、中流社會の爲に利用されたが、漸次に各階級に及び、殊に、近郊には、少數の室しか備へざる貳階程度の共同舘（フラット）さへ見出さるゝのである（譯者曰く、共同舘の利用は、少くとも四五階の建物となさゞれば、本當の經濟とはならぬ。貳階位の家では到底之を獨立して經濟と便利を兼ねしめる譯にはゆかないが、職工程度の住宅としては、必ずしも不可能ではなく、現に英國の近郊住居には可成多く斯の如き共同舘（フラット）を見受くるのである）現時、近郊共同舘の二階造りの

ものは、前庭に二箇の出入口あり、一は玄關より直に二階へ登るように成しある外に、後庭に上下し得らるる階段をも備へ　前庭は階下の占有とすれども、後庭は階上のものゝ使用に便するを普通とする。斯る住宅は、大体二箇の居間と臺所及二三の寢室を有し、貸間に住居するよりは大に落ち付きがあつて、職工階級のものには、幸福なものであることは云ふまでもない。

（譯者曰く、滿鐵沙河口工場附屬の社宅には、斯の式のものを採用し經營しつゝあり）上述の如き近郊の職工階級共同住宅館は、山師的建築師によりて建てられたるの例は多いのであるが、市中に於ける中流以上、共同館は、一流の建築士を煩すを常とする。然るに、其共同館の設計は、英國には日尚淺く、未だ試驗中なるの傾あれども、歐大陸には、既に古くより中流の住宅共同館に富み、之を比較研究するの甚だ有効なるを感じ、此處に其大体を論述する積りである（佛蘭西のアパルトマン及獨逸のウォーヌングは英國のフツラトと同じ意味である）各國共に其生活の習慣を異にするが故に、直接之を利用する譯にはゆかないが、互に其長所を採ることによつて受くる利益は、蓋し鮮からぬであらう英國に於て、フラットの流行し始めし一とつの原因は、近時盛に行はるゝ紳士の旅行熱より來てゐることは昭である。殊に、最近四五拾年以來ホテル生活を樂むの風は著しくなり、傲奢なるホテルの建設は大陸に最も旺にして、近時既に英國にまで及び、海水浴場避暑地などは、大ホテルの多く甍を並べて、其贅を競ふを看るのも、僅に三拾年以來の事である。

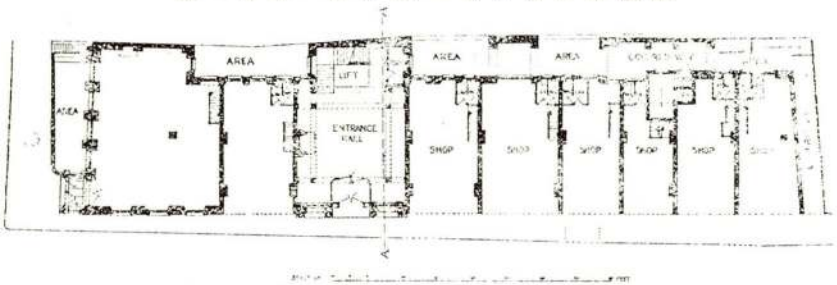
之等のホテルの大部は、富者によりて借り切らるゝフラットと少しも異らず。彼等富者は、從者を雇入るゝの煩累なく、家屋保督の雜務も無く、さながら自己の住宅の如くにホテルを利用してゐるといふ有樣である。斯のホテル占領がフラットに轉化するのは、纔に一步の事であるから、此處にフラットの必要が起つたのは、少しも不思議はない。而して、今では、初めの便利と流行となり一轉して、經濟と便利とを主

眼とするようになつたのは、一の發達と見るべきである。

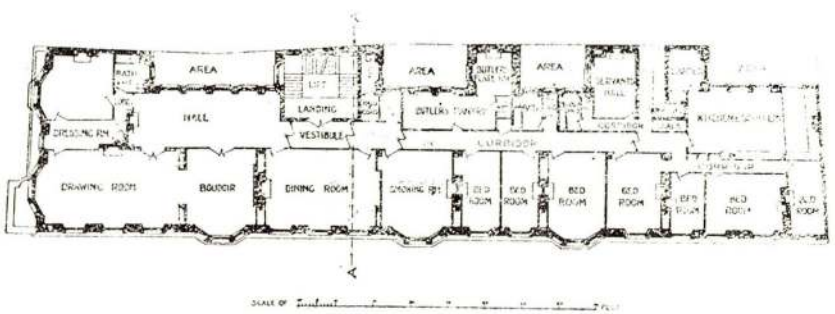
現時、倫敦にて既に建設されたフラットの多數は、奈何なる種類の家庭を目的とするやに就ては定つた考慮を費しては居らぬ故に、富者に對しては余り質素であり、中流の家庭に取りては廉價ではないと思はれる。併し之等の事實は、競爭に藉りて漸次匡正さるゝのは自然の順序である。

一体、倫敦の住民は、市街の雜踏を嫌ふの傾向著しく、巴里や維那の士民が好むで市の中心に住居を選ぶのとは、大に其嗜好を異にする都市中心の繁華なる小賣商店の階上に住ふが如きは、大陸に於ては普通事なれど

倫敦市ヒカヂリーのクルースタース館



壹階平面（銀行及店舗）

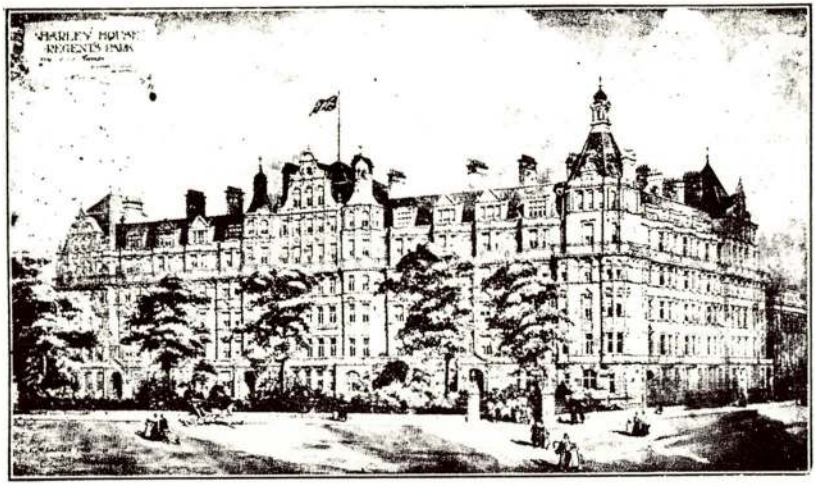


（用族一家ーもと階各でま階六）　面平上以階二上同
（24′5×19′5）室戲球　（30′×23′）堂食　（24′×18′）室人婦　（40′×20′）室客
ふ具を室浴の箇三・所臺室寢の箇八七・間廣・室煙喫外に
圓萬三至乃圓千五萬一年ーケ一貸家

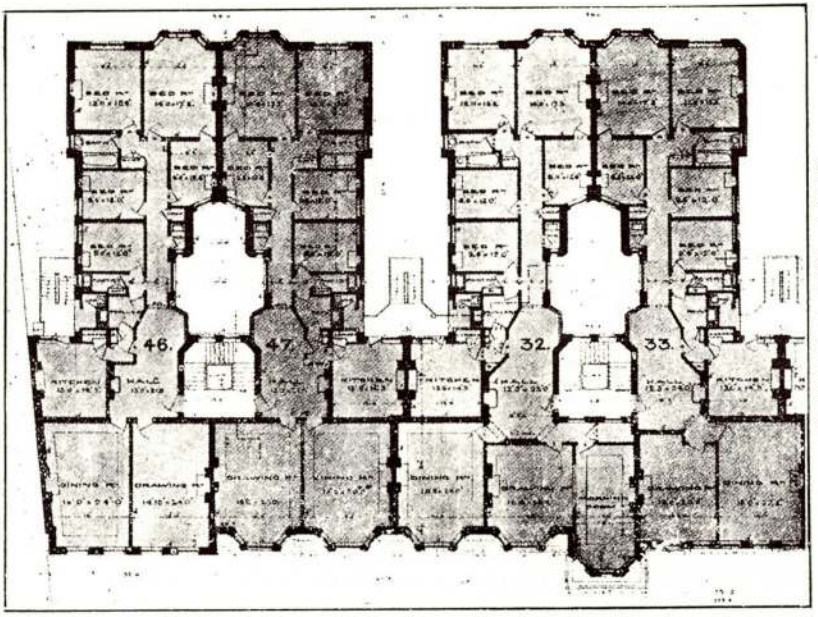
も、倫敦にては一般に嫌はるゝのである。併し乍ら、ウエスト、エンド、近き方面にては、一階は小賣店として利用され、住宅を其階上に見出すこと珍しくない。ケンシントンやハイドパークの附近に可成贅澤なフラットは既に建てられて、一部の人士からは歡迎されてゐる。ハイドパークに近き或るフラットの如きは、隨分贅澤なものであつて、主として富者の住宅に適し、一階を一家族用として廣濶なる廣間、四箇の應接室（又は客室）九箇の寢室及各種の事務室（臺處、配膳室等）を備へ、家賃は、一箇年千五百磅以上三千磅（一ケ月に付約千二百五拾圓以上二千五百圓）といふ不廉なものである。（圖面參照）英國にては、圖に示す如く、中流階級のフラットは漸次建設され、其家賃も一箇年二百磅以上一千磅程度の比較的低廉なるもゝ現出するは、全く時代の變遷と社會の要求とに由るものである。而して、其内容に就て、之を大陸のものと比較するに、少しも遜色なきを認めねばならぬ。大陸のフラットは、其表階段と從者用階段との配置宜しきを得ず、火災の時に對する避難口として十分に考慮されざるものが多いように思はれる。殊に、巴里にては、表階段は大低螺旋階段か或は部分螺旋狀を成し、恐劫の際には危險な逃路である。英國の官憲が什しても之を許さないのは、實際必要な取締と謂はねばならぬ。

又、大陸のフラットに於て著しき欠點は、料理部屋と從僕下婢室の狹隘なことである。大低の場合料理室は拾三呎乃至拾呎の大さを程度とし、或は是より以下のものを以て滿足し、隨つて、食器室、配膳室などにも重きを措かないようである。從者の寢室を殊更に準備せずして、最上階（主もに小屋裏）に置き、家族とは全然別になすか、或は料理室に連接する小室を以て之に充つるを普通とする。或は一例に據れば、可成上等の設備あるフラットに拘はらず、僅に四拾五平方米突の小寢室と七拾平方米突の料理室を備へるを見る。之等は、其配置に於ても又余りに狹隘なる點に於ても、非常に不健康な設

倫敦リゼント公園のハーレー館（此内に七十五箇の貸家あり家賃一ヶ年三千圓より五千圓まで）



全上平面圖（一家族用として客室一、食堂一、寢所一、寢室五乃至六、浴室一、）



備と謂はねばならぬ。

巴里のフラットに於ては、各階の家族の從者が最上階に共同生活を爲すことは、決して珍しくない。（支那の居留地にては斯の式の共同住宅が多いといふことである）而して、斯の便利なる方法は、近來英國にも感染して、最近にはフラットの家主は各階借家人のポーター（門番と取次）の義務と、共同の食事を供給する輕便なる遣り方を加味して來たのは事實である。斯の組織に據れば、定食（ターブルドート）の食事に滿足さへすれば、主婦の特別なる調理法に依る食事よりも却つて低價にして、家族の煩累を少くし、從者の數を減ずる等、其便利は大したものである。近來、斯の方法に據るフラットの流行は、漸次殷になりつゝあるといふことである。

フラットに就て最も主要なる問題は、實に、內部各室の配置であることは云ふまでもない。玄關廣間より階段及料理室等住居には直接關係なき部分と雖も、決して之を忽には出來ない。唯、住居の狀態に至りては、各國各地其習慣を異にする爲、唯之を單純なる科學的智識のみより見ることを許さない。巴里に於ては、客室と食堂又は、其他寢室等に於ても、二室の間に廣き出入口を造り、來客の際に之を共通として使用するを一般の習慣とすれども、英國にては、斯くの如き方法の好まれぬが如きは慣習の相違と見ねばならぬ。（譯者曰く、我國にては巴里式よりも更に一層各室共通を好むのである）又巴里にては、階段室の隋圓形なるは普通にして客室、食堂等の單純なる四角又は矩形なるよりも、角切り、八角、六角等各種の多角形の邊を全部又は一部に使用するを慣例とするのは、少しく佛蘭西住宅の配置を注意する人の識る通りである、云々。

名士の住宅觀

西洋風は應接部屋と書齋に其他は日本風

大阪醫科大學長 醫學博士 佐多愛彦氏談

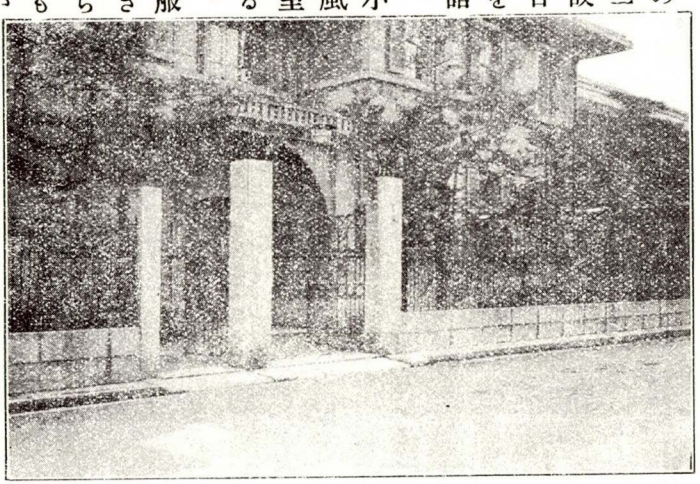
應接室と書齋は、西洋風に、板敷、椅子、テーブル使用を便利とする。殊に、書齋には、不燃質材料にて耐火的に出來た書庫を附屬せしめたい。一体、書齋は、賴山陽が唱へたやうに、狹くして居ながら其邊りの書籍を引き寄せることの容易き位が理想であつて、餘り体裁好きビカビカした大きな書齋は、實際役に立たぬ。又實際立派な書齋を新築し得るように達した年輩の人は、大低讀書慾から離れ掛けた人と謂ふも妨けない。

居間及家族用の室――は、主として日本風を便利とし、自分も全然之を以て滿足してゐる。其理由は、現時我國に於ける家族の生活狀態は西洋の夫れと異りて可成り多勢の者を收容するの要があるから、經濟的に室を利用するには、什うしても、日本風より外に途が無い。例へば女中の三四人、書生、下男又は親類及び親友の泊り客が來ることあり、老人も同居するの習慣なれば、其多人數が西洋風に宿泊せんには尨大なる住宅を要し、到底、現時の貴族ならざる斯る程度の人には不可能の注文である。故に、經濟的に部屋を利用するには、日本座敷を隨一とする。客室も食堂も寢室も凡て是を流用し得て主人も場合に依れば友人と同室に寢ることも出來る等融通の利くこと此上もない。子供が殖へても、亦大して設備を增すの要なきが如き、到底、西洋風の住宅にては及び難き長所である。

又、自分の居間は、日本風の座敷にして、家族の部屋に近く、又、西洋室にも遠からぬを理想とし、手紙を書くとか其他の小雜用を此處に

て便じ、書齋は讀書及研究に從事するときにのみ使用するようにしたい。

理想――要するに、現時の我國に於ける狀態にては、二重生活は當分脫し得ざるが故に、理想として、西洋舘と日本風の住宅とを有し、其間を便利に聯絡せしめて、西洋舘の方は、應接、表向き書齋、食堂(西洋風)便所、浴室、小寢室二つ許りを有し、日本風の方には、居間と家族用諸室を造り、兩樣を巧に使用するより外に途なきものと思ふ。椅子を用ゆる習慣と、日本服又は西洋服の改良は望ましき事なれども、何時になつたら實行出來ることやら、何とも考へは付かない。衛生上とか實用上とかより其改良の出來るのは、實は六ケ敷事にて、寧ろ、形式上とか風俗の虛飾的流行等より其變遷を來す方が早くはないかと思ふ、云々。



佐多氏邸宅

居間其他は一切日本風に書齋と應接室は西洋風を好む

大阪毎日新聞社長

本山彦一氏談

居間其他は一切日本風なるを好めども、書齋と應接室は西洋風なるを便利と思ひ之を實行してゐる。自分は、目今海岸に住宅を構ふれども、老人の爲に適當なるを思ひて此處(濱寺公園羽衣の松の東方)を選定したのであつて、自分の爲には山地の方が更に好ましいのである(記者曰く、本山氏は有名なる旅行家にて、年中旅の不自由に

慣らさるゝ爲、住宅に就ては多く拘泥する程神經的の人ではない）煖房の方法に就て色々苦心し、老人の居間には朝鮮式の溫突を設備し、大に好果を收めてゐる。菊池常三郎氏は、更に一歩を進め、露西亞式のペチカを裝置して好良なる成績を收めてゐるさうであるが、何れにしても、燃料經濟と室內溫度の平均に調節宜しきを

居間及家族用は日本を良しとし應接室と書齋は西洋風が可い

理想としては、應接室及書齋を西洋風と成し居間及家族用は日本風で十分である。自分は、未だ研究中に屬して其理想を實現し得ないけれども、住宅は餘り廣く大きいのは好ましくない。比較的狹くして便利よきやうに造りたいと思ふてゐる。室の設備に就きても、自分の是まで見來りのものは餘り感服出來ないものが多いか

先づ住宅地の選定から考ふべきである、室は疊敷の日本風に應接室と書齋に椅子を使つてゐる

住宅地の選定は先づ第一に考へねばならぬ。

得るとは大に便利のものと思ふ。殊に、室內には少しも火を用ひないから、清潔にして氣持好きことは大に推奬すべきものである。（朝鮮の溫突は、室の構造を少しく注意すれば其利用甚だ輕便なり、今後住宅を造る人には大に其利用を爲すべきものならん）

箕有電鐵社長　平賀敏氏談

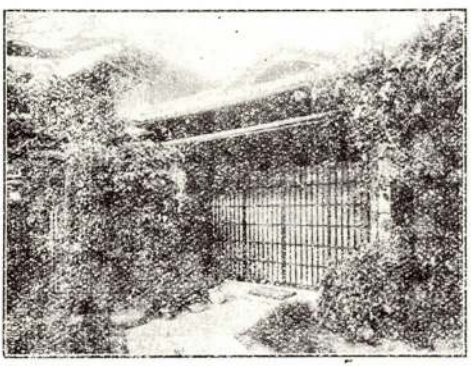
ら、何とかもう少し改善の方法を講じたい。室の煖め方や臺處の配置等は色々の遣り方があるならんが、其最も理想に庶幾きものは容易に書き出し得ない六ケ敷問題である。何れもう少し研究して相當の具体的考案を得る考である、云々。

住友本店支配人　小倉正恒氏談

土地の高燥なること、水の便利なること、及地

相の向き等に注意して、然る後、建築を爲すにも、常風の關係に稽へて、雨の吹き付ける處は奈何に仕末するかといふ處まで行屆かざれば、實用上不適當な住宅となるのである例は、屢々看る處である。

扨て、住宅の内容は、自身の趣味からも又經濟上の關係からも、全然、疊敷きの日本座敷を好む。唯、書齋及應接室は椅子を使つてゐる。而して、書齋に就ては、自己の趣味として、全然一般の人と異つた方法を採つてゐる。其方法は、室の周圍に成る丈け多く書棚を作り、凡ゆる書物を手近に置き疊敷の上に日本風の机に倚れて、十分に落付きながら精讀が出來るように成し、椅子に掛つて遣る仕事は、唯手紙を書くとか、其他一と通りの雜用に過ぎない。床の掛物を賞翫しながら、純日本流に靜座を爲すことは、一種奥床しき心地のするものである



小倉氏住宅入口

と思ふ。故に、應接とか食事を爲す場合とか、手紙を書く場合とかの外は、大体日本趣味を尊重するのである。

又、自分は、純西洋風の應接室を造りたいと思ふて、現在の建物に增築する考である。從來經濟的に使用し來りし應接室は、疊敷の上に椅子テーブルを置く方法なれども應接室としては、何んとなく十分ではない。什うしても、全く西洋風にした方が便利なようである。食堂も現在は疊敷の上に机樣のものを用ゐれども、椅子テーブルを用ゐる方が更に便利にして實用的なるが故、增築の方にも西洋風食堂を設ける考である。室の全体の配置は、客室を北向とし、居間其他家族用のものは南向と成し、書齋は殊に北向を選ぶ。其理由は、十分に精神を落付けて靜思するに南向では多少陽氣過ぎるからである

書齋、應接室の冬期煖房法としては、煉瓦で積み上げた西洋風の煖爐を用ひてゐる。石炭の赤い火がロストルの上にてちらちら燃へるを看ながら、室の温か味を覺へる處に得も云はれぬ愉快を感ずる處は、全く西洋趣味にかぶれた點であるが、之を疊敷の室に應用してゐるのは他に餘り例の無い處なれども、實際遣つて見れば大した不調和なものではない。

又、生活上の現時の複雜な狀態を漸次簡易に成す爲には、常に注意を拂つてゐる。けれども未だ適當な方法を見出し得ない。唯、自分は、成るべく洋服を以て間に合せ、家庭にて靜座するときに麁末な和服にて滿足するが如きは其意味から考へたのである。

郊外地の住居は考へものなり
我國の家庭生活を容易にしたい

日本銀行大阪支店長

麻生二郎氏談

自分は借家住ひであるから、餘り深い研究は積むでゐないけれども、大阪邊りでは、矢張り郊外住宅の方が心地よいと思ふ。東京では、麻布、赤坂邊にては十分住宅らしい地處があるから、必ずしも郊外に住宅を求むるの要は無い。寧ろ、郊外の澁谷邊りでは、道路の不備、生活上要件の缺乏等多く、却つて、不便を感ずるのである。一体、家庭の關係を稽ふれば、市外生活は餘程考へものである。第一子供の敎育、醫師の遠近、日用品の普及等は、郊外にては決して思ふようにゆかない。之等の諸點を十分に注意して、其缺點なき地を選ぶことが緊要である自分等の如き子供の多い者は、實際郊外生活には適しないかも知れぬ。

私は、我國の家庭生活の複雜なるを何とかして簡易にしたいと恒に考へてゐる。けれども、過渡時代の二重生活を全然脫することを得ない以上、色々な矛盾があつて、到底遽には實行出來ないが、其二三の氣付いたことを擧ぐれば、日本風の座敷の椽側の如き手の掛るものはない

其椽側にドテラを着て日向ぼこりを爲すが如きだらしなき生活は、世上恒に看る處なれども、西洋風な吹き離しのヴエランダーに藤椅子に懸つて新聞でも讀むといふ簡明な習慣を、漸次養ふことが必要ではあるまいか。將來は、普通の家庭にて、現時の如く多數の女中を使用して日々椽側を拭ふが如き不經濟な生活は出來ないと思はねばならぬ。又、疊敷の日本座敷其ものが既に贅澤にして、手の掛ること夥しい。之等も板敷にしたら可い譯であるが、實際は娘が嫁入衣裳でも着た時分に裾を曳摺するよの出來ない不便もある。兎に角、今直ちに西洋流な簡易生活の習慣を實行する譯にはゆかないけれども、其實行の出來る方法を考ふることは、實際必要な事である。

私は、嘗て、名古屋在住の際、社宅の平面を考案したことがある。其方法は、西向きの玄關から右手の棟を居間、臺處、子供の部屋と定め各室全部南向きに成し、南北に風通りを良くする爲、二室を襖仕切りにて脊中合せに南北に椽側を付けた。又、玄關より左手は客室にして、北向の座敷とした。約り、各室とも、實用上最も便利なことを主義とした爲に、各室の聯絡甚だ惡しく、專門家からは、下宿屋のようだと批評されたが、大体自分の主張せる意味は失はなかつたのである。

◆家◆

家の造りやうは夏をむねとすべし。冬はいかなる所にも住まる。暑き頃わろき住居は堪へがたきことなり。深き水は涼しげなし、淺くて流れたる、遙に涼し。こまかなるものを見るに遣戸は部の間よりもあかし。天井の高きは冬寒く燈くらし。造作は用なき所をつくりたる、見るもおもしろく、よろづの用にも立ちてよしとぞ、人のさだめあひ侍りし。

（徒然草）



都市と建築

東京の市區改正に就て

都市研究生

▲都市の建築と其拘束▲都市の街路系統と其幅員▲東京市の市區改正▲市區改正の事業は永遠の問題▲市區改正の第一要點▲不合理なる幹線街路の選定と未熟なる街路系統の計畫▲東京市區改正の最も著しき欠點の二三▲都市街路の交通量激增▲我三大都市の交通量紐育市に於ける交通の頻量▲東京市は幹線鐵道終點驛と街路系統との聯絡に失敗▲奈何にして之を救濟すべきか▲紐育市交通機關乘車延人員▲大阪市電乘車人員

現代に於ける世界各國の都市は、大小の別なく殆んど一齊に其建築に十分の拘束を加へ、以て其都市の改善を企てざるはない。其成果は、必ずしも豫期の如く運ぶといふ譯に行かざるまでも都市の發展に伴ふ各種の危險災害を除く點に於ては、十分に其目的を達して居るのである。而して各種の拘束の內容と最も重大なる關係を有するものは、其都市の街路系統と其幅員である。

近時我國の都市も、漸次、文明都市たるべき設備を施さねばならぬ時機に達したのであるから何とかして、其街路系統の計畫を確立し、其幅員を定め、漸次に其改造に從事せねばならぬのである。東京市は、明治二十一年以來疾く既に市區改正條例に依り市區改正委員會を組織し、前後二十五六年に亘り二千八百萬圓を投じて、街路の直通と擴築を實施したけれども不幸にして、現代の大都市としての街路系統を深く研究せず、部分的に拘泥した爲か、現在に於ては何等見るべき成績に達して居ない。之を巴里市が奈破倫三世の時オースマン氏の立案したる計畫に據り、五億萬圓に近き大金を投じて、現時の如き美しき巴里市を造り出したるに比較する譯には行かないけれども、亦餘りに遣り方の散漫たるに驚かざるを得ない。抑も市區改正の事業は、其都市の永遠の問題にして、唯一時現在の不便を部分的に除去するを目的とするようでは寧ろ、手を着けざるの勝れるに如かない、所謂「帶には短く襷には長し」と云ふべき結果になるのである。

一体、都市の交通大幹線は、人體の血行大動脈と當に相一致すべき性質のもので、交通量の最大にして最も重要なる脈路であり、漸次、第二次第三次の交通路に連絡し、此處に都市全体の圓滿なる交通を遂ぐるのである。故に市區改正の第一要點は、其都市の大動脈たる幹線道路の選定と其系統配置の計畫でなくてはならぬのである。若し、其幹線街路の選定にして、不合理なるか、又は、其街路系統の計畫未熟のものなりせば、其市區改正は、遂行の曉にも何等都市の發展を助けないのみならず、更に第二の改造を俟たざれば役に立たぬのである。我東京市の市區改正は、正さに其著しき實例であつて、近來漸く改正を遂行した許の街路系統が甚しく不合理にして、更に大改造を施すにあらざれば到底、人口數百萬の帝都としての內容を充實し得ざるのである。余輩は、理論的に又統計的に現在東京市區の系統を批難するの勇氣なきものである。何となれば、我東京市の市區改正委員

會の組織を見れば、到底、現代の都市發展の計畫をなし得さること明白にして、之を追亡的するこの餘りに殘刻なるを覺ゆるからである。我東京市は、今後の大計畫を立つるに際しては從來の失敗に鑑み、其委員の組織に大變更を加へ、都市計畫の專門家を聘して、市永遠の爲に十分なる考慮を要するのである。少しく蛇足の嫌あれども、左に東京市區改正委員會の組織を擧く、

內務省高等官三人、　大藏省高等官二人、
陸軍省高等官二人、　海軍省高等官一人、
農商務省高等官一人、遞信省高等官二人、
警視廳高等官一人、　東京府高等官一人、
東京市吏員　一人、　東京市參事會員二人、
東京市會議員十人、　臨時委員若干人、

外に、警視總監、東京府知事、東京市長は、定員外委員として會議に列席し、決議の數に加はることを得、

（內務大臣の監督の下に、內閣の認可を受けて、議定したる設計を公告す）

余輩は、上記の委員連が二拾年間に亘りて遂行したる東京市區改正の最も著しき缺點の二三を此處に指摘して、將來の大計畫の參考に供せんとするのは必ずしも無駄事ではあるまい。

由來、我東京市の街路系統は、江戶城と大名屋敷本位の都市たりし關係上、商工業の活動の爲には、殆んど凡ての利便を欠ぐのであつて、一朝一夕に都市の市區改正を系統あるものに立て直すことは、蓋し困難である。併し乍ら、品川より京橋、日本橋を經て上野に到る大幹線は商業中樞區として既に交通の要路であつた關係上、將來も斯の幹線は帝都の最大重要の大系として取扱ひ、他方面より來る幹線と適當に交叉せしめ、其交叉點に中心點たるべき設備を加ふるの根本計畫たるは、少しく都市計畫の何たるを識る者の必ず思ひ泛ぶ處である。然るに、現在第一期市區改正の出來上りたる曉に、其根本計畫を逸して居るのみならず、大幹線たる銀座日本橋通りは、其幅員僅に九拾呎にして、中央に路面軌道の電車を走らし、一般の交通を危險

ならしめ、現在既に交通を制限しつゝあるものと見ねばならぬ。之を以て、奈何にして將來殺到し來るべき交通量の激增に勝へんとするやは敢て識者を俟つの要はない。

都市街路の交通量激增は、其都市の膨脹と其經濟活動力の增進とに比例するのみならず、幾何級數又はより以上の累進率を以て、促進するものなるは、歐米各國の都市が常に繰り返して嘗め來つた處であつて、我國の都市が獨り其趨勢を免るゝ譯には行かない。倫敦は、千九百〇三年より千九百拾三年に至る拾壹年間に人口の增加は百分の九に過ぎざるに、地下鐵道乘客は五割以上、路面軌道の乘客は十割以上又、乘合車の乘客は九割以上を增し、倫敦全体の交通客は約六割八分を增したと云ふことは、倫敦交通協會の發表する處である。又、紐育市役所の調査に據れば、千九百拾一年度に於ける大都市の市內交通機關が運搬したる乘客は（幹線鐵道乘降客を除く）

倫敦	拾六億五千九百萬人
紐育	拾壹億五千萬人
維那	八億八千六百萬人
伯林	七億六千萬人
巴里	七億壹千五百萬人
市俄古	六億五千九百萬人
費府	四億六千七百萬人

にして、我東京市が、路面軌道に便りて運搬さる乘客は、現在貳億五千萬人を下らず。而して之等の數字は、奈何なる比例にて增加し來るやを稽ふるときは、都市街路の系統と其幅員の如き、決して苟且なる計畫を許さないのである。若し、我東京市が、十年後に人口參百萬にも近つき、市內交通機關が七八億の乘客を運ばねばならぬようになつたときに、現在の街路系統と其幅員等が適當のものとして役立つや否やは、特に考を繞らすまでもない。我國の都市は、現在は、人口の割合に交通量少きも活動力の充實を圖るに連れ漸次其分量を增すことは、十分に之を推定し得るのである。左に大正三年度我國三大都市の市內電車乘客延人員を揭く。

		人口一人に付一ケ年
東京	二五七、〇九八、六二七人	百貳拾八回
大阪	一九〇、二四九、六六四	七拾八回
京都	二二、九四六、〇八三	四拾回

紐育市の調査に據れば、市內軌道及鐵道の乘客は、其便利を增すに從ひ漸次其濃度を增し、千八百七十年頃は、全市民人が一箇年に乘車すること百四拾七回に過ぎざりしが、現在は、一人一箇年約參百參拾圓以上となつたのである。若し、東京大阪が、紐育市民と同じ比例に乘車するに至らば、現在の人口が少しも增加せざるも其乘車延人數は

東京　六億六千萬人

大阪　四億九千五百萬人

といふ數字に達するのである。況して、人口が數年の後には幾割かを增して居るのであるから斯の數字よりも更に大なるものとなることは、必ずしも一空想に終るものではない。

斯くの如く觀察するときは、市內交通量の增加は、東京の大道路にては、數年ならずして現在の倍數に達するものと見ねばならぬ。若し其交通を十分に疏通せんとせば、銀座日本橋通りは先づ其幅員を百二拾尺級以上のものに擴張するか、又は、路面軌道を廢止するかの二途あるのみである。世界の大都市は、都市中心地たる大街には路面軌道を通せざるを原則とし、殊に、倫敦は、其街路一般に狹隘なるが故に、中樞區域には全然路面軌道を許さぬのである。我東京市も、今の中に路面軌道を十分精査し、急速地下軌道を併用する案の研究を爲すこと最早其時機に達したと云はねばならぬ。

東京市が、幹線鐵道終點驛と街路系統との聯絡に重きを置かざりしは、又實に甚だしき失敗である。現在の東京停車場は、恰も通過驛の形態を備へ、鰹鮫數丁の間、偏平なる建物とプラットフォームと相並行して、商業中樞區域たる銀座日本橋通りと丸の內を遮斷し、鐵道乘降の不便は一と通りのものではない。現在既に其不便に對する批難の聲殷なるに見ても、將來の帝都發展を阻害することの甚大なるべきは、想像に剩りあるのである。然らば、奈何にして之を

救濟するや、是れ、今日の重大なる問題である余輩の見る處に據れば、現在の停車場の位地を十分に活かさんとすれば、勢ひ建物を或程度まで取毀つか、又は、大改造を爲さねばならぬ。而して、其適當なる地位を求むれば、馬場先門通り又は大手門通りを正面として、建物は之に並行し、線路と直角に配置さるゝならば、理想的の停車場となるのである、其實行には色々の困難は伴ふにせよ、直ちに幹線街路と聯絡を保ち得る點に於て、是非とも必要の改造である。人或は中央線との聯絡を云々する者あれども、之れ東京市を以て一田舍の都と同一視するから斯かる事に腐心するのである。上野停車場及中央線とは、高架又は地下の一線路を以て聯絡せしめ置けば十分に足るのである。乘客は、東北方面より來る者を必ずしも丸の内まで乘り込ませるの必要はない。唯、貨物の急速なる聯絡の爲には、聯絡線を計畫すること必要なれども、乘客の聯絡は、終點驛たる東京市に於ては敢て之を神經に惱むの要はない。要するに東京市は東北や中央線の乘客を丸の内に乘込ましむることの計畫に重きを置く前に、東京驛の配置を街路系統と全く調和せしむるやうに計畫せねばならぬ。都市改造の根本は、鐵道終點驛と幹線街路の一致せる系統を要求するのであるから、東京市は、其將來の爲に現在の東京驛大改築の計畫を立て、全時に、幹線街路の擴築、都市中心地點の設備を考究し、以て文明都市としての價値を發揮せんことに努めねばならぬ。

紐育市内交通機關乘客延人員

（紐育、市内高速交通會社の報告なり）

譯

年次	延人員	一人に付一ケ年間の乘車回數	内 馬車	内 路面電車	内 高架軌道	内 地下軌道
一八七二年	一三八、七三一、九六	百四拾七回	一三八、七三一、九六	——	——	——
一八八二	二五〇、五一〇、八三	二百拾五回	——	——	——	——
一九〇六	八六六、六六一、二〇六	貳百九拾八回	——	一六四、一四九、八〇三	八六、三六一、〇二九	——
一九一六	一、二〇一、〇六七、七〇九	參百參拾貳回	——	四四〇、九四四、八二〇	二五七、七九六、七五四	一三七、九一九、六三三
			——	五一七、三一五、五九五	三一二、三四六、七五六	三七一、一五〇五、三一八

大阪市電車乘客延人員及東京京都との比較

年次	乘車人員	一人に付一ヶ年の乘車回數	他都市との比較 東京	他都市との比較 京都
大正元年	三、一〇四、九四	—	—	—
同二年	一〇七、三二、八三五	—	—	—
同三年	一〇九、二四九、六六四	七拾八回	二三七、〇九八、六七六（百廿八回）	三三、九四六、〇八三（四拾回）

都市建築の取締

▲文明國の都市に於ける建造物の法的拘束▲都市の建築を拘束する標準▲英國の都市計畫法業▲大產業主義及カルテル主義と都市計畫論者▲オースマン男爵の都市計畫▲都市建築取締の二方面▲建築法規制定と他の法的關係

文明國の都市は、一定の法律に據りて其建造物を拘束せざれば、現代の要求に一致することは出來ないでのある。歐米各國の都市は、近代の初より建築條例や衛生法を發布して頻りに之を取締り、以て、漸くに現狀を造り出し得たに過ぎない。若し之を現今の要求より云へば、まだ〳〵不完全のものであるけれども、建造物の如きものは、そう手輕に改造亦改造と朝令暮改を爲し得るものではないから、餘程手廻しよく之が建造物を拘束し、其改造を命令して置かなければ、其計畫通り實施さるゝことは出來ないのである。現代の文明は、國民一般の健康狀態を良好ならしむるを凡ての施設の基礎と爲すようになつて來たことは、今此處に評論するを避

くるけれども、都市建築の拘束は、第一に保健上の見地から之を立要せねばならぬ。第二に現代の都市は、内外の交通聯絡漸次に其瀕度を増して其止まる處を知らざらむとするに際しては其街路の設備、交通機關の整理を奈何に爲すべきやの問題に到着せざるを得ない。唯一部分の改築を以て其激増せる交通を處理せんことは、到底不可能なるが故に、都市の交通統系の大改造を斷行せねばならぬ時代は既に業に到來し「都市計畫」の叫びは、世界の都市を通じて響き渡つてゐるのである。都市計畫を舊市街の全體又は一部に亘りて斷行さるゝことは甚だ重大なる問題にして、其實施には凡ゆる困難を冒しても尚且つ及ばざらんとするのであるから、國家は餘程強き法律を制定して之を助け、都市住民の公共心と相俟つて其成功を期するようにせねばならぬ。奈何にも個人主義の強き英國に於てさへ今より八年前即ち千九百九年に都市計畫法案を通過して、之を國法としたのである。其内容に就ては之を徹底的のものといふ譯にはゆかないまでも、新規の街路を造る際には、全く完全なる繩墨と成つてゐる。又、亞米利加紐育州の如きも、一千九百十三年に斯様の法律を制定したのである。

交通政策の爲に都市の小部分又は大部分に亘りて改良計畫の必要を感へるのは、現代都市の最も著しき特徴にして、獨逸の都市は、最近二三十年に始んど其爲に大改造を爲さゝるものなきの狀態である。大産業主義とカルテル主義は都市の經濟的活動を益々殷盛ならしめ、都市の對外交通及内的交通の分量を急激に離進せしむる斯の近代傾向は、奈何なる保主守義者をも都市計畫論者たらしめねば止まぬのである。今より五十年前に、オースマン男爵が、巴里市長として計畫したる都市計畫は、果して交通激増の現時を豫想した結果であるか什うかは甚だ疑はしいけれども、シャンゼリゼーの廣道やコンコルドの廣場等は、今日では丁度適當なる文明都市の模範街路と看做されてゐる。然るに、其當時は過大なる計畫として餘程批難されたるが、

幸に、巴里市民の歐洲第一の美的都市たらんとの自負心と一致して、斯の計畫は承認され、四十年間の日子と五億萬圓の大金とを費して、遂に現在の都市が出來上つたのである。

都市計畫を大綱とせる都市建築の取締は、之を二つの方面より觀るの要がある。即ち、

一、外觀の整齊と統一せる建築界の發揮

二、構造の最下程度を制限すること

を主眼とし、或地區を限りて、特種の建物のみに其建設を許すとか、大通りと塲末との間に標準を變選せしめ、都市全體を尨大なる一有機物的取扱を爲すことを理想とするのである。丁度動物の脊推骨を中心として各部が整齊を保ち、大動脈が各局部の小動脈及細毛管に連絡し、一齊に適當なる活動を爲すが如き仕組と成すを以て、都市發展の第一義と做すのである。都市建築は正に其筋肉に相當するのであつて、其優秀なる健康を增進するには、各局部夫れ夫れ適當なる程度に發育さるゝを要するのである。活動の大なる部分と、僅少の勞役に服する部分とが同程度に組織さるゝは却つて無意味にして、其輕重緩急の程度に依りて、其大小强弱が適宜に按排されねばならぬのである。都市建築の取締に於ても、斯の道理は何處までも尊重すべきである。

吾人は、建築取締の行政的取扱に依りてのみ都市建築の完全なる發展を遂行し得るものとは思はぬ。併し乍ら、其取締が凡ての設備をして一定限度以下に落ちざることを保證するのであるから、都市行政としては絶對に必要のものであるを信せざるを得ない。若し、我國都市の如く、其建築に對して何等倚るべき制裁を加へざるに於ては、都市の體裁及實質は、全く烏合の衆團となるは明な話である。縱へ箇々別々に可成り其建築に注意を拂へばとて、都市全般より見れば、荒野雜木の中に散在する孤樹の如きものにて、決して森林として立つ譯にはゆかない。其體裁は勿論、自らの防禦さへも出來ないのである。之を實際に就て見るも、東京に於ける大通の家並は奈何に、又、其實質は奈何、中に

は堅固なる建築物を混ずるかなれど、一町に一とつや二つ許が、木造の鵺式建築の間に夾在してあるを看ては、却つて其無意味なるを感せざるを得ないような始末である。

都市建築の取締は、實に、文明都市として必然の義務である。と同時に、亦都市建設の第一義と謂ふべきである。然し、之を怠り、中古時代其儘の成行に委して顧ざれば、終には、拾收すべからざる亂雜不揃のものと成り、到底現代の文明都市として立つことの出來ない羽目に陷るものと看ねばならぬ。我國の帝都たる東京及び、經濟の中心たる大阪、斯の兩市を始めとして、其他の大都市は、一とつとして其文明的建設の方針に則りつゝあるものはない。唯、纔に警察命令として、單純なる建築取締規則を布告し居れるも、大体、中古以來の現狀を維持するを以て原則とし、文明式都市に適合せしむる理想は含まれてゐないのである。又、警察命令としては、都市建築の根本政策に觸れることの出來ないのは無理もない。茲に於て、吾人は、我國家の急務として、都市建築に合理的の拘束を加ふる一大法典の制定を望まざるを得ないのである。而して、建築法規は凡ゆる他の法制と關係を有するを以て、試みに之を圖解すれば、左の如き聯絡あるを識るのである。



即ち、文明都市の建設には、建築條例が其中心たるべきものにして、其根本には都市計畫の大傘を要し、交通系統と衛生設備とが其左右を擁護し、其間に在りて建設の理想を實現するものは、其建築なる事、今別段に詳述するを要せぬのである。都市建築に對する取締法令は實に我國都市の最大急務なるを重ねて此處に敷衍する唯、法律制定の方法及內容の問題に至りては別に之を論ずることゝし、此處には、其急要なることを述ぶるに止める。

都市の美觀と建物の色彩

凡そ奈何なる建物に在りても、其外觀の形相が色彩に依りて支配さるゝことは却々大きいのである。殊に、局部的の美醜を超越して其大体の觀相を左右する點に於ては、色彩の調和程大なる影響を與ふるものはない。例へば、等しき程度の建物でも、其表面が赤色煉瓦を張り付けてあるのと、白色煉瓦を以て包まれて居るのとは、觀る者に與ふる感想は、全然異樣のものと見られる。而して、斯る場合に赤色煉瓦の表面を適當とするや、或は白色煉瓦の方がより以上優れりとするやは、其建設者の趣味や設計者の考へに由るのである。けれども、之を唯個性を表現する一主觀體として取扱ふが如き審美學者的自由は、都市の建築設計には餘程愼むべきことである。一体、都市の建築なるものは、其内容こそ業務上最善の便宜を主とすべきであるが其外部に對する表現は、或程度まで其環境の調和に相當の貢献を爲すべき義務を有するのである。之を云ひ換ゆれば、都市建築にては、構造上に凡ゆる拘束を受くる以外、更に美觀上に於ても、相當の制裁を受くべきものである。即ち其設計に際しては、局部の手法を吟味して内容を最も調和よく外觀に現すことに努力すると同時に外面の色彩を奈何に取扱ふかといふ問題を十分に考究せねばならぬのである。之を我國に於ける都市建築の現狀に觀む歟、明治十年以來色々の建物が出來たけれども、其色彩に就きて環境との調和を充分に考へた者は餘り多く之を見ない。のみならず、近來に至り、其取扱方が益々閑却され、或程度までは墮落しつゝあるように見へるのは、甚だ面白からぬ現象である。吾輩は、今一々實例を擧げて其淺薄な態度を批難することを避け、唯大体に於て誤れる方針に向はざらんことを警告するに止める。

我國に西洋建築が移植されて以來、大膽に赤色煉瓦を表面に露出することを敢てしたのは、

舊文明破壞の時代としては何等怪むの要はないのである。之を我國民の自然的趣好として考へる者があつたならば、夫れは大なる誤りと謂はねばならぬ。我國の一般人士は、石質建築の表面が赤色煉瓦を以て飾られることを心から歡迎したか什うかは、之を想像出來ないことはない。唯、彼等は、先づ是ならば西洋風の移植として致方がないと承認したに過ぎないのである。又、我國の傳統的文明から稽へても、我國人士が一般に之を歡迎する道理が無いのであつて、寧ろ、困難を仕ながらでも、石材を以て積み上げた建築を歡迎するのは、蓋し當然の事である。即ち、我國の過渡文明期に於て、國民が一般に、古來見馴れたことのなき赤色煉瓦を嫌ひ、寧ろ、石材を表面に現す建築を歡迎したことは十分に之を諒とすべきである。併し乍ら、我國の狀態は、今日は何時までも過渡文明期として晏如たる時代ではない。寧ろ猛然自覺して新しき文明を建設すべき時期に達したのである。建築に於ても、古來の傳統のみを尊重するを容さぬのであつて、凡ゆる應用科學を基礎とし、現代の趣味を開發すべき時期にあるものと思はねばならぬ。若し、吾人が古來の傳統を離れて、石質建築の表面色彩を稽ふるときには、赤色の表面は、果して國民の趣味に反するものなるや否やといふに、吾人は、之を左程不適當のものと判斷する譯にはゆかないのである。唯、之を表現する程度と環境の調和とに十分の注意を拂へば、寧ろ、我國の將來都市建築を粧ふ主色として少しも差支が莫いと見るべきである。勿論赤色と一口に云ふも、其シックリとした落ち付きのある深みを呈する處の深紅と、緋威し色に劣らざる濃紅との間には、驚くべき差異を發見するのであるから、赤色を凡て主色とする概括論を承認するのではない。場合に依れば、茶褐色に近き赤色の種類は、更に其環境に適合するかも知れない。否、寧ろ、多くの場合、淡茶褐紅色の温か味を推奬するを思はしめる。

然るに、近來、東京其他の都市に於て、或る建築家は、赤色煉瓦を以て工場の標象と看做し

白色又は淡黄色の煉瓦を以て建物の表面を包むを上乗とすといふが如き態度を持し、猥に赤色排斥を實現せんとするは、果して奈何なる理由なるや、吾人は之を理解するに苦むのである。又、幼稚なる素人觀としては、過渡時代の反感を持續し、斯る無鐵砲なる建築圖案を歡迎するの傾向あり。兩々相俟つて、近時勃興する都市建築が往々斯くの如く誤れる方面に進みつゝあるを見るのである。

都市建築が、其構造上石材を以て積み上られ其石材の色彩を以て立つは、寔に止むを得ざることであるけれども、白色に近き石材は、素と元と建築の實体として餘り之を歡迎すべきものではない。我國の如き富士岩か花崗石より以外に建築石材の無き處にては、已むを得ず灰白色の石材を使用せねばならぬから、灰白色の建築も自然の産物として之を容れるを至當とする。併し乍ら、化粧煉瓦を以て修飾する以上、何を苦んで白色を主色とするやは、蓋し、疑問の餘地あること明である。殊に、黄色を主色とするものに至つは、唯一種の好奇心に驅られた結果ではないかと想ふより外に、之を理會し得ないのである。

之を都市全体の美觀より觀るときは、赤色必ずしも歡迎すべきではない。又、白色必ずしも之を排斥すべきではない。併し乍ら、都市建築の餘りに雜多なる色彩を混交して、其間に何等環境調和の意味を有せざるは、其結果として面白からぬは當然である。吾人は、我國今後に於ける都市建築の考案を爲す者に向つて希望する處は、餘りに主觀的偏見に陷らぬよう其色彩に相當注意を爲すことである。先年、丸の内の帝國劇場落成に際し一般批評家は、其白色の色彩に對して一齊に批難を浴せたように記臆する。然るに、上野の表慶館に對しては、白色石造の建築なるに拘はらず、餘りに甚しき批難の起らなかつたのは何故であるか。之等は、可成り吟味するに價値ある問題でなくてはならぬ。要するに、都市建築は、其環境との調和を尊重して十分に其色彩を攻究すべきものである。唯、赤

色を以て工場の標象であるかの如く考へ、無意味に之を排斥せんとする如き偏見を基礎としてはならぬ。又、同時に、赤色を以て都市建築の主色とせざれば美觀を發揮し得ざる如く考ふることも良しくない。其要諦は、汚が環境に適合することを覈へ、同時に、應用科學の進歩を十分に利用し以て、構造と美觀との調和を圖るべきである。

家屋問題——英國『リーズ』市の會合

（一九一六年十二月二日ビルヂング、ニユース所載）

戰後の家屋政策と都市計畫の問題とに關し、國民住居及都市計畫協會（コンヨーネル・ハウジング・アンド・プランニング・カウンシル）の主催にて、二日間（一九一六年十二月）リーズ市の市公堂に會合が催された。全會長 Rochdale（ロックデール）氏議長席に着き、ヨークシヤイア、ダービーシヤイア、ノツチンガムシヤイヤ及北ランカシヤイア諸州の各公共團體の代表者は夫々議席に着いた。

討議の末に、議長より政府への建議案が提出された其要趣は、各州に於て家屋不足の爲に一般の健康狀態を低下しつゝある現狀を、一日も早く救濟すべき計畫の强制的施設を政府に迫り、茲に藉りて、戰後建築界の事業閑散に因る勞働者の手明きをも調節せんとすると云ふのであつた。

更に、決議は進んで、地方官憲をして勞働階級住宅と適當なる地所を提供せしめ、十分に計畫を定め、凡ゆる準備を爲して、戰爭終結と同時に、一齊に工事に着手せんことを定めた。

A. W. Shelton（セルトン）氏は曰く英國に於て、千八百九十六年より千九百十年の間に拾六萬九千九百九十六軒（約拾七萬）の住宅が建られたるにも拘はらず、千九百拾一年より千九百拾五年までの間には（法律の發布された後）八萬七千六百五拾四軒しか建設されて居らぬ、若し人口の增加等

を稽ふれば、年々拾一萬四千のものが必要である筈である。即ち、是を詳しく稽ふるときは、千九百拾一年までは、法律の拘束無き爲に個人の經營が殷なりし結果であつて、現在、英國を通じて五拾萬弱の住宅不足は、日々二百軒宛增加しつゝある現狀で十分に救濟は出來るが、更に從來の法律を撤去せば個人經營の復活を來すにあらずやとの反對意見を提出した。

之に對して議長は辯明した、即ち、住宅公營の爲に更に地方官憲の權力を擴張し、從來唯都市計畫の方針と一致せる土地買收と住宅建設をのみ爲しつゝありし態度を推し廣め、一定の規格に據る住宅は誰にでも經營せしめ、又之に資金を貸與せんとする意味なるを敷衍した。

敎授S. D. Adshead（エスディーアドセット）氏は『住宅の標準は、漸次一定の形を成すに至りしも、道路の幹線施設等に就き、未だ十分其標準なきを說き、自働車道其他の設備を怠るべからず云々』

Dawson（ブラッドフォード市技士）氏は『全市は千八百六拾六年以來街路改良の爲に貳千貳百六拾四萬圓を費せり』と附言せり。

W. Holmes（ダブリューホルムス）（West Riding County Conucilの衛生技師）曰く『最近の調査に據れば、イングランド及ウエールスの過群の狀態は、都市は百分中七四にして、農村は六、五である、而して、ウエスト、ライヂングの分は一〇・九及八・二であるウエスト、ライヂングの都市には、人口百拾七萬六千五百八拾人（百拾七萬餘）住家貳拾七萬參千貳百貳拾九軒、其內、壹萬六千八百餘は過群住家である。（其人口拾二萬七千七百餘）又農村にては、八萬壹千貳百參拾四軒に對し、人口參拾七萬壹千〇六拾五人なり、內、參千六百貳拾貳軒は過群住居にして其人口參萬〇五百九拾六人なり、而して、全体を通じて、參萬貳千六百六拾參軒の二室家屋（一一、九%）ありて、其內、六千百七拾八軒は過群である』と。各種の統計を徵するに、一室乃至三室の住宅に於ける過群の著しき狀態は之を認めざるを得ない。成人したる子供を、男女同室に寢かしたり、親子同室に寢床を取り、又は、晝夜同室を使用す

るの例乏しからず。奈何に家屋缺乏の甚しきかこどや、晝夜同室を使用することは普通と思はれて居る）
は想像以上のものありと云ふ。（記者曰く、日本
の下級住居にては、成人の子供や親が同室する

◆遷都◆

治承四年の六月の頃、俄に都遷り侍りき。いと思の外なりし事なり。おほかたこの京のはじめを聞けば嵯峨の天皇の御時、都と定りにけるより後、既に數百歳を經たり。ことなる故なくて、たやすく改まるべくもあらねば、これを世の人たやすからず愁へあへるさま、ことわりにも過ぎたり。されどかくいふかひなくて、御門より始め奉りて、大臣、公卿、こと〴〵く攝津國難波の京に遷り給ひぬ。世に仕ふる程の人、誰かひとり故に殘り居らん。官位におもひをかけ、主君の蔭をたのむ程の人は、一日なりとも疾く移らんとはげみあへり。時を失ひ世にあまされて、期する所なき者は、愁へながらとまり居たり。

軒を爭ひし人の住居、日を經つゝ荒れ行く。家はこぼたれて淀川に浮び、地は目の前に富となる。人の心皆あらたまりて、唯馬鞍をのみ重くす。牛車を用とする人なし。西南海の所領をのみ願ひ、東北國の庄園をば好まず。

その時おのづから事の便ありて、津の國今の京に到れり。所のありさまを見るに、その地ほどせばくて、條里をわるに足らず。北は山にそひて高く、南は海に近くて下れり。波の音常にかまびすしくて、鹽風殊にはげじく、内裏は山の中なれば、かの木丸殿もかくやと、なか〳〵様かはりて、優なるかたも侍りき。日々にこぼちて、川もせきあへず運びくだす家は、いづくに作れるにかあらん、なほ空き地は多く、作れる家は少なし。故郷は既に荒れて、新都はいまだ成らず。ありとしある人、皆浮雲のおもひをなせり。もとよりこの處に居たるものは、地を失ひて愁へ、今うつり住む人は、土木の煩あることを嘆く。道の邊を見れば、車に乘るべきは馬に乘り。

衣冠布衣なるべきは直垂を著たり。都のてぶり忽に改まりて、たゞ鄙びたる武士に異ならず。これは世の亂るゝ端相とか聞きおけるもしるく、日を經つゝ世の中うき立ちて、人の心も治らず、民の愁遂に空しからざりければ、同年の冬なほこの京に歸り給ひにき。されど毀ちわたせし家どもは、いかになりにけるにか、悉くもとのやうにも作らず。ほのかに傳へ聞くに、いにしへのかしこき御代には、隣をもて國を治め給ふ。すなはち御殿に茅を葺きて、軒をだに整へず。煙の乏しきを見給ふ時は、かぎりある貢物をさへゆるされき。これ民を惠み、世をたすけ給ふによりてなり。今の世の中のありさま、昔になぞらへて知りぬべし（方丈記）



我校の生徒養成について

會員　藤本好雄演

（於十二月例會）

私は目下市立大阪工業學校建築科に教鞭を執つて居るものであります。先月大會の席上で理事の方より十二月又は一月の例會に何か喋ろとの御注文がありましたから、まあ年でも改まりましたら御話する材料の考へて見よう位思つて居りました處今晩是非やれとの嚴令で致し方なく茲に罷り出た次第であります。其故に諸君に御滿足を與ふる樣な御話はとても出來ませぬ又かゝる突然の時には平素私のやつて居る仕事を申上るが一番便利と存じ然かも其仕事は諸君と密接の關係があるのでありますから、此機會に於きまして私等のやつて居る教育方針の大体を申上げて諸君の御批評並に御高教を承り將來の參考にする事を得ましたならば當に私等の喜びのみならず延いて諸君の御便利となる事と存じますから聊か述べて見たいと存じます。

第一に御禮申上げて置きたいのは私共の教育をいたしました青年は總て諸君の御指導に浴して居る次第で此上とも諸君の御好情に頼るの外はないのであります。

偖て私等の學校の建築科と同一種類の學校は全國に於きまして公私合せて其數は大分ありまず、然してその目的と致す處は略似寄つて居る樣に存じます中には多小異なつたのもありますが結果から見れば全樣の仕事に從事致して居る樣であります、私等の學校の目的は教育ある低

級なる建築技術者を養生すると言ふのでありまして私等は此目的の遂行者であります。夫れで此目的を遂行する爲に一方に於て中等國民として必要であり同時に專門學科修得に要する普通學科を課し他方に於て專門の知識及技術を教ゆると言ふ事に致して居ります。其學科目に就きましては各學校共其分量に多少はありましても其種類は大同小異であらふと存じます、即ち專門學科について言へば家屋構造、建築様式、簡單なる力學上の諸計算、材料各論、測量法、施工法、其他裝飾及建築衛生工事等であります。實習は私等の學校では各學年を通じて六十四五時間ある内其三分の二を製圖として割合に多くの時間を之れに割いて居ります。是は技術者として最も必要であると考へた爲で殘り三分の一を以て實驗を課して居ります。此の實驗と申すは學理に基きたるもの或は施工後容易に其原因結果の分り悪きもの等を實際に生徒をして遣らしめて生徒の智識を確實にせしむる方法でありまして、或る仕事に習熟せしむの意味はないのであります。是は全種學校の實習の種類を建築技術者の仕事の性質及範圍より打算して其習熟を不可能と知りたるからであります。さて實驗の一例を申せばコンクリートの調合及打方等を講義した後生徒各自に小量のコンクリートを造らしめ其固結を待ちて之れを驗査し其成績には練りの良否水の過不足並に之等の强度等を實驗せしめ以てコンクリート使用の目的により經濟上及實際上の當否を教へ或は學理上より兩端支持の梁と固定の梁との荷物支持力の相違を教ゆれば之れを實際に遣らしめて其差異を實驗せしめ彼等の幼稚なる腦裏に確固たる智識を附與せんとする等であります。然しながら或程度を越ゆる實驗は經濟上其實行を許さぬものが澤山あります。然るに幸にして諸君の關係せらるゝ工事の現場に於きましては實際に施工せられて居るのでありますから從來とても御妨とは存じながら度々拜見に出掛けて教示を願つて居ります猶今後も拜見に上る事と存じますから其節は宜敷御指導あらん事をお願して置きます。

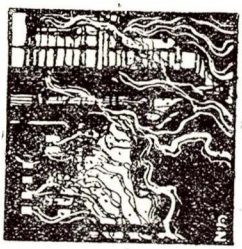
以上は自分等の仕事の大半でありまする猶重要なる事が殘つて居ります。之れは外でもありませぬ即ち人物養成でありまする前に述べました『教育ある低級』云々は此意味に外ならぬので私等は常に誠實勤勉なる思想と習慣とを與へたいと不斷苦心致して居るのであります。

さて教育の効果なる者が教育調査會にても論せらるゝ如く修業年限と關係ある者と假定する事が出來ましたならば他の校が二年苦くば三年の修業年限あるに不拘私の學校及他の一二校が四年でありますれば其間に於きまして何處にか効果のあるべきものでありますまいか否私等は効果ある如く勉めなければならぬと努力を致して居るのであります。

大体以上述べました方針により養成は、致して居りますがさて彼等が校門を出て實社會の活舞臺に夫々の任務を遂行して工業界の一員として完全なる資格を形成するには一に諸君の御指導を待つの外はないのでありまして改めて皆さんの御盡力を仰ぎたいのであります、殊に關西建築協會のやうな有力な團体が成立致されまして着々各方面の事項について調査研究の歩を進められつゝある事は私共にとりても誠に前途の光明を見得る譯でありまして益々本協會の發展を希望致しますと同時に建築教育の點についても時々刻々會員諸君の御注意を受けまして微力ながら私共も建築界のために盡したいと思ひます。

◈使ふべきや、使はれべきや◈

近時の各學校卒業生が社會に飛び込んで、慣れぬ仕事に隨分苦しんで居るねることは事實であると同時に社會もあんまり歡迎をして居らぬ事も事實である。それは主として經驗のないといふ理由から來るが同時に若い人の通癖として生意氣な點の多いといふ事も認められてゐる併し自分が特に感じてゐる點は新しく學校を出て來る若い人は、如何に人に使はれべきや。又如何に人を使ふべきや、といふ二つの問題に就いて充分な理解を持つて居ない。尤も學校は智識を養成する處であるから、斯ういふ點に迄生徒を教へることは出來ないのかもしれないが社會と學校との關係から觀ると、教授諸氏は特に此點について注意を拂ひ、生徒に或程度の理解を與へて置いて欲しいものだ（會員某氏談）



東京市街の建築的贅澤

會員　武田五一譯

左の一文は大正六年十月十日發行のアメリカン、アーキテクト二一八一號に廿一枚の寫眞版を挿入して載せられたるもの執筆者はHisiley氏としてある米人の建築鑑賞を知る好箇の參考たるべく我邦都市建築を如何に外國の旅客が注視しつゝあるかを知るも亦一興なるべし。

挿入されたる圖版左の如し

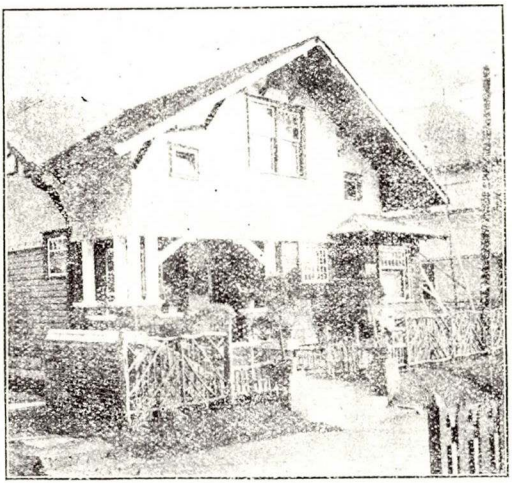
▲代表的商店建築（帝國ホテル前の一商店）▲田舍の土藏▲引き付けるような古代と醜なる現代（洋館と土藏作りと隣り合せたる所の圖）▲和洋折衷式（東京高島屋の建築）▲東京中心の特徴ある堀割（今川橋附近の景）▲端西式の田舍家（木曾附近の民家）▲足代▲壁下地▲障子洗ひ▲東京の摩天閣（第一相互生命保險會社の鐵骨）▲上流紳士の住宅（日本造り）▲皇居と東京驛との間の建築（東京海上保險會社建築）▲新築の東京（銀座の一部）▲防火土藏（日本造り）▲建築事務所（アメリカ屋の店先）▲自働車庫を有する商店（日本造り）▲華族會館の正門▲横濱の活動寫▲横濱の商店（日本造り）▲熱病的頭腦の作品（鴻之巢カフエー附近）▲稍上等なる歐風建築（愛國生命保險會社建築「之れにても保險會社なり」と注す）

日本建築の起りは疑もなく馬來種族の葉葺小屋から來て居るものが次で支那建築の輸入となり幸にして日本の風土に適し山水の美にも適應して地震と云ふ大敵にもよく抗することが知れて來て益々日本固有のものとなつて來た然るに約六十年前東西文明の接觸が日本人の思想好尙に大變化を與ふることゝなり汽車も電車も衣服も美醜と云ふことを度外視して採用せらるゝなつた、斯の如くして所謂『西洋人』の眞似が國家の盛大をなし第一等國の範に列する資格となると考へて終には建築の樣式も亦西洋の型の採用となつて茲に日本建築的悲劇の幕が切て落された。

日本の主府たり最大都市たる東京は建築的には大々的破壊をやつて居る醜き西洋建築の模倣したるものが元來美しかりし此古都を占領して來た去年來甘余の醜き大怪物が優美なる皇居から半哩と距らない地區に建てられた何れも何等一定の傾向なく自信なく雜然たる樣式にて種々雜多なる材料と大さとを以て建築せられて居る其形は形容の辭もないが强て之を評すれば地上に於ける一大贅瘤である古き美しき東京の市街とは何等交渉なき恐るべき詛ふ如き構造物である單に歐州風に見せたいばかりに試みられたる貧弱なる計畫に過ぎぬ。

恐れ多くも皇居との眺望の範圍内に之等莊大にして貧弱なる憔悴したる如き灰色の壁が東京市の美しき背景の上に立つて居る。

主要市街たる銀座通りに多數の二階建若くは三階建ての木摺漆喰塗りの西洋館が日本固有の建物の間に狹苦しそふに建てられて居る何れも美しからざることにかけては似たり寄たりである銀座は最も近き將來に於て歐州の第三流位の市街にはなるであらふ。



赤阪附近の一住宅

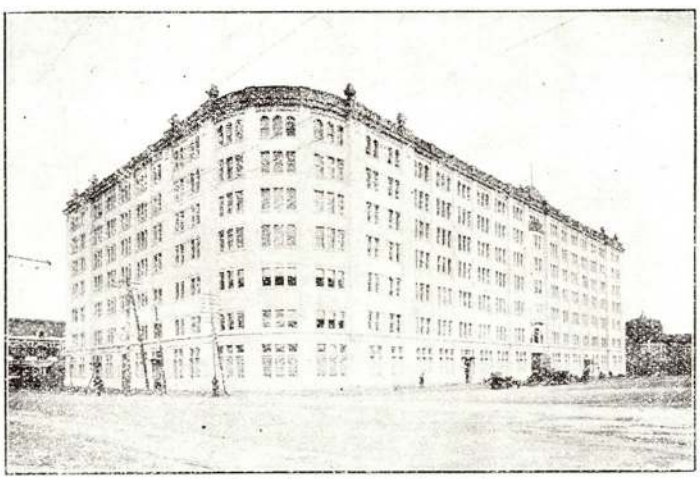
最近日本を見たる米國建築家の言によれば。

東京は第一位の都市たる天然的要素を具へて居る美しき森と御濠を有する皇居、其周圍の大道路、網の如き交通機關、廣き公園、繪の如き堀割運河、便利なる海岸線、勤勉にして美を愛する市民等何れも其將來に於て手腕ある建築家の解決すべき幾多の興味ある問題を提供

して居る。

過去に於て驚くべき天才を發揮せる大棟梁を祖先とせる日本建築家は其過去の建築を發揮せしめて近代的要求に適應せしめ東京として過去の美しき幻影より引き離さしめざる責任がある徒らに歐州第三位第四位の都市の模倣に努むるとは何事ぞやと云ひたくなる米國が歐州建築を採用せるは理由がある即其固有の建築は單に亞米利加印度人の小屋のみ而も其國民は悉く歐州大陸より移住せるもの若しくは其子孫である故である國の例を以て日本を律する米ことは出來ぬ。

近代の日本建築家の努力



東京海上保險株式會社

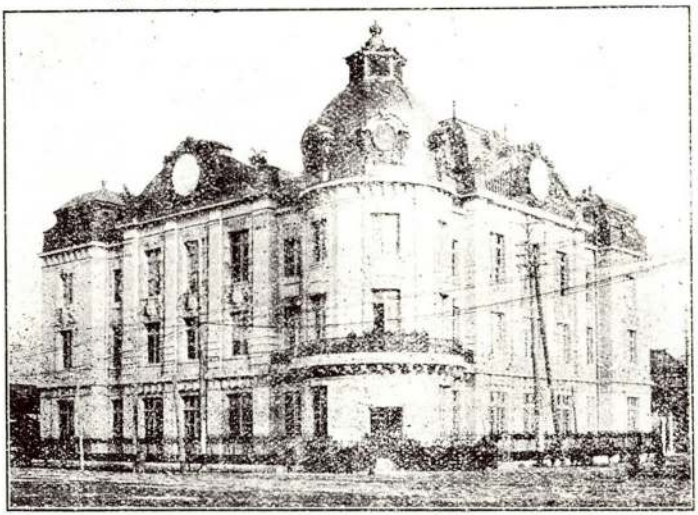
せる結果は單に燥がしき完成せざる建築を作り上げたのみであるしかも未だ國民的樣式らしきものさへ出來て居ない日本建築家は何故に自己の驚くべき藝術と床しき傳說を打ち棄て不適當なる歐州人の跡を辿つて行くのであるか勿論近代的都市建築としては木造建築は不向でもあり且防火的の構造を處要とするが日本にはコンクリートも立派なる煉瓦も瓦もある之等の材料を以て日本特有の樣式は創作し得ないことはないと信ずる且つ又巧妙なる法の運用と地震の威嚇に由て建物の高さを一定し都市建築の美觀と調和を余り手遲れとな

らない内に整へることも不可能でない。

東京市の美観改良の第一歩は十重廿重に架せられたる電線を取り去ることゝ世界的に禍とせらるゝ濫美術的看板の取締りである。

住宅としては日本人は書の如き日本家屋を好むよふであるしかし加州にて修業して來たと稱する一日本建築師はバンガローを日本に移し建る職業にて成効して居る歐州人の或るものは其れに住で居るがやはり日本住所の方がよいと云ふて居るに拘はらず日本の紳士の内には歐州風の住宅を建てることが流行して居る。

歐米の旅客をして最も顰



蹙せしむる場所は主として東京の下町である山の手邊はまだ〳〵昔の東京の面影が見られる。

東京以外の都市も東京に劣らず此種の破壞をやつて居る大阪は其點に於て最も愛國盛である元來が商工業本位の都市であるから問題とする生命保險養ある日本紳士は近來の此るには足らぬ中流程度の敎株傾向を誇つて居るものもあ式會るが外國を旅行して來て鑑社識眼の進んで居る人々は何とかして日本固有の樣式を失はざるよふに努力して居ることは事實である。



國技館災害視察報告

會員　葛野壯一郎

（於十二月例會）

序言

私は公務を帶びまして此間一寸上京いたしました。其際第四部委員長池田氏より特に御命令がありまして國技館の燒跡視察をせよとの事でありましたから私は災害部の委員ではありませんけれども御土產として聊か報告の材料を集めまして歸阪いたしました。然るに丁度今夕の例會に會員の講演會が催される事になりまして茲に皆さんの御淸聽を煩はす事になりました。

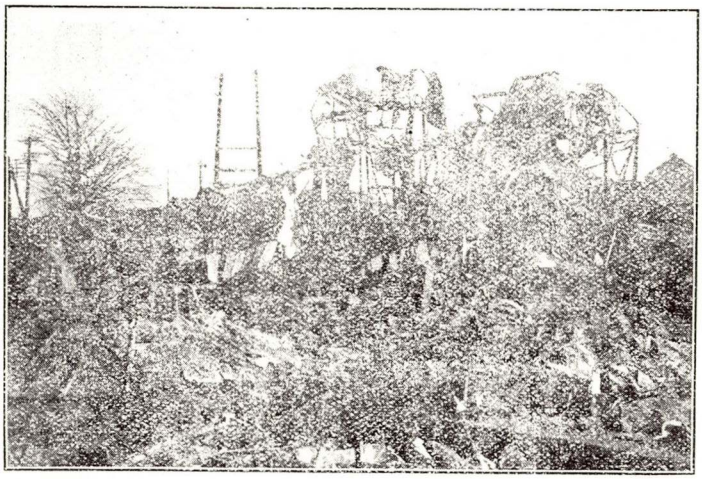
災害前の國技館

御承知でもありませうが東京の國技館は辰野葛西事務所の設計で今日では日本の名物の一に數へらるゝ大建築であります。明治三十九年に起工されまして同四十二年に落成いたしました。

構造上の計算には今博士になつて居られます佐野利器氏が主に擔當されましたそうで當時土木建築界の眼を驚かしましたる新式構造物であります。建物の直徑は二百尺に近く天井の高さは七十尺に達するといふ事であります外觀は寫眞で御覽になります通り半球体の大圓塔（ドーム）の三方に二ツ宛の塔が配置されて居りまして此の部分に出入口と階段を設置してあります尙此小塔の間に四個の階段が設けてありました。公唱定員は一萬人とありますが事實

はズット其れよりも多く入場させて居つたさうであります内部の寫眞で御覽になります通り採光は天窓から採り入れて居りますからあの大きな館内も可なり明るかつたのでありました。

構造上から申しますと三十二本の鐵の小屋（トラス）が足元を大きな「ピン」で止め頂上の眞ん中では鐵の輪を以て鉄締めになつて居りますから之れを形容して新聞記者は「鐵の大傘」と呼んで居りますが天窓の部分が大きな輪を畫いて居りますから丁度婦人用の「蛇の目の傘」に似て居ります。此鐵骨の周圍の壁や屋根の被覆は板張の上を薄い鐵板で張りペンキ塗となつて居りますから專門家から見ますと一朝火災に遇ふてあの様な最後を遂げたのは不思議とは思はれないのでありますが。素人方は大分理解が出來なかつた様で吾々は兎も角世間の誤解は解かなくてはならぬと思ひます。



東京國技館の焼跡（其一）

火災の原因と經過

大正六年十一月二十九日午前一時半頃出火いたしまして約一時間の燃焼であの大建物が焼け落ちると同時に鎮火した様子であります、出火の原因は漏電だといふ説が傳はりましたが其筋の取調によりますと南側に在りました福井軒とかいふ料理屋の出店の番人

の過失であるといふことが明かになつたさうです。丁度先月下旬迄菊人形の興行がありました。東京では菊人形は團子阪の名物でしたが近來は全く國技館の菊に壓倒されて團子阪は立行かないことになりましたさうで此の秋の興行に用ひた小屋掛の諸材料は西寄りに一杯山積してありましたそうで何でも三階から向ふ側が見へない位に積んであつたとか聞きましたが此等の木材が一時に燃え上つたのですから全く火の防備のなかつた鐵の屋根は一時間ばかりで譯もなく全壞したといふことであります。當夜は至極天候靜溫で風速は一秒時四米突三であつたさうです。從つて類燒の厄に遇つたのは南隣りの回向院丈でありまして此の名代の御寺は屋根を四分通り燒かれてありました。

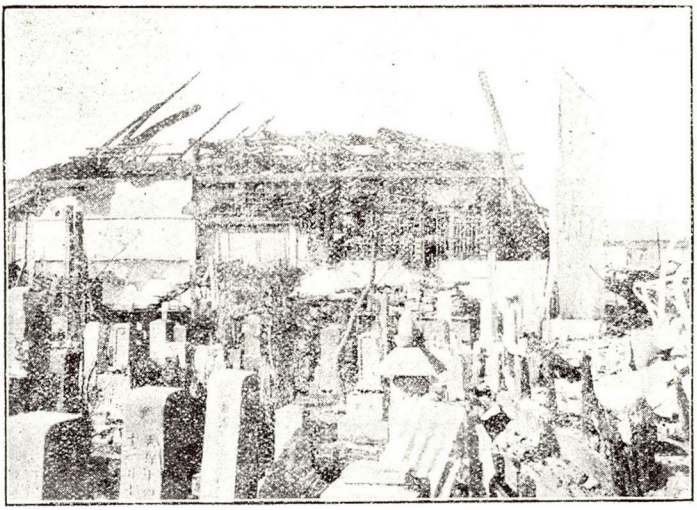


東京國技館の燒跡（其二）

被害の狀況

災後の狀況は木子さんの持歸へられた寫眞で御覽になる通り慘憺たるもので實際の處私も其豫想外の慘狀には一驚を喫しました。當夜の實見者の話によりますと大圓塔（ドーム）の中央が最も激しく熱せられ眞赤になつて鐵の傘の上に眞中の換氣塔が黑く殘つた光景は一種の壯觀であつたと聞きましたが佐野博士の調査によりますと鋼鐵は華氏の五六百度で柔軟となる性質がありますから先づ館内の熱度は千度に近いものであつたと想像される次第でありまし

て焼跡の最も高熱と思はれた部分に銅線が溶解せずに殘つて居たさうで銅は千百度以上の熱で初めて溶解するさうですから大体千度と見積るが至當であらうすると實見者の眼に赤熱の狀態に見ねたのは火焔の猛烈なために誤覺を起したのであつて實際は純紅色（ダルレッドカラー）で即ち僅かに赤味を帶びたといふ位であつたかと判斷されるさうでありますともかく千度に近い温度に耐へられないで鐵骨は飴の様になつたために三十二本の『トラス』は惣持の力を失つて足元『ピン』で以て回轉し墜落したのですから中央の鐵輪（リング）は其の儘略中央に落ちまして、足元から五六尺迄は異狀もなくそれから上部の鐵骨はあらゆる形狀に屈曲したのですから焼跡の惨狀は何ともいへぬ物凄い光景でありました。細部にわたつては『リベット』穴が非常に擴げられたり『ボールト』が飴の様に引ちぎられたり様々な狀態が觀らるゝ様で有りました。



東京回向院の焼跡

結論

以上述べましたる通りの有様であの有名な吾國の大建築が一朝不慮の出火から僅々一時間足らずの中に全壞したといふのは誠に世人をして不審を打たしむる丈の餘地が

充分あることであります、しかしながらよく其構造を調べましたならば此の建築物は全く特種の構架体で三十二本の鐵骨の外は全く可燃性の材料で出來て居るのでありますから鐵骨建築といふより木造建築と見る方が至當である位のものでありますから普通の木造『ペンキ』塗の家屋が燃失するのと大差なかつた譯でありませう。此の大建物の建築當時は注文者側でも全く想像がつかなかつた位の大規模に出來上つたので資金の勸誘も中々骨が折れた樣子であり從つて豫算内であれ丈の大建築物を計畫した設計者の苦心も一通りの事ではなかつたのでありませうが不幸にして豫算の不足から防火上の構造設備のなかつた點は誠に遺憾の次第であります。

乍然今日では世間でもあゝいふ大建築が計畫されて後の相撲道の盛大であつた事と觀角家の側から見ても晴雨に拘らず十日間の興行を樂しんだ事をよく記臆して居りませうから擧金募集も昔程困難ではありますまい、又早速復舊案が協議された樣ですが、佐野博士も若し改築する事になれば此度は構造上にも多少の修正をやり『トラス』を廢めて『プレートガーダー』の『リップ』とし是を『ホリゾンタルバンド』で締めつける事にすれば作工と價格の節減を謀り同時に構造を簡單にし防火被覆も加へらるゝ樣な豫想を漏されましたが同館の鐵材は總重量約五百噸を算したさうですから今日の時價で換算すれば實に大損害であります。乍然此の災害の苦い經驗から却つて將來より完全な大建築が設計さるゝものとすれば禍變じて福となる譯でありますが、同時に露出せる鐵骨構造が如何に見慘な結果を産むかといふ實際上の敎訓を得た譯でありますから吾建築界にとりては隨分高價な此の犧牲について充分なる考慮を煩はす必要があると思ひます。終りに望んで斯くの如き建築の經營者が本興行以外に菊人形或は活動寫眞等の遠興行に貸與するといふのは大に考ふべき事ではないかと思ひます。

國技館災害視察所感

會員　木子七郎演

（於十二月例會）

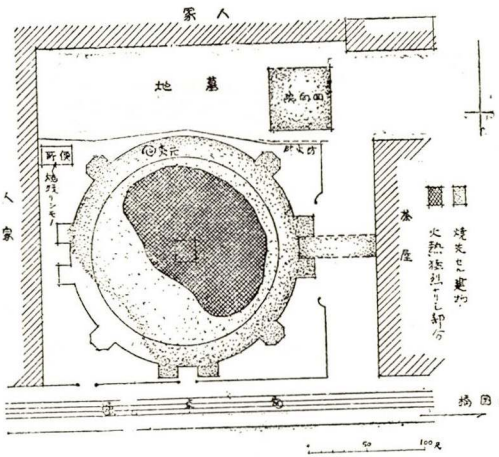
□□私も第四部委員の一員であるものですから委員長から特別命令を受けました。尤も私は目下自分の仕事の上について、東京國技館の災害を是非視察するの必要に迫られまして新聞の號外を見まして直ぐに上京の準備をいたしました、寫眞も出來る丈撮つて來た次第でありますが、元來喧嘩であつて斯ふいふ席上で御話致すのは誠に心苦しいのでありますが池田さんから是非所感を述べろとの御命令で止を得ず此の席から申上げます。

□□國技館の成り立から災害の狀況並びに學術上の調査は只今葛野さんから委しく御說明がありまして私も大に啓發さるゝ處がありましたので私は只私の見て來た點で葛野さんの御話と異つた部分丈を申上げることにいたします。

出火の原因は先づ葛野さんの御話の通りでありまして、火元が菊人形の興行に用ひた多くの丸太や板や蘆簾の積んであつた西側に近く正面の貴賓席と反對の南側であつたために火勢は西南部に於て最も猛烈であつた樣子は燒跡を見ても解りました。それは先程葛野さんが中央の鐵輪は其眞下に落ちて居た樣に御話になりましたが私の調べました處では眞中から約十五尺火元の方へ片寄つて落ちて居りました。これは丁度南西の側の火勢が激しいので鐵骨も此部分が餘計に熱せられ充分柔くなつた爲であると考へらるゝのでありまして中央の「リング」は

寫眞にもあります通り原形のまゝ落ちて居り其周圍の屋根の鐵板も其儘放れずに殘つて居りました。當夜の實見者の話によりますと眞赤になつた鐵骨の上にこの「リング」が黑く浮んで居つて「イルミネーション」を觀る樣であつたとか申しますがさあこれがどうなるだらうかと注視して居ますと先づ「リング」の部分がぐつと下つたさうです此「リング」は重量約三噸程であつたそうでつまり此の重さを支へる事が出來なくなつたと見へます。すると間もなく大崩壞が始まつて大きな響と强い光とそして火の子の立登る物凄さは一寸言葉に現はせない有樣だつた樣です。

こういふ譯で南西の側が强く熱せられた原因は澤山の木材が積んであつたに因る次第でありますが北側乃ち貴賓席の方面は此の燃燒物の少なかつたために入口の左右の塔も倒れずに燒け殘つて居りますし鐵骨も他の方面程屈曲は激しくないのでありまして燃燒の經過がよく解りました、新聞紙上に多く掲げられました寫眞は此の貴賓席の部分の鐵骨を背景にして撮つたものです。

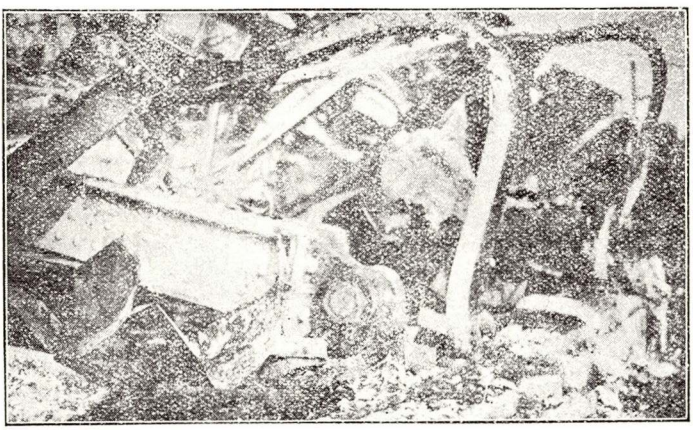


それから三十二本の「ピン」は一つもはねて居らない所から見ますと、直徑四吋の「ピン」を切斷する力よりも弱く鐵が飴の樣になつて下降した事が分ります。若し燒跡整理の際屋根の亞鉛鍍鐵板の樣な被覆物をとつてしまつたら中央の「リング」まで「ドーム」の鐵骨が蛇の樣に面白い曲線を

畫いて居る形がよく分つて色んな力が働いて様々の屈折彎曲をしておらうと興味を持つて居ります若し「ビン」がはねたら周圍への損害は又格別であつたかと思はれます。

□□鐵骨構造の露出して居る建築があの様な無慘な最後を遂げたについて專門家の見解と素人側の見解とは全く喰ひ違つて居るといふのは考ふべき事ではありますまいか、專門家から見て當然の結果だといふ事實を素人側が不審を打つといふのはつまり專門家が平常素人に對して或程度の理解を與へて置かなかつたといふ事に歸着します。

私は現狀視察の時年寄「雷」から聞きました今の「雷」は御承知の「梅ケ谷」でありますが

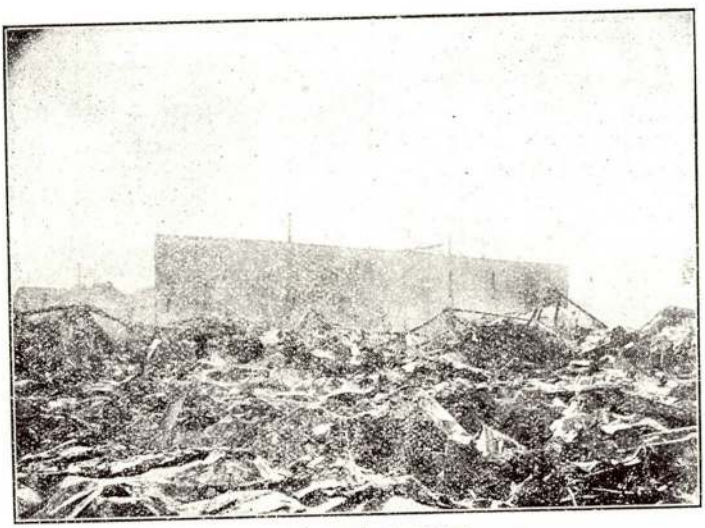


鐵骨の脚部

同人の述懐談に「私しあーあんな堅い鐵で出來た家だもの火事だつてとけて潰れるものとは堅く思はなかつたんだが潰れたんで驚きやした鐵骨の建物だつて安心出來ませんや」と謂て居ましたが鐵だから強い勿論火は燃え付かぬ鐵の家が火事の時に大丈夫だといふ觀念を實際に持つてゐるのを聞いて專門家は果して何と答へてよいものでせうか。焼けてしまつてから説明したのでは遅い焼けぬ以前にあゝいふ建物について特に其取扱ひ方について注意を與へておかねばならぬ事と思ひます。

亦消防設備についても相應の計畫を與へて

彼等の注意を喚起するばかりでなく、充分此等の點について豫め考へておく事は專門家としては當然の義務かと思ひます。要するに此度の場合は葛野さんの申された通り鐵骨構造の家とはいへ周圍は木造板張で被覆に鐵板を貼き「ペンキ」塗にしたために素人側に燒けないものといふ見解を與へてしまつた樣な事ではありますまいか、尤も誰しも今回の事は不慮の出來事であつて設計者にしても外界からの防火については充分考慮する處があつたが



燒殘れる防火壁

內部からあの樣な火災が突發しやうとは夢にも思はなかつたに違いないといふ事になりませう。

□□とにかく燒跡の鐵の姿ほど悲慘なものはありません鐵骨小屋の中央部と足元部とを除いて後の部分は全く鐵が熱のために如何に四苦八苦の大苦悶をしたか明瞭に示して居るのでありまして無念骨髓に徹して居る事でありませう。鐵階段は一部を除いては鐵板を露出の儘で出來て居ましたから見る影もない有樣ですが躍場と思はるゝ部分に鐵筋「コンクリート」の床がありましたこ

れは稍完全に殘つて居ましたが「コンクリート」はぼろ〳〵になつて居ました。

□□先程葛野さんの御意見では菊人形等の他の興行に使用せしむるのはいけないとありましたが、これは是非御許しを願はねばならぬのでありまして經營者側は國技館の維持策として他の興行に貸與して收益をあげるのであります、今日では一ツの有力なる財源になつて居りますし、亦あゝいふ大集合の出來る建築物を利用する側から見ましても是非御許を願はなければならぬと思ひます。要は使用許可と同時に夜警を充分にするとか消防設備を完備せしむる方針が必要でありまして必ずしも菊人形興行其ものが惡いのではありますまいと考へます。

□□南隣りの回向院の本堂は類燒の厄に遇ひましたが寫眞に見らるゝ通り屋根から燃へうつりました其境界に防火壁のあつた事は注意しなければなりません。此防火壁は高三間半ばかりでありますが立派に殘つて居ます。構造はL形の鐵骨に川崎工場の鐵鋼を張つたらしく石灰入「モルタル」を塗つてある樣で一寸漆喰壁の樣に見ゑました其上に生子板の鐵板を張り「ペンキ」塗となつて居ます。此の防火壁自身は殘つて居りますが其目的は達せられなかつた、それは本堂の棟が可なり突出して居りますので防火壁に接近して居た上に先達ての暴風雨のとき破損した屋根を修繕する事を怠り其部分から引火したらしいといふ事であります。これは注意すべき參考資料の一つと思ひます

□□要するに私は回向院の災害については素人側の見解が可なり深い誤解を抱いてゐるといふ點について建築家は充分注意すべきであるといふ事を特に申上げた次第であります。

つまらない事を述べまして皆さんのお耳を拜借しましたこれで御免を蒙ります。

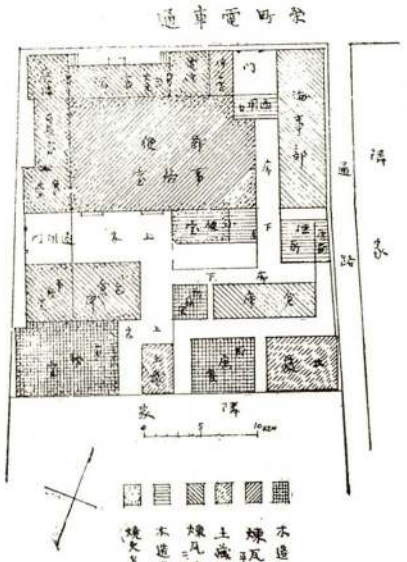


神戸郵便局の火災に就いて

會員　波江悌夫　演
（於十二月例會）

私は神戸郵便局の火災に就いて所見を述べたいと思ひます。東京の國技館が燒け落ちた翌日の朝の事でしたから、多少世上の注意を惹きましたし、神戸市にとりては、特記して置かねばならぬ火災の一つと思ひますので、早速視察をいたしました、尤も私は神戸に在住はいたして居りませんので、早朝の失火に馳せ付ける事も出來なかつたのでありますが、幸に手に入りました寫眞はよく當時の有樣を語るものでありますが今晩はあいにく持參いたしませんのでいづれ雜誌の上で御覽に入れたいと思ひます。

神戸は隨分人家の稠密な所でありますが、幸に今迄大火と稱せられる程の災厄を聞きませんでしたが海近く山迫つた所でも函館の樣に幾回も祝



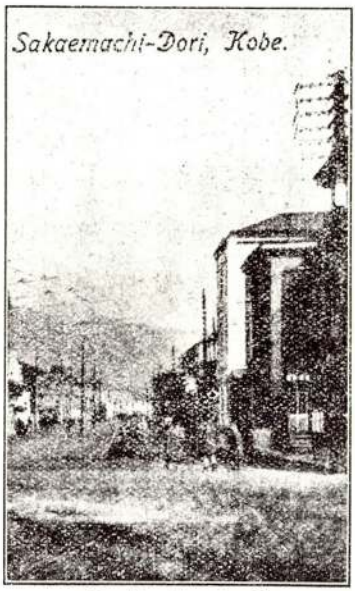
一つは地勢の然らしむる爲めかとも考へられま

融氏の御見舞を受ける都會もある事でありますから中々油斷は出來ないのであります。

殊に本年の夏は連日の暑熱に水道の斷水の憂き目を見たのでありまして、目下着々工事の進捗を計つて居ります大規模の水道計畫が完成する迄は高眠は得られない事かと思ひます。若しあの斷水中に大火の御見舞を受けたとしたら、何んな事になりませうか。

燒失前の建物

神戸郵便局は榮町通六丁目の西端南側の一角にありまして北は榮町の電車通を隔てゝ神戸新聞社（木造貼付煉瓦）に相對し、西は宇治川通でありまして向側には鈴木商店（木造）北寄に三菱銀行の石造三階建が控へて居ります東側は二間足らずの通路を狹んで隣家（木造）に面して居り南側は材木商其他の隣家に接して居るのであります。



神戸榮町通
右方建物は神戸郵便局
三階建は全海事部

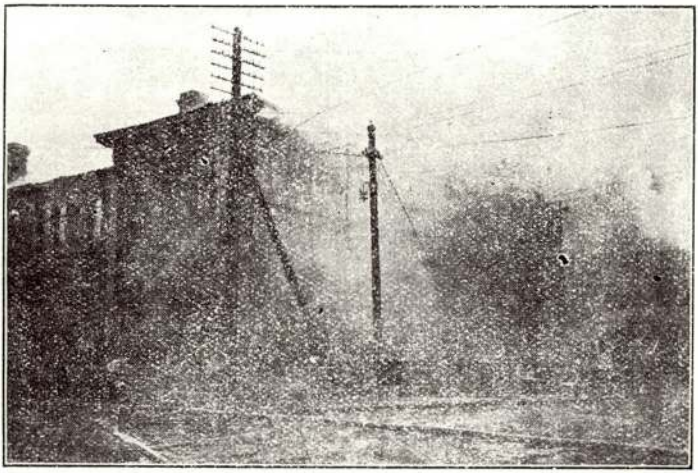
本館は煉瓦造二階建L字形、木骨固屋、瓦葺二階床も木造であります、三個所に煙突が立つて居ります處は隔壁になつて居ます。此本館は西北に位置を占め明治二十年頃の建造であります、其南一帶は木造小屋鐵板張の平家で周壁だけは煉瓦造になつて居りますし固屋受の柱は鑄鐵製の「パイプ」を使用してありました。

西側の通用門を隔てゝは煉瓦造二階建と同平屋建の倉庫がありまして其南に木造板張の二階建事務室がありました東南方面は圖の如く倉庫土藏等が配置されてありまして、東側は最近の建造に係かる煉瓦造二階建の（モルタ

ル」塗の海事部が控えて居りました。各通路の上は上家などがあり、全体の配置は漸次に建増をやつて來た樣であります。

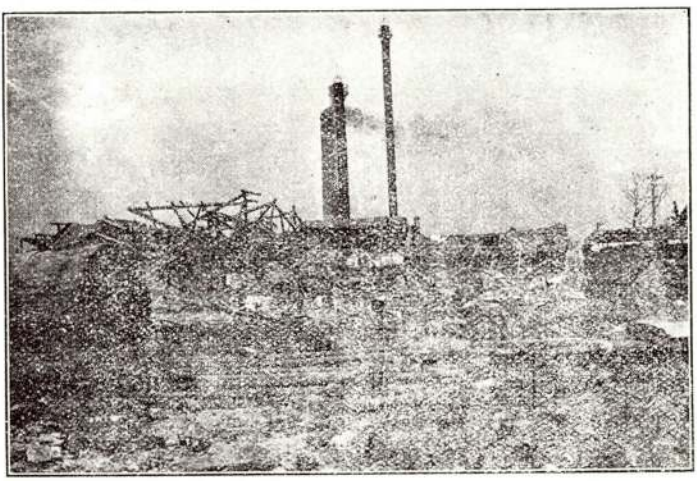
出火の原因

十一月三十日の早朝五時頃出火、火元は本館二階の東寄、電信課室からといふ事で、失火の原因は今に不明であります、發見者は約三十分間不在の間に手の付けられぬ程の猛火となつて居たといふ事でありまして、此室には三十幾本かの電信電話の線が集合して居つたといふのですが金網張の火鉢を使用して居る程に用心して居る以上は失火の原因は漏電であつたのではあるまいかといふ説が傳へられました。近時出火の原因が不明の場合はよく漏電ではないかと豫斷される傾きがあるので阪神の新聞社の中には其紙上で冬になると漏電の多いのは不思議だと皮肉を書いたのもあつた樣でありますし又專門家は兎角失火の原因を漏電に歸するのは當事者にとりては迷惑至極の次第であるといふ意見を發表されて居る次第で失火の原因が漏電といふ事實を借用するのは偶々可燃燒建物の多い我國の現狀を語るものでありますが事實の眞相は出來得る限りに明かにしたいものであります



神戸郵便局火災（午前五時頃）

失火の原因が不可抗力なる場合は止むを得ぬ事に相違ないが斯くの如き場合にも發見者の所置の如何によつては大事に到らざる事も多いので失火の場合に於て發見者が獨力を以て消火し得らるゝ場合は誠に幸福でありますが、もはや手に合はぬと判斷されたるときは之れを最近の消防署に報知するが最も緊要でありますが、かゝる不慮の場合は屢狼狽のあまり消火栓の存在を忘れ非常報知の便も忘れて却つて大事に到らしむる場合が多い樣であります、此點は發見者の特に注意すべき問題と同時に平時各人の研究すべき事項の一つであると思ひます。



神戸郵便局の火災（午前七時頃）

消防隊の活動

午前五時頃、出火の報知を得ると同時に最寄の相生署の消防隊は直ちに現場を警戒し、三宮、兵庫、湊川の各消防隊も逐次來援しまして二臺の蒸氣喞筒と數十本の「ホース」を利用して活動し七時頃鎭火せしむることを得た樣ですが、川崎造船所、及軍艦伊勢の海兵隊も應援することを得郵送物の搬出、書類の移送等に盡力する有樣で構内の大半を燒失するに止まり大火に至らずして効を奏したることは主として各防火隊の活動によるとで七名の負傷者を出

したるは其事實を裏書して居ると思ひます。尤早朝の火事であつて野次馬の少なかつた事風勢猛烈ならざりし事、三方道路であつて活動に便なりし事、等は亦注意すべき事項かと思ひます。殊に三方街道に面する部分が煉瓦壁なりし事は消防隊の主力を南方に集中して類燒の火勢を鎭制し得た最大の理由かと思ひます。就中火元は二階なりし故床及屋根を燒失して火焰は西及南へと延び郵便事務室、食堂、應接、局長各室を襲ひ廊下上家を傳ふて小包倉庫及事務室を猛火の中に包みたる時に當つて東側三階建の海事部建物は全く東方への火鋒を遮斷し東隣の民家に禍厄を蒙らしめなかつた事は耐火構造物の効果を充分に示したるものと考察する事が出來ます。

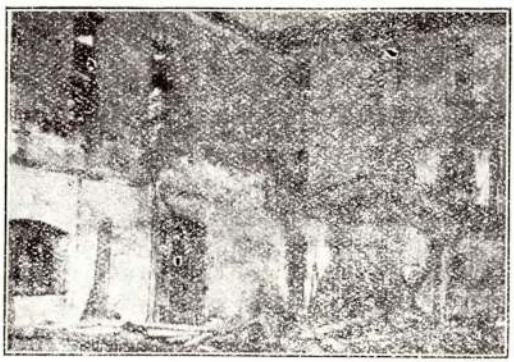
本館二階の廊下は其L形建物の南及東に沿ふてL形に延長し分立して居る海事部及南部の建物を連絡して居つた唯一の交通路であつたけれども木造であつたので忽ちにして燒落ちてしまつた樣です。若し此の火災が風威猛烈なる夜半の出來事であつたとして見たらば、木造塗屋の多い榮町通は一溜もなく類燒の大厄に遇つた事でせう、或は又人家櫛比の元町通の木造家から發火したとして見たら慄然たらざるを得ないと思ひます。

燒失後の視察

燒失したのは本館及、郵便事務室、小使室、小包倉庫及南側事務室等であつて、主要部を燒拂はれた事となります、東側の海事部（煉瓦造三階建）と東南隅に在る數棟の倉庫土藏及木造附屬家は幸に災害を免れて居るのは、消防隊の活動と、燒失家屋の周壁が煉瓦なりしと、土藏倉庫等の配置の關係によるものと考へられます。

本館は木造小屋及床が燒け落ちたのに過ぎないにしても、周壁煉瓦造の建物が床をも不燃失物構造になす事の必要を認めない譯には行きません、國技館にしても此火災にしても外部よりの防火に相當の注意を拂ひ居るも、內

部よ[illegible]の失火に全滅に近き災厄に遇ふ事は大損害たるに違ひないのでありまして、此の點は計畫當時に充分なる考慮を拂ふ必要があると思ひますが、此本館は二十餘年前の建設に係り構内の建物も隨次增築した樣な事で充分なる用意を得る事が出來なかつたのでありませう。斯くの如き公共的建物が一朝燒失の厄に遭遇しました時に蒙る社會的損害は蓋し非常なものでありませう此の點について、三宮郵便局の如き豫算の都合から木骨（張抗）二階建にて新築されて居ますが甚た遺憾の事で出來得る限り耐火搆造を實施するの必要を感じない譯には行きません失火後に於ける貨物の搬出、書類の移送については平常其事務の性質から宿直其他各員の活動は想像に難くないのでありますが同時に建物の配置、通用門及道路の關係に於て最も注意を拂つてあつたのは其特種の性質上、斯くの如き不慮の際大に便宜なりし事は最も注意すべき點であると思ひます。



神戸郵便局の火災燒跡

左側は本館竪　右方は海事部建物

要するに可燃性建物に在りては一朝不慮の際の混亂に陷る事を深く留意し、計畫に當りても當事者の特別なる研究の下に、建物構造に相應したる設備をなす事を痛切に感しない譯には行きません。これは敢て專門家丈の問題でなくて一般論者の相共に留意講究すべき主要なる事項かと思ひます。

以上は私の感しました點につき述べましたが學術的には尙ほ參考に資すべき材料もありますけれども此位にして御免を蒙ります。



貧しき家より

會員　うき生

世間の奴等はよくこんなことを謂つてゐる。「乞食を三日やつたら止められねへ」とさ。これは乞食をやつたことのねへ人間が乞食の言ひ草を眞に受けたか但しは乞食の生活を羨む樣な横着者の想像に過ぎませんや。

實際に俺達の此頃の生活は乞食に近いに違へはねへが、若し世間の奴等が本當に俺達の仲間に飛び込んで見たら直ぐに解りまさあ。半日でも俺達の附き合ひが出來たら御目に掛る。その癖世間の奴等の言ふ事は口前丈は中々立派だからたまられへ。同情をするのなら本當に同情をしてくれたら俺達も難有ていが、兎角世間の奴等のやる事は同情のある樣なれへ樣な、俺達の此世に居るのが邪魔になるのかならねへのか。見當が付かれへ、その癖俺達を厄介物としておきながら、中々俺達を道具に使つたり、俺達を釣つたり、俺達をどうかするんだから へン、業面白くもねへ。

早へ話がこうでさあ、世間の奴等は俺達をつかめへて、貧民だとか、細民だとか言つてゐる。さうかと思ふと下等社會だの下層民だのと餘計な名前を付けて俺達を下へ下へと益社會とかいふものゝ片隅へ壓し付けちまをうてんでさあ、そりあ俺達の御目かも知れねへが、兎も角俺達の目にあそう見へまさあ。

誰だつて人間に變りはねへ。斯んな名前を頂きたくねへのは無論だが、事こゝに到つたのは原因だとか經路だとかはともかく。何れも生活難ちう奴との戰で第一戰に敗け、第二の線で喰い止められねへで愈々本陣が危くなるといふ間際にはあせればあせる程やりきれへで其結果は突啄鳥の嘴の喰い違へとなつて、とゞのつまりは敗殘の身といふ奴になるんでさあ。難かしい文句でいやあ生存競爭の落伍者とでもいふんでせう、こんな處に落ち込んであゝ〳〵つたと氣の付く時分にあ、もう希望の光なんてものも消え掛り總てが悲哀の色とかいふ奴に取圍まれ只もう淋しさと悲しさとが猛烈とか痛切とかいふ勢で骨身に徹へて來るんだから話になりませんや。

旦那の前だが、俺も元は神田の上水で產湯をつかつた人間ですぜ、流れ〳〵て

こんな處へ自分から逼ひ込んだのか追ひ込まれたのだかそこは解んねへが　斯ふいふ所へ落ち込んではもういけねへ。牛は牛づれ、馬は馬づれ、と世間でよくいふ奴だか世間並に身の振り樣がなくなると妙なもので同じ樣な手合の境遇に落ち込んでゐるもの丶所へ類を以て自然と落ち付くことになるから仕樣がねへ。處へ持つて來て外からも內からも一人增に二人增へして行くんだからたまらねへ　イヤ俺は未だに鰥寡孤獨ちう奴でこれといつて定まつた女房もねへが　此近邊では內で造らへる方が外から入つて來るものより多いんだから助からねへ。世間の奴等の中には子供の出來ねへ事を工夫してゐる連中があるつてへことを聞いたが此近邊の奴あそんな考へのあるものは一人も居れへ。實際子寶は天からの授かりものだから大切にしねへちあ今日さま申へ譯のねへ譯だ。處がこの子供てえ奴が中々鹿馬に出來れへもんで。俺は一人者で決句氣樂に暮して居るで　時にはうるせへと思ふことがねへでもねへが中々賑かなもんだ　此奴等もこんな處で生れちあ全く生涯浮ぶ瀨もねへが、此奴等がだん〳〵增へて行くと俺達の長屋も中々陽氣になつて來て日に何遍も面白へ事が出來て行きまさあ、そりあ子供の增へることあ俺達の苦勞が增へて行く事になるんだが、よくしたもので親子の情てえ奴があるから結局其日々々に餘計に稼ぐ事に骨を折りやすからたとへ困しいにせよ亦面白へ事もあるんで折合が付いて行きまさあ。それからこう近所の人數が增して行きますと妙なもんで交際てえと大きいが御互へに知り合になるとまんざら他人といふ氣にもなれねへから、金の都合を計る、子供の守もする、夫婦喧嘩の仲裁もする、智慧も借すといふ事が多くなつて行くんで御互へにこんな處に居つても苦しい代りにあ樂しみも出來るつてんでさあ、雖かしい文句でいやあ精神上からも經濟上とやらからも共通の利害關係が出來上るとかいふ奴でさあ。

ナニ御前は中々物識りだつて？。違にれへ。此近邊ではこれで顏役だかられ。まあ世間の奴等のいふ部落てえ處は何處の國へ行つたつて起りは大程こんな樣な譯に相違れへと思ふ。

旦那はなんですか。此間來た樣な何とか會の御役人さんですか。違ふ？、はてな。近頃は不思議と色んな奴が舞ひ込んで俺達の樣子を見て行くが俺達は薄氣味が惡くつて、いけれへ。それとも敷地實測とかいふ奴で工場でも出來るんですかれ。あいつにかゝるとたまられへ。俺達に挨拶もしれへで急に追つ立てを喰はすかられ、それでもれへ。はてな、一寸說明が出來れへ。旦那氣を付けへと、こんな所の奴等は隨分僻んで居るで、たまにあ向ふ脛をぶつ喰ふ事もあると思つて實へてへ。

俺達の樣子を調べて何になんで、そりあ世間は廣いから亦何かになるんでせうが、俺達にいはせるともつと外に爲なけりあならねへ問題が澤山あると思ふが

れ、へゝ！やつぱり大切な問題なんですか。

成る程！そりあ俺達だつて市民にあ違へれへ人口の調査とか戸籍調べとかいふ時はお廻りさんが見へるから、これでも其時ゝ肩身が廣へ譯だ。

こんな部落にも名前があるつてんで。へゝ　可笑しなものだな、尤も人間でも名前のれへものもあんまりれへから、やつぱり部落だつて、世間に通る名前の一つ位あつてもいゝ譯だ。そりあ東京は廣へから隨分有名なのがあるでげせう。大阪にも負けれへ樣なのがあるてふ事はまんざら初耳ではれへ。名前の名高いのは結構に違へれへが俺達の住んでる區域に何も特別に部落だとか何々窟だとか無暗に名前を付つたがつて何處までも、繩張を極めてかゝろうちうのは受け取れれへそりあ俺達も自分で繩張を極めて、世間と遠く離れやうとする惡い癖もあるに相違れへと思ふがれ世間の奴等も俺達をいつまでも遠巻きにして近づがれへし、又近か付けれへのは何ういふものでせうなまあ御覽なせへ。此の界隈も近年の樣に世間の景氣のゐゝときは、たとへ一時でも火の付いた樣に活氣があるぢありませんか。何うですへ、そら！あの賑かな笑ひ聲は！

しかしれ此の路次の笑ひ聲も何時迄續くんだろうか。考へて見ると心細へな。世間の景氣が下火になると思ふと的面に寂しい悲しい幕が一時に降りてくるから實際へ、可愛想でならればへ。今迄は内からも外からも增へる一方だつたのが今度に反對へにこの界隈から消へて行くかられ。そりあ中には立派に出世をする奴もある事はあるがれ、大程はこの路次並に義理の上ろらも居堪れれへ破目となつて住みなれた家！汚れへ家にあ違へれへが自分の住みなれた家はやつぱり離れるのはつれへと見へて後ろ髪を引かれる樣な氣持で飛び出すんだがれ、そこは俺達の連中ちや世話はれへんで大程はこつそり夜中に立退いて行くが、さて別に當のあ

る譯でれへから今日は東へ、明日は西と放浪の巻に漂ふことになりやすが、それでも一軒の家を借り込んで居る連中はまだ〳〵上の部で下の部となつては犬にも劣るといひやすが宿無しといふ奴で斯なつてはもう駄目でがす。大阪にもこの手合が一時數千からあつたと聞いてますが、こりあ人間生活のどん底に落ち込んだ連中で世の中の樂しみかあるのやられへのやら、食ふ物と着る物はあるにしても、住む處のれへ樣になつてはつまり世の中から葬られた樣なものだれ。

俺達は目のあたりこういふ悲しい成行を本當に見て居るし、亦俺等もやがては同じ樣な運命の流に巻き込まれるんだと思ふと、寂しいながら一軒の家を守つて其の日〳〵を氣樂に送つて居る間が俺としてはたまらなく嬉しいんでがす、それだもんでこんな汚れへ陋屋でも立派に一軒の家だがられ、住めば都とやらで中々離れられれへ、妙なもんで間口は一間足らずのこんな狹い家でも俺には切つても

切れねへ情合が出來て愛着心とかいうんがれ、どこまでも俺と家とが二つに割れれへ事になるんでさあ。まして一軒の主人といやあ社會てふ奴の一員とかいふんでせう。出來るなら俺も折角こうやつてるからには末は家庭といふと大きいが小なりとも立派な一家族の親父になつて見てへな。

旦那の前だが俺達の樣に小さいながら一軒の家を持てるからにあ、たとへ日掛何錢かの貸借でも立派なもんで、上流の人達が色々の名前で澤山御邸を持てるのと大した變りはれへと思つてゐる。だがれさう威張つた處で始まれへ。御覽の通りの仕末で一軒の主人とはいふものゝ其日暮しの危れへ綱渡り朝晩の貯へのある譯でれへ、いはゞ世間でよくいふ赤貧洗ふが如しといふ如でせうから助かれへ。

貧乏にもよりけりで昔の貧乏人の住居と今日此頃の貧民借家とは全く話にならねへと思ふ、まして世間の御連中と俺達の家とは全く別物ですぜ。たから俺達が家だの住居だのについての考へが自然と違つて居るのは爭はれれへと思ふ。ナゼつて、旦那にも似合はれへ。

世間にある御邸だの御住居だのちうのは皆御主人樣の都合のゐゝ樣に出來てるでがす。尤も借家てへ奴は中々そうはいかれへが、それでも工合が惡るけばあどんく大工や左官を入れて模樣替へちう事をやることが出來るんで、御主人公の氣が變りあ亦西洋風にも建て代へる事も出來やうてんでさあ、親讓りの家にしたつて御子息の氣質が違がやあ亦勝手に造り直す事もありまさあ、そう何邊も建て代へをやる內にあ。面白くれへ事になると此度は新築てふ事になるんで、孫の代にあ孫の自由になるんでがせう。詮じて見れば千々孫々永代の墓見た樣なもんではなうて其の日〳〵の風次第でどうでもなるんでさあ。處が、反對へに俺達の家と來たら、主人が其日〳〵の風次第と來てゐるに、何うでせうこんな小いぼけな小屋が、吹けば飛ぶ樣な構へでありながら、俺達にあ、何うする事も出來れへんでれ。こんな堀立小屋見た樣な家でも、火にも燒けず風にも潰れれへである間はたとへ何十年でも俺達の樣な同じ手合が次から次へと入り込んで亦次から次へと逃げて行く樣子は、いはゞ人間の容物とでもいふんでせう。年々歲々人同じからず、歲々年々家は變らず、とでもひれくる處かれ。ハゝゝゝ。こんな危れい骨組でもなんと壽命の長げへ建物ぢあれへかこう考へて見るとこんな家でも馬鹿に出來れへ、旦那方にしても研究とか調査とかいふからには一つ充分力瘤を入れて貰ひていと思ふ。

中々觀察力と見識があるつて！　ゝゝゝゝ。ナニ大へした事もれへが旦那の話につり込まれて俺達の考へのある所をさらけ出した丈でさあ、しかしれ、本當の處俺達は俺達丈の理屈を持つて居るにしろ、考へた丈で何うする事も出來れへ。其日暮しの嶮難な生活をしてゐる俺達は

夢より外に思ふことは少しも出來れへ、夢だつて中々思ふやうには行かれへのみならず、明日の事を考へてると苦勞と心配が先に立つて、夢さへ結ぶ餘裕のれへのだから、とても、世間の色んな家については一々考へた事もれへし、美しがつた處で初まらねへ、自分の頭の蠅でさへ中々言ふことを聞かれへのに、俺達がいくら力んだ事で蛟蛇でさあ。まあ旦那方の樣な特志家の御連中に實際の處を見て頂いて何とか一工夫して貰へりあ、こんな結構なことはれへんで、此界隈も今にもつと仕合せな事になるに違へれへ、旦那！賴みますぜ、いゝかれ。

こうつと、あすこの長家は妙に誰が住んでも病氣になるんで「幽靈長家」と呼ばれて居たつけ。處がれ、爭はれれへ、此頃の御醫者の調べによつて、何んでも結核の巢窟だとかいふ事が解つて大騷をした事もあつたつけ。此頃では御醫者も時々巡回して來るがれ。この病氣てふ奴はさすがの俺達も貧乏神より恐ろしいと思つてゐる。大程の事は俺達も我慢と襲度胸で押通す事にしてゐるが、弱り目に祟り目でこの厄病神に取付かれたらもう助かられへ。大低の奴は參つてしまひまさあ。俺丈は別だ、何ういふ譯か貧乏神には取付かれてゐるがこいつには此年になるまでまだ厄介にならればへのは全く不審議だれ、

しかしれ。この俺ももう先が見へてる夏はたまられへ暑さと、うるせへ蚊や虫けらのために苦しめられても、大程は我慢で追拂つてゐつが、大嫌への冬空になるつていふと、やりきれれへ。横つ面吹き切る樣な寒風に、梅の花見てへ樣な吹雪が舞ひ込んだと來たら、本當に徹へるれ。路次は鐵の樣にカン〳〵鳴る時分には破疊は石の樣に冷え切つて居るしれ、壁は壁、障子は障子で勝手に固くなつて震へるし薄い煎餅蒲團に籠城して居る難行苦行は思ひ出しても寒くなる。ハックショイ。仕方がれへから御互へに、苦しまぎれの工夫から。人いきれで防がうとなるんで雜魚寢の秘術を行ふより外に策も盡き果てるんでさあ。汚れへ話だが小便がしたくつても、共同便所まで出掛けるのが、辛れへので一寸門口で失敬するとなると、さあ、飯焚場も便所も同居するることになるんで、忽ち非衛生的だといふ問題が持ち上ることになりやす、これも便所が飛離れて居るからのことて、無精は俺達の持前で仕方がれへ。

掃除も何遍御小言を聽くか解られへがこりあ持前の無精丈ではれへんで勞力と金錢の問題てへと大きいが、割合へにそこいらは勘定高い話だが、つまりは苦しいんだれ。それにたまさか掃除をして見た處で掃除榮への仕れへ家だかられ、とても御邸だの御住居だのつていふ處と一所にならればへ。路次の溝だつて、ほんの眞似見た樣なもんだ。何遍劍突を喰ふても御飯時には方々の小せい世帶の流し汁が一度に注き込むんだから、やり切れれへ、直ぐに詰つて、そこいら一面にジク〳〵して居るのも無理はれへと思つて貰

いてへ。

夜は夜で街燈や瓦斯燈のある譯でれへし。路次は「八幡知らず」の様に曲りくれつてゐるので危くて話になられへ。とて、旦那方の來る處でれへ。おまけに、御互へに小さな所帶でも道具は相當にある所へ家の中に入れ切れれへなら狹い路次へめい〳〵陳列してゐるんで、全く足の踏み場もれへ仕末、察して貰いてへ。

火の仕末かれ。そりあ御互へに注意はしてゐるで、これでも火の危れへ事は心得て居るが。れ小さいながらも夫々一軒毎に大切な釜戸を持つてゐるでれ考へて見ると危へ事此上なしだ、怪しい火焚場の多いこの界隈で萬に一つ小火でも起したら本當に事だ、こんな狹い路次の中だから、混雜は免れれへが、俺の様に奥に住んでるものは木戸口で燒け出したら全く袋の中の鼠だ。

こう考へて見ると、恐ろしくて一時も居たゝまられへが、俺達の様なものは、そんな心配を始めた日にあ、際限がれへから、善い加減にしてなるべく餘計な心配はしれへ事にして居るで、案外平氣で居られるんだれ、世間でよくいふ「盲蛇に怖ぢず」てんで、大概の事は成るだけ忘れてしまうんで「來年の事をいふと鬼が笑ふ」てふのは、俺達の御先祖が作つたんだと俺は思つて居る。いや、この位の考へがれへと本當に年の暮の切迫詰つた、難關は押通れれへと思ふし。相變らずこうやつて、まあ世間並に日出度へ新年を御迎へした譯だれ。

イヤ、御目出度う御座います。新年早々口から出まかせに、こんでもれへ事を喋つたれ、俺は口から先に生れたんだとよく言はれたんで、「口は禍の門」とやらで俺もこんな所へ、逃げこんだと思つて貰いてい、しかし持つて生れた口だから一生噤らずに暮らす奴は愛取れれへが、用心しれへと寒を引く損もあるから此の位にして於いて最後に旦那に御願いしていのは、近頃は此界隈でも表通りは往來の道路も立派に出來るし、電車の響も的面に俺達の枕元へ徹へる様になつたし、大通りの町家は建てかわり建てかわり、日一日と町中の体裁が目新しくなつて行く様な時代となつたんで俺達も市民の一人といふんで、此年は大に考へて居るがれ。俺達の生活に付き纏つてゐる夏の時分の開け放し主義と冬の夜の雜魚寢方針が此界隈の風紀とかに影響してエート何んだつたつけなーそうそ、積極的氣分が何うとかいふ問題になるんなら、旦那方の力で何んとか此奴を改善して貰いたいと思ふんで。賴みまつせ。ハヽヽ。（終）

□屋は□

丸屋、四阿屋、
時奏するいみじうをかし。いみじう寒きに、夜中ばかりなどに、こほ〳〵などごほめき、沓すり來て、弦うちなどして「何家の某、時丑三つ、子四つ」なと、あてはかなる聲にいひて時の杭さす音などいみじうをかし。子九つ、丑八つなどこそ、さびたる人はいへ。すべて何も〳〵、四つのみぞ杭はさしける。



"Ka"の獨白

會員　須藤眞金

建築史ローマンス

埃及第十九王朝の三代目の帝王ラメス二世の"Ka"は死者の司神オシリスの許から自分の石棺へ歸つて來た。

壯大な、無技巧な角柱が二列に並んで居る、百呎に六十六呎のアビドス總本殿の大廣間、その兩側に打ち並んだ數多の小室の一つからフワリと浮び出した、白い氣体の一塊は幽暗な聖殿の柱の間を、最奥にさす一道の光明を目當てに、拜殿の方へと泳ぎ出して行つた。

殿堂の床は奥へ進む程次第々々に高く成つて居て、白い氣体の高度はフワリ〳〵と高まつて行く。すると其の度毎に天井の石板は次第に低く迫つて來る。その建築法の用意が、ほの暗い殿堂の最奥に赫つと光線を導き込んだ空洞の拜殿に、一段の神祕と尊嚴とを加へて居る。

白い氣体は死者の神オシリスの前に低迷して感謝と告別の祈りを捧げた後、元來た方へ引返して殿堂の外へと立ち出でゝ行つた。

其處は明るい世界だつた。今迄のアビドスの神殿の裡とは打つて變つた明るい最う樂しい樣な世界だつた。そして其處は白い氣体が彼れの肉体の儘に宿つて居た頃活躍した世界であつたのだ。

然がもその白い氣体の宿つて居た肉体は此の埃及の國の帝王であつた。白い氣体はラメス二世の"Ka"なのであつた。"Ka"は懷かしい娑婆の空氣に觸れ、太陽の光りを浴びると早速、其處に生きてた頃の事を思ひ出した。

「俺の親父は偉い帝王だつた。俺の親父が出なかつたならば、あの時の埃及の國は滅亡したかも知れなかつたのだ。俺の親父のセチ一世は東西南北の國を征服した。痛快だつたのはシリヤの反亂を平げて平げついでに其國全体を奪ひ取つて了つた時だつた。骨の折れたのはセッタイト王國との戰ひだつたそして親父は遠い

國を征服して此の埃及の國に凱旋して來ると、屹度殿堂を建立した物だつた。そして其の殿堂の壁一面に戰ひの總物語を彫刻しては喜んで居た。しまいには最う戰捷を記念し度い爲めに建築を起すのか建築をし度さに戰爭をするんだか譯が分らなくなつて了つた。それ程親父は戰爭をして、そして建築を殘した物だつた。そう云やあ親父が偉い帝王であつた樣にあのパケンクホンスウも天下の名建築師だつたなあ」

[illegible]は過古の追憶を咳き咳きニールの左岸をフラ〳〵と上つて行つた。

「親父が餘り戰爭をして了つたので、俺の代には最う對手が無くなつて了つた俺は致方が無いから埃及の人間が脊て行つた事も無い、上エシヲピヤやスーダンへ遠征をしてやつた。矢張り俺もあのヒツタイト王には手古摺づたけな。——だが俺の仕事は戰爭よりも土木だつた。あのニール河と紅海との運河を完成した時の愉快さは、ヒツタイト王國を降服させた輸快よりも遙かに大きかつたからなあ俺は嬉しさの餘りに直ぐ樣カルナックの圓柱廊を增築して、その壁一面へ悉皆り工事の模樣を彫刻させたのであつた。そうだ俺も親父に負けずに建築を起したのだつた。ベイト、エル、ワーリの岩窟殿堂、あれにはヌビヤ戰爭を表したんだなそれからゲルフ、フセイン殿堂にはフイチット戰爭を刻んだ。又俺や俺の一族の坐像をアブ、シムベルの殿堂に殘して置いた。それから愛妻のネフエルタリとハソルの女神とを一緒に祭つた岩窟殿堂も營んだ。それからクルナの神殿、ゲベルバーカル。スペオ、アルテミドス。未だその上にラメシウムやカルナックの完成も俺がやつたのだつた。それにつけてもあのメゲンクホンヌウは怎うしたろう。あの男は親父と俺と二人して獲た戰勝の記錄を一人でもつて築き上げて呉れた。それから妻は怎うしたろう、妻の子フエルタリは。あゝあの時分の事が夢の樣に浮んで居る。馬鹿に記憶が判然として來た物だな」

[illegible]は急に氣が付いた樣に宙に停まつて四邊を眺め渡した。ナカタの邑であつた。

遙か彼方の丘の上には城砦の樣な日干の煉瓦の壁体が聳へて居る。

「おゝ、あれはメナ王の墳墓（マスタバ）だ。」

[illegible]は懷かし相に第一王朝の遺跡を眺め入つた。

「そう云へばピラミッドは怎うしたろう。ギザへ一寸廻つて見よう」

やがて[illegible]は怎う咳いてまたフワ〳〵と儚い彷徨を續けた。間も無くニールの水面から百五十呎の高地に巍然として聳へ立つ、クーフ、カフラ、メンカウラの三ピラミッドが視界に表れた。共に第四王朝の帝王の墳墓てマスタバがピラミッドに進化した初頭の物である。

「いゝ形だ。何時見ても氣持のいゝ建造物だ。あの愚鈍の表現の樣な單純な形のピラミッドが、遠くから望見して居ると其の見る位置が變る度んびに外壁の交叉

に絶へず限りの無い角度の變化を生じて無類の均齊美を發輝して居る點が、實に吾が埃及の建築術の精妙だれ。實に莊嚴だ。然し待てよ……」

「K君」は三つ打ち並んだ。ピラミッドの形を凝視して一寸小首を傾けた。

「矢張りさうだ。大きいのがクーフ、眞中に在るのがカフラ、小さいのがメンカウラのだ。然し酷く崩れた物だなあ、滿足に昔の面影を傳へてるのはカフラの上部半分丈けぢやあ無いか。怎うしたと云ふんだらう。待てよ、今は一体あれから何百年經つて居るかしらん、或は幾千年と云ふ年月になつてるかも知れないなそうだ〳〵早く歸つて見よう。何だか俺の墳墓も氣に成り出したぞ」

「K君」は愕しくニールの岸を上へ〳〵と登り出した。「だが、あれから幾百年經つたか、何千年經つたか知らないが俺のあの岩窟墳墓を取壞す奴もあるまい。ピラミッドの樣な莊嚴な墳墓を拵へるから侵害を被るのだ、いくら通路を巧妙に錯綜させても、處々を巨石で遮斷して見ても、其れは駄目な事だ。アメンヘマット王（ラビリンス）の迷宮だつて怪しい物だ。あんな華美な物と異つて俺の墳墓なんがは發掘されてる氣遣は先づあるまいな、此の埃及王國の創立者のメナ王のマスタバさへ先刻の通り殘つて居るのだも、例令此の埃及は今はセミ族に侵略されて居ようとも俺の墳墓は安全を保つて居なければならない筈だ——然し何と云つて自分の心に自分で氣休めを強ゐて見ても、怎うしても氣にかゝる。急ごう〳〵」

「K君」はまつしぐらにセテイの埋葬殿へ飛んで行つた。そしてニールの川谷のその岩窟殿へと姿を沒した。「K君」はそれから急勾配に傾斜した廊下と、階子段とが連續した狹い通路を奥へ奥へと突き進んだ。そして種々の部屋を通り過きた。その両側の壁には祖父のラメス一世や親父のセチ一世へ讃ては自分の治世の間に起つた色んな歷史や生活が刻りつけられてあつた。「K君」は又追憶の甘さに誘惑されてその壁畫を一つ々々見て行くと、怎うしても記臆に無い處の不思議な說明に遭遇した。不審の眼を睜つて尙も思ひ出の索引を引つ繰り返して居る裡に不圖その王座の人物が息子のメレンプターなのに眼が止まつたので、之れは自分の沒後の出來事だつたなと氣がついた。

やがて最終の部屋に自分の石棺を見出した。「K君」は直ぐに三重の貴い櫃の裡へ順々にくゞり入つた。そして其又裡の木棺へも這入つた。其處には自分が嘗て百年近くも宿つて居た肉体が、白やかな香料と樹脂とに滿され、白布で悉皆り繃帶を施されて横はつて居た。「K君」は其處でゆくりなくも元の肉体に歸つて了つた。だが何だか勝手が異つて居た。よく〳〵肉体を調べて見ると腦と腸とが抜かれて居た。「K君」は泣き出し相な顏をして四邊を探し初めた。

すると棺と一緒に葬つてある小さな壺が見付かつた。早速蓋を取つて覗くと腦と腸とは椰子と葡萄酒と香料とで洗ひ淨

めて、それに納めてあつた。イカは大喜びで早速それを肉体へ持ち込んで、安らかに肉体に再び宿つたのであつた。

だけどもイカは餘りに疲れて居たのと、其處が餘りに靜寂である爲とで、肉体へ復歸したといふ事も忘れて其儘長く眠つて居た。

ワーツと云ふどよめき——聞くともなしに聞き入つて居ると其れは正しく矢叫びと関の聲だ。

地上の戰ひの物音が、此の奥深い岩窟の底に、他處の世界の響きの樣にひゞいて來た。

ラメス二世は寢棺（ミユミイケース）の裡で不圖眼を見開いた。

「そうだイカが歸つて來てるんだ」

直ぐに氣が付いて棺を押し明けて柩室へ飛び出した。そして聲する方を賴つて歩を運び出した。関聲はカルナックの殿堂で湧いて居た。

ラメス二世は何事だろうと心を躍らせてカルナックへ驅け付けた。すると其處には見た事も無い、異樣な服裝をした兵士が澤山の馬や戰車を引き具して凱歌を擧げて居た。

上埃及に攻め入つたデセエの將士が今此處を占領したのであつた。そしてデセエの將士達は今迄埃及を征服した大國民がその戰爭の表章として方尖塔（オベリスク）をその國に持つて歸つて行つた樣に、何がこの遠征の記念を掠奪しようと爪牙を砥いてカルナックの埃及帝國典型的殿堂であるアメンラ神堂へ大擧した處であつたのだ。

だが豪邁なラメス二世は其等の軍勢には頓着なく懷かしいアメンラ神堂の傍へ憧憬れ寄つた。

「おゝ素晴らしい塔門（パイロン）が出來上つたな、此のオベリスクもの知らない物だ」

ラメス二世は我れを忘れてその傍へすり寄ろうとしたが、そこには大勢の見知らぬ軍勢が居たので、急つと裏へ廻つたそして直ぐに禮拜處へ出た。

「おゝさうだ。此禮拜處が建築されたのは何でも餘程古い時代だつたのだ。そしてテーベ王朝になつてからは國家精神の中心點になつたのだ。それで第十二王朝のアメンエムハト一世やセヌセルト一世が之れを再建したのだつた。ヒクソス王の時代には此の埃及は衰微して混沌時代に陷つた。だが此の禮拜堂の神聖丈けはちつとも犯されなかつた。確が、それから十八王朝のトトメス一世やハチエプウト女王が徐々に修築を修つた左樣に覺へて居る。トトメス一世と云へば增築した柱廊や柱殿、それから正門などは怎うなつたろう」

ラメス二世は夢を趁ふ樣に柱の林立した廣堂の方へさまよひ出た。

「おゝ十六角の柱よ、懷かしいな、之れはトトメス王が古代式の建築に憧憬して建てたのだ。おゝ蓮（アダン）、と紙草（パピルス）との四角柱よ、是れは上埃及と下埃及との徽章だつたな。ハツハツハ上下を轉倒した柱よ、お前のその柱礎（ベース）よりズツト大きな鈴形（ベルシエープ）の柱頭（キヤピタル）は未だ殘つて居るか、實に奇怪な、氣まぐれな創案だつたな。俺の建て廻ら

した復讐へ出て來たか、然し此の浮彫は怎うしたと云ふのだろう。悉皆り廢滅して居るぞ、只象形文字の頌德文ばかりが黑花崗石の壁に殘つて居る丈けぢやあ無いか。噫。俺の遺業も荒廢して了つたのだ」

廣大な、そして數多の殿堂の裡をそれからそれへと迷ひ歩いたラメス二世は自分の增設した壁に對て暫く長歎息して居た。

攻略者デセェの將士も表の塔門（パイロン）を潛つてヒポスタイルの廣堂へ雪崩れ込んで來た。そして掠奪の眼を輝かして此の圓柱の林の裡を、彼方此方と歩き廻つた。その裡にいつか此の非凡な遺趾の妙味に悉皆り魅せられて了つて、掠奪の念も打ち忘れ、且つ彼等が經由して來た貧乏や疲勞や、あらゆる種類の危險、將來の困難の期待も何もかにも奇麗に打ち忘れて了つて、全隊の兵士は此の大藝術品の懷で大なる沈默に陷沒して了つた。

稍暫くの沈默の後で其全員の心には此の墟趾こそが彼等の幾多の光榮ある行動の目的であつた樣に、又恰も彼等はその征服を完成したかの樣に感じ出したのであつた。そして一齊に喝采をした。

その喝采に感慨から醒めてラメス二世は又彷徨を續けた。

「おゝ、木伊乃が、木伊乃が」

兵士の一人がラメス二世を指して聲を頒して叫んだ。ラメス二世はその聲を聞くや、云ひ知れぬ恐怖の感念に襲はれたそして痙攣的に宙を飛んで埋葬殿へ遁げ込んで了つた。ラメス二世の疾驅が餘りに速いので兵士は遂に彼れの墳墓を見極はめる事が出來なかつた。

「俺はもう沢山だ、丈けではないんだ、肉体を伴つて居たんだ」

ラメヌ二世は柩室へ歸つて來て、ホッと一息ついてから、漸く氣がついた樣に自分の身体を眺め度した。

この手を見よ、この足を見よ、俺の肉体は宛然枯れた葦の樣になつて居たのだ俺は最う帝王ではなかつたのだ」

さう云つてラメス二世は寢棺（ミユシミーケース）の裡へ這入つた。

「いや、さうぢやあ無い、俺は矢張り帝王に相違ない、只俺の司配すは領分が少くなつた丈けだ。俺の國は只此の柩室の裡丈になつのだ」

それからとうとラメス二世は遂に一步も柩室の外へ出なかつた。（完）

大阪市の質屋調べ（大正三年）

其數八百八十八軒貸出口數百二十七萬二千に及ぶ、金高約二百五千錢圓なり、質草は衣類を第一として蒲團、蚊帳、鍋、釜、膳、下駄、帽子、靴、鏡台、火鉢、時計、大工道具等である、主として細民を相手となる高利貸であるのは言ふまでもない、近來質屋市營を唱へる人の多いのは、我國持種の社會政策と考へて居るのであろふ。



東都の友へ

會員　甲南生

K君！　寒月高く冴えて、冷氣膚に迫る夜の寢られぬまゝに亦筆を執りました。筑波颪の吹き荒らす武藏野の夕や如何にと言ひたくなりますが、あの寒い〳〵北風に曝らされて東京の町を歩いて鼻水を啜つた事を思ふと當地はまだ〳〵暖い方で、西風の強い日はあつても、一冬に雪らしい雪を見ない丈、土地の異つてゐる事を覺らない議にはゆきません。

K君！　大きく見て一國の氣候が國民の氣風に影響する處があるとすれば、小さく見て當地の贅六質氣と江戸子肌の氣の荒いのとは反面に氣候の差の然らしむる處があると首肯出來るかと思ひます。それと同時に時代の變遷は亦一般氣風にも影響する所があると聞いて居りますが、今日の贅六は昔の贅六とは似て非なるものがあると同樣に東京子　必ずしも江戸子　なりとの斷定は出來ないかと思ひます。

K君！　聞くならく北條早雲が關八州の經略に智嚢を絞つた當時から江戸の町民には自治を許したのださうで、德川家康が北條五代の恩惠を慕ふ江戸つ子を治めんには亦特別な自治制を默許しない譯には行かなかつた。そして苦難百戰の三河武士を旗下に集めて、彼等を控制した政略は茲に今日に言ふ江戸つ子の氣風を順致した大略と聞いて居ります。

K君！　今日の東京には純なる江戸つ子氣質は幕末の荒波に洗はれて其影を失つたかの樣です、そして薩長政府の治下に帝都の市民は日本海の荒波に養はれた長州氣質の思潮に尙ほ消え殘る江戸の花を咲かせて渾然と或種の風韻を養はれ來たのではあるまいかと思ひます、九代目團十郎の藝風がこの新らしい時代に獨特の光を放つたのは何かを語つて居ると思ひますが。

K君！　贅六氣質の基因もまづ數百年の昔に溯らねばなるまいかと思ひます。織田信長が石山寺の政略に苦心した事や、

豊太閤が錦城の築造に満身の覇氣を封じた事や、慶長元和の戰後や、挑山時代の歴史が織り出したる數多の波瀾の後に劍を捨て甲冑を脱いで牙籌に依つて天下に覇たらんとするものゝ集合地は果然淀川河畔であつたかの様です。彼等は武を棄てゝ武を笑つた。

K君！「贅六」とは當時の大名生活の贅澤六ケ條を擧げて世運の變轉を諷せんとした難波町民の警句であるのだと聞きました。彼等は斯くの如き侮度を持して東亞の商戰を把握せんとしたのである。哀しい哉　徳川政府の政策は俄然一變した、彼等の覇業も茲に一頓挫を告げて、意氣の委微は彼等の子孫に深刻に感じつたのでせう。彼等の警句はあたら彼等の子孫を罵倒たる代名詞と轉用されてしまつたとか聞きました。

K君！　若し歴史が繰り返さるゝものならば今日の彼等が子孫は、正に喜んで彼等の祖先の警句を繼承して、開放せられたる東亞の波を凌いで傳來の覇業を完成するの時期かもしれません。

茅渟灣頭の波は靜かなりとも「贅六」的精神の發露はあらゆる苦闘を耐へて勇往邁進の進戰を策すべき時が來たのだと思ひます。事實は總てを語りませう、近時贅六地方の活氣横溢は新時代の轉回を暗示して居るのではありますまいか。

K君！　君は元來當地で生れて當地で養はれたのだと聞きました、僕は元來此地で生れて此地で育つた、世路の轉變は人爲の如何ともすべからざるものがありとすれば、僕が當地に在つて斯地の我印象を告白して君の机下に捧げることが必ずしも無意義の業ではあるまいか。それと同時に貴地の觀察を他日僕に警告せらるゝの折あらんことを伏して希はざるを得ない。

K君！　乍併新しい時代には新しい觀察と新しい理解を以て新しい意義を確立するの必要があります。東だ西だといふた處でこの狹苦しい日本の内では話になりません。今の時代はあたら一地方の興亡盛衰を論じてゐる時ではないのである須らく更らに大きく見て新日本の研究に滿空の熱血を注ぐべき機會であると思ひます、進んでは東大陸の運命を考察すべき重大なる契點に立つてゐるものである事を考へればなるまいかと思ひます。

K君！　我建築界の將來についても此重大なる意義の樹立を急務と思ひませんか斯界錯多事の際數多の解決すべき問題は山をなして前途を封じて居ると思ひませんか。曼々山積して未だ手をだに觸れてない前途の負擔を開拓して行かればならぬ責任があることを感じませんか。考へて見ますと前途の負擔と責任は到底一人や二人の力で如何ともすべからざるものがあります。

K君！　復興期時代の建築の定義や意義や主張は早くから我國建築界の思潮を誘導して居りました、過去を省みれば吾々は此等の思潮に養はれて來まして今日に到つて居りますが、數多の疑問は年と共に重つて行きます。個性を主張する「ル

ネッサンス」の大潮流は十九世紀文明の母でありませう。同じ藝術の腹内に産まれた近代の建築は、やはり個性の主張を何處迄も貫かうとして居ります。

K君！　乍然少なくとも繪畫と彫刻と區別された建築の内容には特別に社會との交渉を包含してゐる丈、個性の主張を貫くには幾多の矛盾が現はれて來ます、況んや幾多の人間の協力によって完成する大規模のこの藝術は根底に個々の個性の衝突は免れ得ない事かと思ひます。復興期建築の代表作たる羅馬の「セントピーター」大寺院の大建築が、百年の歳月に亘つて幾多の個性の衝突を畫いた苦い只長い史上の生ける事實は何を語つて居りませうか。

K君！　「クリストフア、レン」は近時建築家中の幸運兒とされて居ます。それにも係らず倫敦の誇とせらるゝ「セントポール」寺の經營に當つて國王の個性と衝突して涙の歴史を現實に殘して居るではありませんか。斯くの如き悲壯なる史實を語る大建築が史上の花と歌はれて後人の崇拜の的となつてゐるのは何んでありませうか、當代の國民的思潮や民族的理解の大波が畫く圈内に個々の問題を沒却してしまつたのではありますまいか。

K君！　今日の吾國に漲る新しい二大思潮があります。一は米大陸に溢るゝ科學的建築觀の奔流と他は歐大陸を風靡しつゝある中歐同盟國民の分離的思想の横流とであります。此の二大思潮は前後して我國建築界に流れ込みました、遏然か果た暗合か此二大思潮の根底には科學的並びに力學的の徹底せる思想が横はつてゐるので相共に犯す處なくして到來しました、そして之れが輸入を謀つた我國建築界は到然波瀾が卷起つて建築の意義についての疑問の衝突が解決の成果を得ずして氾濫して居ります。

K君！　吾々は此現狀に對して少なくとも、退いて大觀を執へ得る事の出來た丈は仕合せでありますが、此の波瀾萬丈の間に養はれた若い人々の思想は果して徹底的解決を下し得たでありませうか、復興式建築の意義の疑問は今に吾々の頭に宿つて居ります。そして新たなる意義の建築觀の裡にも少なからぬ矛盾を發見するのであります、以上は消化せぬ食物が腹の中でうなつてゐる樣な一種異樣の狀態に尚數年の苦悶を持續しなければならぬのでありませうか。

K君！　前に述べた新來の二大思潮はいはゞ二つの大なる國民の僞らざる眞面目の反映を語るものであります、所謂個々の小觀を超越したる大同團結の勇奮の成果が到來したのであります、彼等にも個々の個性を認めない譯ではないのですが包合的民族的大運動の前に個々の小我は見來に放擲して省みない丈の覇氣と雄大なる思想が澎湃として漲つて居ります。此重大なる思想を忘れて、其科學的技術丈を抜き取つて來て我國に植ゑ付けてもそれは無駄であると思ひます。

K君！　或は亦其統一し得た外觀の形式美丈を剽いで我國民に着せて見た處で

れも怜悧なやり方かもしれないが、一時的の歓迎を得るに過ぎません、復興式建築が虚飾の建築であるならば、面は異なつても其手段が同じなれば、やはり虚偽の建築となつてしまふと思ふ、模法に慣れた國民が模法を事とするも、決して悪い事はないと思ひますが、なぜもつと根底から洗つて掛らないかを不審に思ひます。

K君！　今日は個々の小我に没却して頑固な個性を主張する時でなくて、國家的民族的大我の大圏内に融合して民族的大個性の養成に努力を始めなければならぬ時代かと思つて居ます。よくいふ事ですが人の短所は見ないても自個の短所は氣の付かぬものです、各自々個性を主張して自己の短所に氣の付かぬ間は我國の建築界の前途は光明がないと思ひます、須らく各自の胸襟を開いて捨つべきは捨て、守るべきは守り、則るべきは則り、大なる協同の力を結んで、悠々堂々前途を開拓して行くべきであると思ひます、

K君！　五指の交る〳〵動かんより一拳にしかずといふ事は誰れも知る事實であります。殊に社會的交渉の多い建築界に在つては何處迄も協力の一致を計つて個々の小節に拘はるゝ事なくして大團結の新機運を促進し、幾多の犠牲を拂つて以て大義の樹立を將來に實現しなければなるまいかと思ひます、

K君！　我國の建築界は建築專門家丈で出來上つてると思ふのは大なる誤解であります。專門家は其專門の業務を擔當してゐるの任務があると同時に、國民の代表者であるといふ自覺が必要であります澁澤男爵が銀行界を退隠せらるゝ時、「金は天下の通寶である事は勿論だか、銀行員は須らくこれは自分の金であると思ふと同時にこれは人の金であると思はなければならぬ」といふ意味の警句を以て戒められましたが、我建築界も其通り專門家が建築界を占領して居る樣ではまだ〳〵駄目であると思ふ。

K君！　專門家は兎角專門的事項に忠なるの餘り屢大局を逸するの失に陷る事があるを忘れはならぬと思ひます。專門家の意見としては立派でありませうが屢實用を遠かる憂が多いのであります。宜敷社會的連絡と理解とを以て、國民一致の建築を研究しなければなるまいかと思ひます。「日本は專門國に分括されて居る」とは「時務一家言」の著者の皺案であつて諷し得て頗る妙であると思ひます。

K君！　專門家對社會の關係については社會其物も悪いには違いないと思ひます社會が專門家を信頼する度量は實に大きいが、同時に國家的の重要なる問題に對しては夫々の注意を傾注して、研究するの必要と責任がありませう。尤も專門家を罵倒して喜んで居る達眼の士も少なくない樣ですが、罵倒した丈では何にもならぬ　罵倒もよし、警言もよし、訓戒もよし、唯吾々は誠意ある意義のある罵倒や警言や訓戒を希望して止まないのであると思ひます。

K君！　議院建築問題の如きを觀れば直

ぐに解ります、議院建築の如きは國家的研究を要する重要なる問題の一つであります。乍然社會の木擇を自任する新聞社ですら何等眞面目な論議を發表したのを見ない有樣は以て大勢を卜する事が出來やうと思ひます。世上の識者を以て自任する達觀の士亦更に風馬牛の態度を執つて居るのは不可解の現象であります。況んや當然當面の問題として研究をしなければならぬ專門家が一口を緘して語らないのは何ういふものでありませうか。

K君！　山河百里相離れて復何日か相語るの日が來るでありませうか、時は遠慮なく過ぎ去つても此年も愈押詰つてしまひました。相見ては、さて語るべき話もないかもしれませんが、來年は是非一度拜眉の榮を得て親しく貴說を拜聽する折がありませう、さらば凍月傾く寒窓より、君が前途の祝福を祈りませう。

左樣なら。

「大阪地震記」の一節（安政元年十一月四日五日大地震）

一大阪市中之者共、地震を避け、茶船等へ老人女子供等乘せ有之候處へ、大津濱に而、大小之船に狹まれ、茶船等碎け、人死夥敷、又橋之上等へ地震を避候ものた、大船帆柱之爲に橋落候に付、橋より落候死人も亦多し、此頃迄に死骸一つ揚げ候得者、札杯建、所緣之者尋參り、宅へ引取送葬致し候得共、後には誰彼之無差別、川岸より直に墓所へ送り申候、其內には、乳母敷、親敷小兒を抱ながら死し申候杯も有之、誠に目も當られぬ有樣、言語に絕し候、大阪死人、凡三千人と申事に御座候よし

去る五日出書狀差出し候後、地震を恐れ、荷物類船へ積込候處、五日夜大津濱にて荷物積込罷在候船、打碎候得共、大船押込まぬり候節、幸に大船の上に覆り、荷物は不殘大船に打込候故、幸に荷物等無難御座候

大阪より永田愚助引返し歸國に付き聞書、但し十一月十二日着



暗の光

會員　野人生

頃は初夏の晩の事と思つて貰いたい。よい案配に好天氣が打續くので、「スミス」さんは盛々「グレートオーサカ」の暗の空に破天荒の夜間飛行をやる事になつた。城東練兵場から舞ひ上つて豊太閤の夢の跡を驚かすといふので夕方には中の島公園附近から朝日新聞社の塔のあたりに群集の影が重なつてゐる。東へ馳せる電車はどれもこれも滿員の札を掛けてゐる。定めし御城の周圍はもう一杯の黒山を築いてゐることであらう。

「カフエー、ラファエル」の食堂は御隆で靜かなものである。いつも忙しそうに動いてゐる給仕女も今夜は寂しい顔を並べて鏡の前で御互の棚下しをしてゐる。可なり廣い室内はひつそり閑として食卓や椅子迄が規則正しく整列してゐる。「スミス」さんの藝術はこんな處迄影響してゐるのは驚かざるを得ない。

南北に長い此室の東西の壁には御客の顔の映る高さに鏡が張つてゐる。狹い室を廣く見せたい爲であろう可なりの好果が現はれて居るが惜い哉天井が低過ぎる壁が汚な過ぎる。電燈が暗過ぎる。往來からは見ゑ過ぎる。從つて御客も少な過ぎるのかもしれない。

西側の中央の壁際に腰を下して黙念不動の冥想に耽つてゐる男がある。食卓の上には既に二皿の料理が平げられてある食足つて禮節を知るといふか。端然と両眼を閉ぢて靜かなる此男は此冥想を何よりの樂としてゐる。此頃の紳士は通勤の電車の席で昨日の讀み殘りの中央公論か今朝の新聞を讀むに忙しい樣だが、此男にいはせると繁雜なる近代の社會に活動する人間は閑であつたら出來る丈五感を休ませる必要があるそうである。若し暇時の休養を怠つて、絶へず五感を使役する樣な連中はいざといふ時に役に立たない人間であるといふ一家の見識を持つてゐる。早い話が電車の中で讀んだ書物は果して頭の中に咀嚼され得るや否やは蓋し疑問である。それに振動の激しい車中で五號活字の雜誌類が視神經に及ぼす影響に至つては恐るべきものであるさうで

ある、是を衛生上より觀て論すれば一國の消長にも影響すべき重大なる問題となる。僅か二十分か三十分の時間を利用するといふ名目で盛んに視神經を消磨しつゝある紳士達を反省さすには如何にしたらよいかと此男は常に考へてゐる。此男は電車に乘ると先づ下車すべき停留場の名を頭に殘して直ぐに冥想に入るそうである。無念無想の境域に來往して宏大無邊なる心界靈程を活歩する。處が不思議なる哉、下車すべき停留場の名を車掌が呼だとき活然として吾に歸ることが出來るやうになつたそうである。從つて閑さへあれば冥想に耽るのを樂しんでゐるのである。

入口の扉を排して耳の大きな男と顎の長い男とが入つて來た。徒名を「カーター」と呼はれて居る丸顔の給仕女はさつきから手持無沙汰で幅場に座り込んで冥想の男を眺めて居たが此二人を見て漸く寂しさが消えた樣に大きな眼を見張つてゐる。冥想の男が我に歸つて點檢をする左右に兩人は座を占める。

「やあ遲くなりました。あんたはいつでも早いですな」と耳の大きな男がいふと

「今日はふらい寂しい」

と顎の長い男は其邊を見廻した。

「エー」と長く引張りながら「どうも時間の都合か悪くつてね、家に歸つて又出掛けるのもいやだし、直ぐに此所に來るのは早過ぎるしね、」

「そこへ行くと僕等の樣な主人持は時間の都合は尚悪いです」と耳大君はマッチをすつて敷島を呑み初めた。

「スミス」さんの人氣もふらいな。と顎長君は人通の少ない往來を眺めて居る。

「今夜は此處でも「スミス」さんの藝當を見る事が出來やう、どうです見てから問題を討議しては」

と耳大君は提議した

「八時からといふのだからまだ大分間がある、ともかく私も見た事がないから見物丈はしやうぢあないか」と冥想君は顎長君に相談する。

「さうですな」と顎長君は贊成のやうな贊成でない樣な返事をする。

「此前「スミス」さんが、鳴尾で夜間飛行をやつた事があつたでせう、あの時は非見て置かすんばあるべからすといふので出掛けましたがね。」

と耳大君は語り出した。

「君も行つたのか僕も見には行つた。」

と顎長君が相の手を打つ。

「早い方がよいといふので日暮前から梅田へ馳け出けた處が、驚きましたね、見物人の群集には。何しろ開札口から行列が五ツも並んで驛前を東へ箕面電車の方面へ延びてゐるといふ有樣です。」

「一寸待ちたまへ。其行列といふのは何です。」

と冥想君が質問する。

「此頃漸く訓練されて來た群集整理法ですよ。先着順に改札を待つために後から來たものは後へ後へ並んで後の雁が先になることが出來ない樣にして居ます。あゝしないとつまり腕力があつて若い元氣

連中が横暴を極めるために一々警官が立番してやらせて居るのです。」

と耳大君は説明をする。

「しかし警官が居て初めて實行の出來る程人の訓練は心細いね。そこへ行くと毛唐はさすがに個性の發達と一所に義務の自覺を持つてゐる丈はゑらい日本人は權利ばかり主張する事に努力して義務を感ずる個性の訓練がまだ〳〵足らん樣だ。」

と顯長君は一寸意見を挾む。

「そうかもしれない。早い話が電車に乘るときに解る。下りる人が出なければ、入る事が出來ないのを知つて居りながら無理に押込まんとするのをよく見るね。それから自分の便利から入口の近くに立つものが多いから眞ん中が空いてゐるのに運轉臺や車掌臺に一杯にしがみ付いて居る。あれではいざ衝突するとなると忽ち澤山の怪我人の出來るのは當り前だ。」

と冥想君は言葉を並べたが「處で君は電車に乘れたのかれ」

と後を促す。

「いや、とても乘れないと悟つて直ぐに汽車で西の宮に出て今津附近迄歩かうといふ設計變更をやりました」

「僕は行列の中に辛棒をして成効をした成効はしたが此度は車中立往生の憂き目を見た。氣の毒だつたのは神戸から通勤して居るらしい一紳士も用務のため早く歸る必要から驅け付けるとあの行列に出會した。驛員に色々談判して見たが取合はないので大に憤慨して居た。定期乘車券を見せても奈何もないのにはほと〳〵閉口したらしい。」

「驛員の常識のないのは今更始まつた事ではありませんが成程それは憤慨に値しますれ」

と耳大君が同情をする。

「憤慨を通り越して呆れざるを得ないと思ふ。尤もこれは驛員の罪でない會社の無責任だと思ふ。ともかく僕等の樣な見物に行くのと違つて用事のある御客に對しては特別な取扱をするのが本當ではないだろうか。まして定期乘車券を持つて居る客は最も重要な御得意だ。交通機關を與かつて居る會社は斯ういふ際に臨機な處置を爲すべきであると思ふ。

と顯長君は紳士に代つて憤慨する。

「君の憤慨は最もだが澤山の御客の取扱上止むを得ないのかもしれない。理屈はかりでは行かぬ世の中だから、用のあるものは特別な取扱をするとなると皆んな用があるといふて來たらどうする事も出來なくなるだろう。」

「だから定期乘車券を有するものは容れる事にしたら至當だと思ふ。

「しかし、本當に用のあるものは必ずしも定期の御客に限らないし、又定期の御客だつて數の多い事だろうし。つまり會社も選擇に苦しむ結果となる」

と會社の重役見た樣な說明をやる。

『それはさうかも知れないが、ともかく會社の御得意に對して相當の取扱は爲すべきだと思ふ」

と顯長君は定期の御客のやうな事をいふ

「要するにそれは社會的訓練が足らんの

でせう。僕は外の電車で日々通勤してゐますがその會社が御客を盜賊扱ひにしてゐるのに迷惑してゐます御客も無論悪いが一々切符を改められるには、閉口する若し一寸した事で切符を忘れてでも居たらそれこそ全く盜賊と認定されるのだからたまりません。百人に一人か二人の無法者のために御客全部を盜賊視する會社の非常識と此無法者と此會社の待遇とに迷惑してゐる民衆が甘じて居るのは両々善い對照ですよ。」

と耳大君は圖星を擧げる。

「獨立事業の弊は茲に在りかれ」

と冥想君も悟つてしまふ

「民衆的訓練の前途尙遠しか」

と顎長君が顎を引いて數島を一本つまみ出す。

「だから僕は早く見切をつけて汽車にしました」

と耳大君が脫線の話を元にもどす。

「さうさう、西の宮へ行つてそれからどうするんだつたかな」

と冥想君は氣が付いた。

「まだ西の宮迄は行きません。汽車に乘る連中も可なり多かつたが、どうにか割り込みましたが、中には窓から飛び込んで驛員にどなられた學生もありますあゝいふ時には一刻も早く立廻らんと損をする事になります。叱られても怒られても自分の目的を貫く所に、利巧な日本人の特長がある樣ですが、こういふ手合が居るので、正直な眞面目な連中は損をするのが日本の社會では當然の事柄の樣だ。」

「觀想は後廻しとして問題の飛行はどうなつたれ。」

とそろ〳〵冥想君が聽き出す。

「いや西の宮から暗い路を今津方面へ廻つて行きましたが、同じ考への連中が隊續を成して繰り込んで行く有樣は、黑船見物に無中になつた維新前の日本人を眼前に見る樣な氣がしました。」

「はゝゝゝ、評し得て妙であるが蓋し同感だれ。」

「僕は鳴尾で下りたが梅田から約一時間も費した。電車は絕えず氣笛を鳴らして徐行をやる。滿員の電車の行列は丁度黑船を取卷く德川武士の番船と見做す事は確かに出來る。」

と數島の輪を吹く

「處が今津附近に陣取つて鳴尾方面の形勢を窺つて居る間の長かつた事と寒い風の強く吹き出したのには大に閉口しました。」

「時間が早過ぎたのかれ。そして中止にでもなるのが落ではないか」

「いや豫定の時間頃に今津についたのですが「スミス」さんの事だしまさか中止するとは思つて居なかつたんですが豫定より大分時間が延びたのです。それに鳴尾の樣子が解らないものだから辛棒が出來ずに歸り出した連中も多かつた。茲で中止にでもなつたら若い連中の夜行軍だから、忽ち問題が持上つたでせう」

「何んでも九時頃だつたれ」

「そうです丁度正九時、一時間の遲延でさ。昇り出したといふ聲が聞ゆると強い

プロペラーの響と共に二つの光が現はれた時は誰いふともなくワーといふ聲が潮の様に寄せて來ました。」

と耳大君は恰も當夜の記憶を新たにするかの様に眼を閉ぢた。

「暫くすると光を消したね」

「そうです。暗の空に喨る響音は悪魔の如く聞こえて吾々の頭の上を壓します。聲恐怖か戰慄か一種異樣の感動を受けながら東の方を視詰て居ると、全く意外な高の南方から二面の巨光が現はれて下界を輝す光景は一寸言葉に現はせませんな。半世紀前の日本人だつたら腰の両刀をなけ出して平駄張つたかもしれません。すると間もなく二條の白龍が流れてあつといふ間に輪を畫き出す。それ初まつたといふ聲も口の中で消えて、唯瞬きもせずに注視點立、正に銅像の様に竦んでしまいましたね、若しも、あの光景を漢學の先生に形容さしたら定めてむつかしい文句にしてしまふに違ひないでせう。僕等は唯光の渦を無念に眺めて我を忘れて感歎したといふより外はなかつたんです。」

と耳大君は双方の耳をワンと立てる。

「幸か不幸か我々は多少の科學的智識を持つてゐるので。恍惚となるも一瞬時、「ロマンチックフィリング」は忽ち現實といふ平凡で解決してしまふから、驚異の念の跡にいやな感情と智識の衝突が殘る飛行時間十分位でしたろう。光が消えると同時にがつかりしました。

「歡樂極まつて悲哀生ずといふのだろう」

「さうですな、いはゞ見物に行つたのですからそんな心境はなつたのかもしれません。」

「僕は二度と見たくない」

と顔色は吐き出した様にいふ。

「君も悲哀黨ではないのですか」

「僕には歡樂といふものがないから悲哀生ずといふ事もない」

「ちあ何にしに出掛けたのです」

「これも社會研究の一端と思ふて出掛けた迄さ」

と至極冷かなものだ「だから一度觀れば澤山である二度目に初めの印象を毀つ事は面白くないと思ふ」

「それはそうかもしれません。處であの晩の歸り途の困難は全く閉口しました。集るときは夫々時間を置いて來たからまだよいもゝの歸るときは皆一度に乘ろうといふのですからたまりませんくる電車もくる電車もすぐ滿員となります、あぶなくてとても乘れないと見極をつけ、西へ西へと歩いて西の宮のはづれで漸く空電車が立往生してゐるのを見付けて乘りましたが梅田についたのは、何んでも午前の二時頃でした。」

「なぜ汽車で歸らなかつたね」

「そこ迄は氣が付かなかつたんです今津近邊なら乘れると思つて居たのが失策でした。なんでもあの晩怪俄をしたものが澤山あつた様ですぜ」

「怪俄乍りではない。暗の夜を縫ふて畔道を辿る連中が大分溢の中に落込んだ様だし、電車に足を轢かれて片輪になつた

學生もある」

冥想君は儼然たらざるを得ない、深く息を吸ふたが同時に眼を閉ぢた。

此時隣の食卓で「ハムライス」を二皿に「ビフテキ」を一皿平げて居た鬚のない顔の長い男が口を出した。

「交通機關もあゝいふ事に悪用されてはたまらないね。なぜもつと廣くて近い城東練兵場でやらないのか知ら、高い電車賃を出してそんな生命懸の見物に行く市民の氣が知れない。」

「オヤ、何時の間に來たんです?」

冥想君も思はず眼を開ける顎長君は眼鏡越に男を視たが口を開かなかつた。鬚のない男はニコ〳〵笑ひながら。

「さつきから來てゐるさ。すつかり隣りで拜聽した社會的訓練不足論は大に賛成したが電車改整論はちと片手落ちあないか、なぜつて喧嘩両成敗といふ事がある要するに市民が悪いのだよ。どうしてつて鳴尾だの豐中など利用しないと利口な市民は集まらないからさ。若し城東練兵場などでやつて見たまへ折角埒を丈夫に造つても空の仕事だどんな處からでも見るから高い觀覽料を出さない。不思議なものさ。電車賃を出して苦しい思をしてもたゞで見られるとなると出掛けるが樂によく見られる處では料金を拂ふならいやだといふ面白い市民だ」

と一通り説明をしながら「カーター」の持つて來た「コーヒー」に砂糖を入れて掻き廻しながら、

「飛行家は興行といふも生命掛だ。少しは同情を以て見てやつてよいと思ふ、料金が高いといふても知れたものだ。大に樂に見られる丈買つてやらなければなるまいぢあないか。まして日本一の商業大都市の堂々たる市民が此の理が解らん譯はない。尤も市岡では大に男前を見せたが觀覽料を拂ふてゐるといふ權利だけは忘れずに罪もない「スミス」さんを怪我させるに至つては沙汰の限ぢあないか。」

「しかしあの時は興行人が詐僞的行爲があつたんだそうですぜ」

と耳大君は言葉を挟む。

「勿論興行人は悪い。これは問題にする價値のない人間だ、しかし彼等を責むるには自から道がある、然るに事情も質さずに飛行に出でたなどば理屈にあつても恥の上塗ぢあないか」

と「コーヒー」を一呼吸に呑む。

「君はそんな事をいふがあの時の見物人の辛棒は實に感心する程でありましたぜ若し君があの時居つたらやはり憤慨組に參加するに違ひなかろう。」

「辛棒したつて結果が凡てを説明するさ」

と無鬚君は大に濟まし込む。

冥想君は點つて聞いて居たが

「兎も角社會的訓練の足らん丈は確かである。乍然、あの位の元氣はあつても差支はなさそうだ」

「さあ、どんなものでせうあんまり立派な話でもない樣だな」

と顎長君が返事をする。

「處で今夜は八時からといふのだからも

うそろ〳〵見物準備をしやうかれ」
と冥想君は立上る。此時入つて來たのは長髪の男だ。
「いや大に遲くなつた、今日はこれ丈か僕はまだ夜間飛行といふものを見た事がない。途中で餘程見てやろうと思つたが時間はまだあるから、此處へ來た序に諸君と相談しやうと思ふて來た。何處か此邊でいゝ見物の場所はないか」
と長髪君はもう目的を忘れてゐる、
「君迄そういふなら全會一致だ。ともかく見物しやう。おい此所の家は物干があるか」
と冥想君は「カーター」を呼止める。「カーター」は一寸間誤付きながら。
「エゝありますさ。ありますけどな、狹い所だつせ」
あるなら兎も角登つて見やうと五人共二階へ驅け上る。其所に荷物や外套を置いて、何んだかもう初まつて居る樣な氣で一人一人物干へ出る。出るは出たがとても五人の滿足を得なかつた。こういふ時に先鋒に居るのは無腎君だ。靴を穿いた儘瓦を踏んで棟の所へ攀ぢ登る。危い話だ。跡の連中は一先づ物干へ靴を脫いで、そろ〳〵登り初めた。
「暗くてよく解らなかつたが。方々の物干に黑い影が動いて居るようだ成る程ゐらい人氣だな。見たまへ此前の通りは人の影もない」
と耳大君に話しかける。
「成る程れ「グレートオ、サカ」の夜の景色は格別だ」
と北から東を眺めてゐる。
「樂天地の塔の上も一杯の人だ」
と顎長君が注意する。
西隣は近く大きな劇場に掩はれて眺望を失つて居るが先づ見物には差支ないと見て一同は棟の上に腰を並べた。
「外套がないとやはり寒い」
と無腎君は下り初める、登るときは元氣だつたが今度はさすがに用心して腰を据ゑて少し宛降つて行く。
「用心せんと危いぜ、僕のオーバも賴む。」
と顎長君は警告と注文とを與へた。「マント」に包れて居た長髪君は。
「アハヽヽ、思はぬ處で、思はぬ見物をやる事になつたれ」
「風壁會日誌に特記すべき出來事の一つですな」
と耳大君がいふ。
「しかし、今夜は風もなし、星河一天至極平穩だから特記に値せんさ」と長髪君が答へる、
「もう八時五分前だ。どうです皆んなで何分に初まるか豫想を立てゝ見たら」
と長髪君は一同に相談して居る。無腎君は顎長君に外套を渡しながら。
「僕は八時四十分と思ふ」
と割合に氣が長い。外の連中は八時半迄に決める。
「スミス」さんは此前來た「ナイルス」さんより、回轉振りが却々鮮かですれ「ナイルス」さんは一回轉毎に一寸一呼吸入れる樣でしたが「スミス」さんは何邊で

も平氣で續け行くので氣持がよいです」
と耳大君は顎長君に話しかける。
「さういふ評判だれ。一種の天才といふのだらう」
「實際飛行界の天才と思ひます。天才のやる事は何處か飛び放れてゐる處がありますれ」
此時長髪君は口を容れた。
「世間では一寸群を抜いてゐると直ぐに天才呼ばはりをするが、天才はそうやたらにあるものでないと思ふ。「スミス」さんは上手かも知れないが、武術でいふ名人の域に入つた人かれ」
耳大君は默つて居れなくなる。
「僕は名人と思つて居ます。我國でいふ名人は天才を指して居ると思ひますれ。「ナイルス」さんは僕にいはせるとまだ下手の部類かと思ひます」
「しかし君のいふ名人も北海道ではやり損なつたぢあないか」
「ありあ、弘法にも筆の誤といふんでせう。あの時の「スミス」さんの態度は堂々たるもので、心に餘裕のある人格の者でなければ出來ない事と思ひます、怪我の功名といふか、あゝいふ場合に初めて名人の心事を認める事が出來るかと思ひますれ」
と耳大君は人格論を始める。
「さうかもしれないが、兎も角墜落するといふ事實はまだ〳〵名人の域に達せん事を證明して居りはせんが。飛行界の天才はまだ〳〵これから出るのであつて一スミス」さんは大天才の前驅をしてゐると僕は見るれ」
と長髪君も默らない。
無骨君は此の議論を聞いて居たが、心は東の空に集中して居た。
「上つた」と不意に無骨君が怒鳴る
一同は思はず頭を一齊に右に向けたが暗の空は大都市の夜の燈を壓して、星の光が笑つて居る。
「なんだ、馬鹿にして」
と顎長君が無骨君の肩を打つ。
一同の頭が別々の行動を執り初めて「ハヽヽヽ」と思はず笑つたが顎長君は左の手に時計を開きながら默つて居た
「あの光は何んだ」と注意した時は周圍の岡嶺の方にはもう喊聲が湧いて居た」
暗の空を縫ふて二ツの人光は斜に上りつゝあつた無骨君は「何處だ〳〵」と顎長君に聞いてゐる。
南へ南へと昇り行く光はやがて此へ此へと方向を轉換して行く、十の眼は其の跡を追ふて行く昇り昇つて、これでよいと見た「スミス」さんは「スヰッチ」を捻たんだろう。光は消ゑる。
一同は無言だ。やがて中央の暗を破つて怪物の巨眼さまがふ白光が現はれる。
「モンスター〳〵」と耳大君が口走る。百萬の市民はこの「モンスター」に正に驚かされてゐる。
今度は二條の白龍が現はれる見る〳〵天才は得意の廻轉運動を開始する。
顎長君はもはや時計を忘れてゐる。耳大君は天才と感應してゐる。長髪君は此天才を否定してゐる。無事に〳〵と希つ

てゐる。無腎君は両の拳を握り詰めて居る。顎長君は獨り數島の烟を擧げて居た。

二階に下りた一團は例によつて食卓を圍んで顔を見合せる。

「丁度八時半に始まつたが、約十五分間の活動だつた」

と冥想君は報告する。

「しかしなんだか物足りないね、見て居る間は一寸我を忘れて居たが、今少し長く飛んで貰いたいな」とむづかしい注文をする「スミス」さんは充分飛ぶ積りでも火光の裝置が不充分なる間は致方もない耳大君は「カーター」を呼んで紅茶を命じて居たが「天才は短時日の間に大事業を殘すものと考へますと短かい程天才の味がある樣に思います。」

と大に滿足してゐる。

「日本飛行界の天才は何時になつたら出るのだろうか。」

と顎長君は珍らしく口を開く。

「日本人は一体悪い癖がある。少し術が上手に出來ると直ぐに天才呼ばゝりをやる。それで天才は忽ち天狗になつて墜落してしまふ。いや飛行界ばかりでない今日の樣な各方面共重大な過渡時代に天才の出現を待つのが抑も間違つてゐると思ふ。松井須磨子の如きも批評家が早く天才にしてしまつた爲めに却つて今日の樣な墜落をしてしまつたのぢやないか。」

と長髪君は堂々と論じ出した「日本人の樣な冷熱的間歇的國民性を有する民族には大天才は産れて來ないと思ふね。」と無遠慮な達觀を發表する。

「あなたの御説で見ると過渡時代には天才の出現を望むのは無理といはゝゝのですな。僕から見ますと過渡時代が天才を養成するのだろうと思ひますれ。豊公にしても「ナポレオン」にしても」

と耳大君は反駁を始める。

「それは君の觀方が違つてゐる。那翁や太閤は過渡期に出現して居らんれ。立派に時代の最高期に近く活動してゐる。天才は時代々々の末期を飾るものだ「ミケルアンジエロ」の如き「フイジアス」の如き皆時代精神の最高潮に躍り出して來るんだと思ふ。從つて天才は時代に養はれて來るんだと僕は見てゐる。」

「それは天才が時代に養成せられる場合もありますが同時に天才は時代を造るものだとも考へられる樣ですな。若し天才が時代を造るものとすれば天才は時代の指導者で時代々々の初期を飾るものでせう。復興期の建築も「ミケルアンジエロ」によりて代表せられ希臘建築の範は「フイジアス」の努力に成つたといはれてゐます。今日の時代を指導する天才の出現は待むのが至當でせう。」

「大分むづかしくなつて來たれ。要するに天才の定義を定めてから論點を明かにせんと決着がつかぬ樣だな」と冥想君はさう〳〵口を入れた。

「今の話を聽いて居ると天才に二種類ある樣だし天才は一つだが觀方に二樣の見解がある樣にもとれる。れ、さうだろう」

「そこだ、僕のいふのは大天才は時代の

末期に出現するものであつて、大天才の出現を促す小天才―日本人は悉く天才にてし居るが、此の小天狗は時代々々の初期に骨を埋むる犠牲となるのである。此等の小天狗の殘す仕事は微々たるもので到底大天狗と比較するべくもないが此等の微々細力の積んで山をなすに到つて大天狗が現はれる一度大天狗の出現となるとあらゆる木葉天狗は其光にうたれて盲従をこれ事とする様になる、であるから一世一代の大天狗を以て大天才と認めなければならぬと同時に個々の小天狗を天才呼ばはりは片腹いたいね」

と長髪君は言々熱を帯びてくる。

「御説は御尤もですが、今御話の小天狗はつまり場合によると大天狗になり得る資格があるのであつて私は此等の小天狗中から傑出してくる中天狗を以て天才と認め他日の大成を期する譯であるんですが若し時代と天才との關係が圓満に發達するものと見ますと此の中天狗は遂に大天狗となるものではありますまいか。」

と耳大君の議論も中々味がある。此時迄閉息して居た無髯君は待つて居ましたとばかり次の様な議論を述べ出した。

「喧嘩再成敗とはよくいふたもの議論でも夫々一理を確く執つて動かぬ處に面白味があるね、長髪君の天才論も堂々たるもので耳大君の天狗説も大に傾聽すべき議論だ、しかしねこれは觀方が異つて居ると同時に冥想君の御説の様に天才の分類定義が確定して居ないから決極喰ひ違つた論戰になつて決がとれなくなる」

「天才に種類があるい」

と長髪君が

「あるね、大にあると思ふ僕の觀る處ではまづ三種の天才があるね。長髪君の觀る大天才と耳大君の主張する天才と今一つ僕の擧げんとする天才とがある。三種三様の立場にあつて各其任務を違つて居るし、其働く時代が異つて居ると思ふ。」

「すると三つの觀方がある譯だね?」と冥想君は無髯君を注視したが「君の天才はどういふのだ」

「僕のいふ天才は所謂「隱れたる天才」である。世間では「隱れたる天才」といふと大に望を囑して大事業でも出來る様に思ふがね此種の天才は多くは時を得ないで皆悲慘な最後を遂げる天才である。乍然此等の天才はのいはゞ礎石を置くのであつて恰んと時代の犠牲に倒れるのだ、世間のいふ天才は頗る混亂して居るので此三種の何れにも通用の出來様な事になつて居るから總てが誤解に陷つてしまふ僕の見る所では時代と人とによつては此三種の天才を兼ねて一代に大事業を遂げるものもある様だが人間の生命には限のある以上は中々そう簡單に行かないから大低時代々々の徑過を研究するとまづ三種の天才別を認めない譯には行かないと同時に其働く舞臺がやはり三ッあると思ふ」

「しかし其中で僕のいふ大天才が本當の天才だろう」

「さうかもしれません、今日世間で認め

世間で求めんとし出現を待つといふ天才は君の天才でせうが多くは混亂して居て耳大君の說に近いものもある樣です」

「決極君は如何なる天才を以て標準とするれ」

と冥想君が追求する。

「さあ今の時代には今の時代に必要な天才を要求しなければなるまいかと思ふ。今日の樣な過渡時代に長髮式天才を望むのは望むものゝ無理であつて望まれた天才も此の時代には活動が出來ず到底無意味に待たるゝものでないと思ふ。過渡期には過渡期に適應する天才を望むべく暗黑時代には暗黑時代を打破すべき天才を待つべきである、若し時代が天才を產み天才が時代を指導するものなれば各時代時代の民族なり國民は一面天才の出現を促す丈の準備を覺悟して行動を起さなければならぬと同時に天才を守り立てる丈の度量がなくてはならないと思ふ今日の樣に思想の混亂せる時代に形式的天才を待つ如きは所謂木によつて魚を求むるに近いと思ふ。」

「形式的天才といふのは何んだれ」

と長髮君が質問をする。

「君のいふ天才を僕が假りに名づけたのさ。耳大君の主張する天才を構造的天才と名づけ僕の擧げた天才を精神的天才と呼びたいのです。僕のいふ隱れたる天才は決極犧牲に終るものであつて、多くは大思想家である、大理想家である、換言すれば豫言者である。殆んど架空的目的に盲動するがの如き行動を起す偉人である。乍然其行動に於て其最後に於て凡てが失敗に終る爲めに後世から見れば、全く忘れられてしまふ。彼等は名のために戰ふのでなくて眞理のために戰ふのである。從つて彼等は犧牲に終つた事は滿足して居るだろう、只彼等の活動の力の偉大なる事は彼等の後を受けたる構造的天才の活動に便宜を與へる點にあると思ふ構造的天才といふのは前人の思想を實現する天才である。空想を具体化する天才である。豫言を實行する天才である。今日の建築界で囑望してゐる天才は此の種の天才である樣ですがこの種の天才は前代の天才の後を受けて凡ての組み立てを完備せんために働くのであつてまだ〳〵形式的天才の働く範圍に到らない時代を引受ける天才である。

「一寸待ちたまへ、その構造式天才は今の構造派の建築家の內から出現しやしないかれ」

と冥想君が言葉を挾む。

「出現するかもしれませんが、今日の日本にはまだ〳〵大思想家、大理想家或は亦大豫言者が出現して來ないのだし國民も口では天才を待ちつゝあるにしろ事實に於て天才を守り立てる覺悟がない樣だから此等の構造的天才も手を空しうせざるを得ない。徒らに天才の出現を待つても初まらんといふ長髮君の御意見は此點をいふのでありませう。況んや最後に活動する形式的天才は凡ての形式美を完成する天才であつて組み立てが出來上つた時に現はれてくると思ひますから此種

の天才は中々出現を期待する事は出来ないと思せます。」

と無髯君の駁辯も終らしい

「日本に君のいふ精神的天才が出るかね」

と顎長君は一寸質問をやって見る

「無論、出現するに違ひないと信じてゐる。乍然この種の天才を活動させるにはさせる丈の覺悟が必要だと思ふ。今の時代と建築界の將來との關係を今少し深く研究をして伊東博士の所謂今日の暗黑時代に一道の光明を導く丈の準備が必要だと思ふ「スミス」さんだって相當の準備がなくて何うして暗の夜にあの「モンスター」の巨光を放つ事が出來やう。僕は「暗の光」の出現を望むのであると同時に之れが準備に相當の努力を望まざるを得ない」

＊　＊　＊

此等の男は集まりさへすれば何か議論をしてゐる彼等にも相當の覺悟と準備とがあるのかもしれんが議論のために議論をしてゐるではあるまいか。（終り）

◆假の宿◆

玉敷の都の中に、棟を並べ甍を爭へる、尊き卑しき人の住居は代々を經てつきせぬものなれど、これをまことかと尋ぬれば昔ありし家は稀なり。或は去年破れて今年は造り、あるは大家滅びて小家となる住む人もこれにおなじ。處もかはらず。人もおほかれど、いにしへ聞し人は、二三十人が中に、僅に一人二人なり。朝に死し、夕に生るゝならひたゞ水の泡にぞ似たりける。知らず、生れ死ぬる人、何方より來りて何方へか去る。又知らず、假の宿、誰が爲に心をなやまし、何によりてか目を悦ばしむる。

（方丈記）



三國『セルロイド』會社工場災害調査報告書

第四部委員會

序言

近時、「セルロイド」工業の發達に伴ひて、大阪市内外に建設せられたる製造所、加工所、及貯藏庫等は其數甚だ多し、而して從來屬々取扱不注意或は暑熱の暴昇による自然發火等の慘害を繰り返しつゝあるは甚だ遺憾に堪へず、其最も被害の大にして市民の記憶に印するものは大正三年八月三日午後に於ける安田倉庫の爆破事件にして、次いでは在三國セルロイド會社に於ける前後數回の災害なりとす、蓋し「セルロイド」は最近化學工業の産出たる誇兒にして其應用の範圍廣く、實用品としての價値は確實に認められ、殊に獨逸製品の姿影東洋市場に消滅するに伴ひて我國製品は新興の勢を以て獨占の姿となりぬ。されば數多猛烈なる慘害を蒙りつゝ猶且努力改善の實を擧ぐるに汲々として止まず、播州網干町、泉州堺市に於ける兩大會社を始め、各地大小工場の慘憺たる經營は諒とするも、爆發の原因が屢々粗製品の分解、夏時に於ける貯藏法の不備に歸因するは誠に遺憾の次第にして該工業の將來に影響する處多大なると同時に、都市の町村安寧秩序のため特別なる注意取扱の勵行を謀ると同時に建築物の構造配備を完全に近からしむる必要を認めざ

るを得ず。

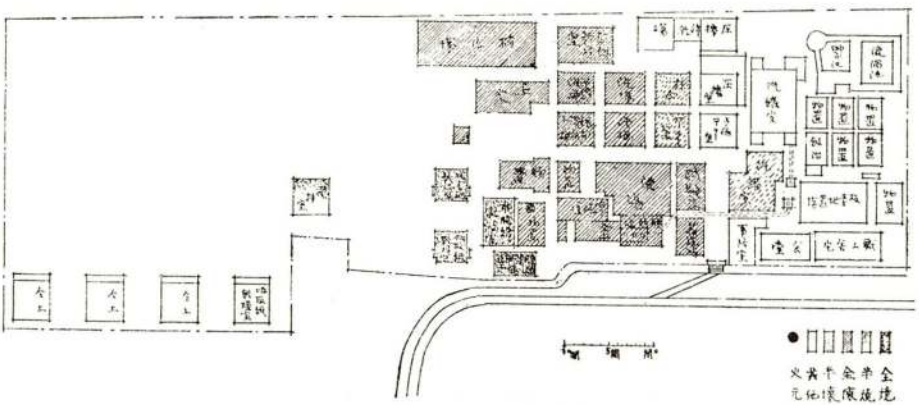
最近に於ける三國工場爆破事件は同工場を全滅に近からしめたる程の大爆發にして、芦分倉庫以來爆發に懲りたる市民の耳に殘るもの丶一なるべし。第四部委員會は即時視察を遂げたる結果、建築構造上特に參考に資すべき點多きを認め、調査報告書を作成して提出せるものなり。

第一章　爆破前の三國

「セルロイド」工場

三國『セルロイド』會社工場は大阪府西成郡北中島村大字十八條にあり。三國川の南岸堤防に沿ひたる河洲を利用して明治四十五年の交建設せられたる工場にして、東は東洋製藥會社工場に接し、西は三國晒工場に隣す。

三國橋上流約三丁の地點にあり、敷地總坪約二萬八千坪を有し各工場は皆木造平家建にして合計四十有五棟を算し延坪八百八十餘坪に達す而して工場の大部は敷地の東半を占め、事務所



三國「セルロイド」工場

荷造場、食堂、職工舍宅、及び板素地置場正門附近の數棟等は瓦葺なるも、他は殆んど木造亞鉛鍍鐵板葺なり。唯西南部に配置しあり吸取乾燥室は最近の新設に係り屋根は葺くに石綿盤を以てせるの外今回不幸

にして爆發の個所たりし綿乾工場のみ瓦葺なりき。

要するに本工場全部は此種の製造所としては相當の規模を有するに係らず、資力其他の關係より急設粗造の構造に依る外なかりしなるべしと雖、總べて可燃性にして貧弱の建物なりしが爲めに今回其大半を全滅せしめたる悲運に遭遇せり。

乍然從來「セルロイド」工業の唯一の缺點は其製造品の可燃性にして且危險なる爆發性を保有するに在りき。

今日東洋に於ては我國製品の獨專に歸したる結果殆んど危險性なき優良品を製出するの機運に達し得たりと雖も、設備不完全なる工場に在りては尙舊套を脫せずして屢々自爆の慘を見る事多し。本工場に在りても今日迄に左の如き歷史を有す。

大正三年七月三十日
製品工場より爆發出火

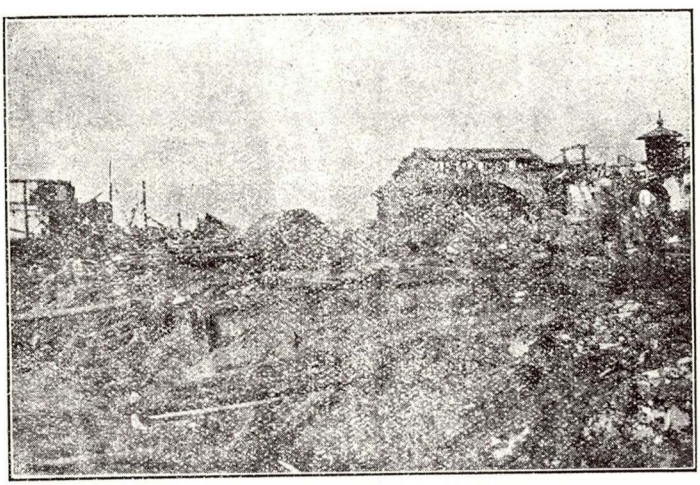
職工舍宅燒失

大正三年八月二十四日
乾燥室、燒失

大正五年十二月二十四日
揑和機爆發のため出火

揑和室、汽罐室、ローラー室、崩壞及燒失

而して今夏重ねて大被害を蒙るに至れり。



三國ルロイド工場ノ慘狀（其二）

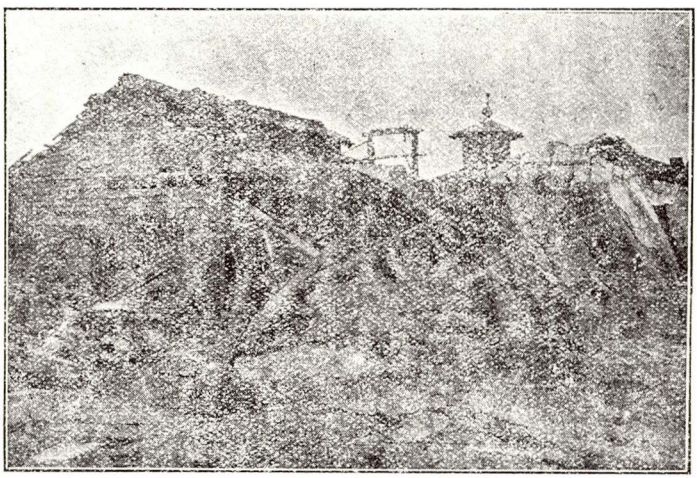
第二章

爆發の原因と經過

大正六年八月一日午後十時二十五分、突如消

化綿を貯藏しありたる綿乾工場の北隅より自爆せり、原因は暑氣のために消化綿より分解發生せる瓦斯體の爆發に起因するものにして、斯くの如き危險物を不全完なる貯藏法の失策に依りたるものなり、蓋し工場取締規則の許さゞる所を敢ねてしたるものゝ如し。而して當時盛夏の候に際し、日々華氏九十七八度を示せる氣温なるに通風換氣の不完全なる物置に放置せるは蓋し自繩自縛に陷りたるものなり。

該物置は工場の西南部に在ると雖、脫脂綿乾燥室、綿繰工場等の圍繞せる中央に位置し、且全建物は比較的堅固にして瓦葺なりし等のために多少爆發力を助長せしめたるものゝ如く綿繰場、洗場脫脂綿場、試驗室、荷造場、其他主要なる加工場を瞬時にして全壞せしめ、同時に脫脂綿乾燥室二棟、板素地乾燥室及吸取紙乾燥室の二棟を燒失せしめ、廊下にて隔てたる攪拌室を半燒せしむるに至れり



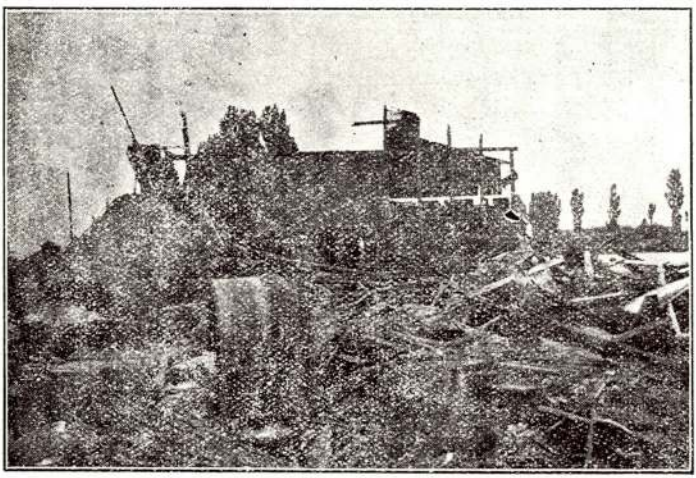
三國セルロイド工場の慘狀（其三）

幸にして職工舍宅及事務當直室の如きは東方に在りたるが爲めと、休業日に相當し且夜半突發の事件にして僅かに二名の負傷者ありたるに過ぎず、加之附近開放の河畔なれば附近の人畜家屋に損害なく馳せ付けたる三國防火隊は西南部の攪拌室に「アルコール」等の貯藏しあるを聞きて之れが防火に努力したる結果半燒にて事無きを得た

り而して當夜は北微風なりしため、火焔は南向して四棟を燒失して止みたるはせめての仕合せなりとすべし。

乍然東、北兩方面の工場の被害は慘憺たるものにして、全く壞滅に歸し東方一帶の數棟を殘せるに過ぎず。

結局全工場の主要部を紛碎せられたるものにして各種工場が全部脆弱なる木造建物なりし丈、被害の範圍は廣く、其損害は比較的多額に、上らざるを得ず、唯幸にして燒失せる部分は風位の關係によりて西南部に限り東部の建物を殘し得たるも若し西風の强大なりしものあらば忽ち一掃せられて焦土となり器械類の被害は倍加すべく想像せられ得べし。況んや崩壞を免れたる建物に在りても、軸部狂ひ、壁部剝落し屋根瓦は殆んど剝落し、硝子窓は悉く破壞せる有樣は、芦分倉庫事件の際の附近民家に異ならざるなり。



三國セルロイド工場の慘狀（其四）

第三章

罹災後の慘狀

燒失せる建物は倒壞と共に燒失して僅少の殘骸を殘せるに過ぎずして土臺迄も散逸して影なければ舊態を知るを得ざる程なり。只、器械類の散亂せると煉瓦を以て積み上げたる其基礎の殘堆を見るのみ爆發を起せし物置は木造瓦葺にして且大壁塗なりし由なれば却つて爆發力

を助長せし傾向あり、殊に其殘骸すらあらず悉く四散分裂して何物を殘さゞるのみならず、基礎を構成せる地盤は深く圓形の大濠を穿たれ基礎抗の殘存せるあるのみ、以て其爆力の猛烈なりしを想像せられ得べし、況や附近建物は約十五間以内の距離に在るものは悉く倒壊頽破して手の付け様もなきおや、若し壹間業務中なりしならんか、其慘禍は想像するだに慄然たらざるを得ず。

大濠は寫眞に見る如く大徑五間半にして二段をなす最深八尺を算し、基礎杭木在る部分よりは淺くなり約一尺五寸位に堀採られあり、乃ち杭木は地盤を堅固になし得たるを証するも杭間の土砂は散逸して尺餘の頭身露出せるなり。



三國セルロイド工場の慘狀（其五）

全壞せる建物は大略左の如き有様なり。

一、洗場（四八坪五）周壁倒壞小屋落下挫折内二個は完全なり、内郡「シャフト」臺（煉瓦二枚半積高九尺）は崩解四裂し「シャフト」（徑二吋半）曲折しあり。

一、硝化室は西側の河中に崩壞墜落し妻側一部を存するのみ。

一、乾燥堂は爆發のため崩壞且つ燒失せるものあるが其建物の側壁一部は約十間を距りたる稻田中に墜落しあり。

一、汽罐室の南側合掌は急壓を受けたるものゝ

如く方杖の部分にて挫折し屋根は剝脫せり

一、壓搾室、小屋組の一部も右全斷、柱と桁、母屋と眞束の如き振動のため枘脫出せり。其他枘の仕口殆んど齟齬せるもの多し。

一、ローラー室、は小屋合掌、夫婦束等途中より切斷し束の下部は帶鐵物「ボールト」穴より切斷す。

一、脫脂綿乾燥室(二四坪)は稍形態を存すも傾斜移動して大修理を要す。

一、職工舍宅、事務室等は屋根一部破壞天井竿緣折れあり土臺は土臺石を逸出しあり。

一、以上の外東部の建物は大概屋根被覆剝脫し硝子障子等破損せざるものなし。

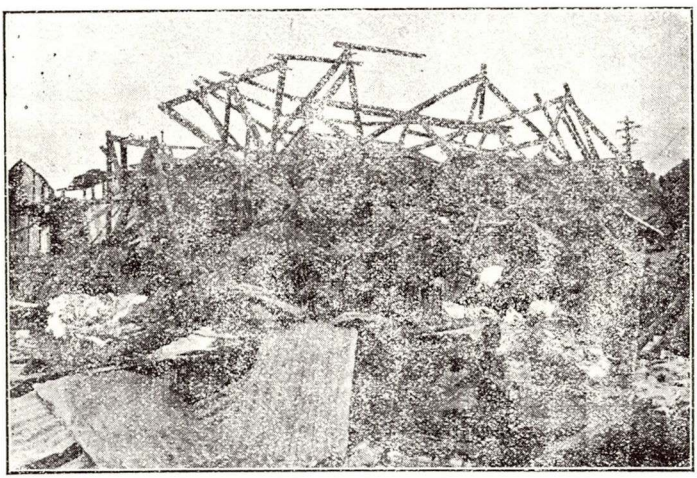
一、煙筒、氣罐室後部に二個の煙突ありたるも異狀を認めず。

第四章　結論

三國「セルロイド」會社工場爆破事件は以上說明せる如く、從來兩三回の災厄を蒙りたるに係らず、工場設備は更らに新設改造の跡を見ずして脆弱なる木造家屋を連結して事業を經續しつゝありたるなり、然るに今回の事件によりて急ち根本的致命傷を受けたるのみならず、附近住民の厭惡を受け、立退を要求せらるゝに到り、全工場にとりては、內外大打擊を蒙りたるものといふべし。而して其原因が設備の不完全並びに貯藏法の不注意によりたりとすれば、此際大改革を實行して、建造物の改造、貯藏取扱法の改良に着手し一面自家革進の實を擧げ、他面附近住民の安心を得る事は同工業の將來を慮れば焦眉の急なるべしと信ず。

殊に貯藏庫並びに工場の主要部を耐火構造とすべき事は今更贅言を要せざるべし、されど堅固なる建築物は却つて其爆發の際損害を偉大ならしむるを憂ふる者なきに非ず。殊に芦分倉庫事件の慘狀を目擊せし人々にとりては戰慄すべき記憶を新たにする事なるべし。乍然本誌前々號に報告せる如く委細に調査すれば、耐火耐震構造物の有効なる事を了解すべし、殊に貯藏庫の建築に當りては周壁を堅固にして屋上の被覆

を輕易にし通風換氣及採光の設備に特別なる注意を拂ひて不時の災害を防壓する事不可能の業に非ざるなり。況んや此等の倉庫工場は只一種の製品を目的として建造するにあれば其製造品の特質に應じて特種の構造設備を完成する事、自他共に緊要の事柄にして、經營當事者の大に考慮斷行の必要を叫ばざるべからず由來新事業の道程には數多の困難山積す所謂漸を以て確實なる成果を擧げざるべからず。工場建築の如きは其經營資本に應ずべきは勿論なりと雖、大局を打算して該工業の前途を慮れば、少なくとも貯藏庫の設備を完全にし工場の周圍を耐火構造にする丈の規模を骨子として出立するの緊要なる事を認めざるを得ず。幸にして危險物取締規則の制定せらるゝあり、今後は監督官廳に於て特別なる注意を拂ふ事となるべく、隨つて粗造なる構造物によりて組織せられたる此種の製造所は漸次消滅して幾多の慘劇は大に防壓され得る事となるべし。



三國セルロイド工場の慘狀（其六）

三國「セルロイド」製造所が今回の事件によりて蒙りたる損害は大なりとするも、此際に於て却つて一轉機に到達して大に新築改良の一歩を進むるとせば、該工業の前途に有利なる事實を擧ぐるものなり蓋し此等の慘害が屢次繰り返さるゝ事は自他共に遺憾至極の事なると同時に

我國新工業の前途に一種の暗影を投ぐるものなりとすべし。何となれば科學的智識の缺如せる國民の多き我國の現狀に在りては只徒らに此種の工場排斥を主張する事多ければ也。

現に三國附近の村民は屢次の爆發に驚倒せしも從來幸か不幸か附近建物に與へたる損害はなかりしを以て、不問に附しありしも、芦分倉庫の大爆發によつて大に刺撃せられつゝありし際、更らに今回從來よりも偉大なる爆發出火を惹起したるがため、愈戰慄を禁ずる能はずして、附近村民鳩首議を決し、其筋へ陳情する處あり、一方仝工場に對して立退を要求するに到れり。蓋し附近住民としては屢々安眠を驚破せられたるの結果にして無理もなき事なりと雖、幸にして貧弱なる工場建物の類燒破失に止まりて、附近住民の死傷或は損害を蒙りたるものなきを以て、彼等の憂慮は諒とするも、此種の工場を移すに處なき以上は寧ろ其設備の完成を要求して、今後附近の迷惑を惹起せざらん事を警告するに止まらん事を希望するものなり、單なる恐怖と被害を理由として此種の工業の發達を阻碍する如きは、附近住民として執らざる所なるべく、當局者に於ても相當の所置を考ふるの必要あるべしと信ず。只該工場の幼稚にして工場取締規則にも違犯せる處あるに於ては、此の際嚴重なる監督を勵行せん事を希望して止まざる也。（終り）



三四七ルドイ工場の慘狀（其七）



會報

會務

一、本會雜誌第二號は大正六年十一月中旬に發行することを得たるを以て直ちに會員諸氏に發送したり

一、初號發刊の際寄贈せる　建築學會正員諸氏、各府縣知名有力者、建築に關係ある各專門業者、各學校及各學會、各種協會、各新聞社宛、本會雜誌第二號も理事會の決議に基き夫々寄贈し置きたり。

一、本會と將來會誌交換を約したる諸學會左の如し。

（一）建築學會
（二）建築世界社

一、本會へ寄贈せられたる雜誌左の如し

建築世界　十一月號　十二月號（建築世界社）
住　宅　十一月號　十二月號（アメリカヤ）
木材商報　自五六四　至五七一（木材商報社）

會員移動

松室成貞君は　十一月中　明治神宮造營局に榮轉せらる

日高胖君は　十一月中　住友銀行東京支店落成後、歸阪せられたり。

職員移動

波江悌夫君は　理事會の決議により編輯補を免ぜらる。

須藤眞金君は　理事會の決議により編輯補を命ぜらる。

新入會員

一、左の諸氏は第八回例會の決議により承諾を得入會せられたり。

上野　肇　　淺井　新一
鷲尾　九郎　　島本　四郎
浦　英之助　　山本金之助

終身賛助員

一、左の諸氏は今回本會の主旨を賛し、篤に本會終身賛助員たらん事を希望せられたり。

大林組　代表者　白杉龜造
橋本組　同　橋本料左衛門
清水組大阪支店同　德政金吾

鴻池組　代表者　鴻池忠三郎
竹中組　同　竹中藤右衛門
木村組　同　木村音右衛門
錢高組　同　錢高善造
松村組　同　松村雄吉

普通賛助員

一、左の諸氏は今回本會の普通賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

三品勝之助　平尾小三郎
櫻木秀太郎　和田貞治郎
小河庸彌　堀宇一
林正信　有隅千代松
佐野房二郎　郡富太郎
竹平孫一　山本謙吉
田邊滿一　赤松重一
岩井具正　鈴木吉兵衛
野口源一　野村理一
大村大藏　中村范造
丸山正吉　杉田新五郎
南錄郎　植村佐太郎
瀨川博　佐々木昌雄
境正一　長田岩治郎
永野房吉　松久保敬三
中山正之　安部萬助
中村昌三　寶力榮六
西脇秀太郎　菅原文太郎
兒玉廣太郎　渡寶幸
廣澤兼治郎　押鴨六郎
吉永參三　原田俊三
中村一三　白石登喜男
渡部憲　白石藤四郎
松井孝次郎　田原政見
松本末太郎　副田貫一
姫野磨　山形勝一
渡邊義三　奥田金次郎
直田六三　竹谷德治郎
木原駒作　濱田茂雄
設樂貞一　中津留辰馬
旗手榮三郎　宮崎三之助
鈴木與五郎　山本辰郎
毛利泰三　三木作二
芝田知重　三谷萬三
辻彦三郎　木下作二
堀新作　八木貫介
油谷清次　田村市郎
岡部顯則　長野金太郎
衛藤官　川床秀吉
八木盛次　伊藤幸太郎
佐伯與之吉　吉田健治
井上貫　阪井米吉
時田泰三郎　梶大作
玉川貫治　南孝三
福島作一郎　山崎孝麿
土村壽吉　池田熊太郎
富永眞一
計　九十三名

會合

特別理事會

日時　大正六年十一月二十一日
會場　大阪倶樂部
出席　片岡、池田、宗、波江、
記事
一本會秋季大會を來る十三日を以て開催するにつき打合をなしたり。
一普通及特別賛助員申込書を作成し勸誘を計ることにつき意見を交換せり

秋季大會

日時　大正六年十一月十三日午後五時より

會場　心齋橋、播半

出席　池田(實)、石田、原田、今林、井上、橋本、新海、大林、小笠原、置鹽、渡邊、渡邊、片岡、葛野、吉木、吉井、伊達、田代、谷本、辰野、谷口、宗、園部、波江、中西、內藤(太)、內藤(益)、中村、永田、村井、牛村、野村、野呂、松本、增田、松室、舟橋、藤井、藤本、小林、木子、木村、岸、光安、三木、宮本、設樂、廣瀨、平井、森山、森、瀨戶、須川、計　五十三名

記事

一葛野理事より會務報告ありたり、

一當夜試みられたる科學的餘興の罰に觸れたる會員左の如し

置鹽、岸、波江、園部、松室、原田、

一献酬懇談時の移るを知らず、高笑痛飲歸ることを忘る。十時閉會。

臨時役員會

日時　大正六年十二月五日

會場　大阪倶樂部

出席　片岡、池田、設樂、宗、波江、瀨戶、園部、井上、野呂、藤本、內藤(太)、增田、今林、室谷、設樂、池田(實)、葛野、宗、片岡、波江、糸崎、田中(隆)、須川、大林、中村、計三十四名

記事

一片岡氏座長席に就き理事より諸般の報告あり、

一各部委員會の經過は順次當該委員長或は委員より報告あり、

一次いで新入會員六名の詮衡をなし全部承諾の事に決す。

一八時講演會に移り左の諸氏の有益なる講演ありたり。

「我校の生徒養成に就て」藤本　好雄

「在米所感」　森山　伊望

「東京國技館の火災に就いて」　葛野壯一郎

「仝上所感」　木子　七郎

「神戶郵便局火災に就いて」　波江　悌夫

一來る大正七年一月例會は十七日に變更決議せり。

閉會午後十時（以下次號

第八回例會

日時　大正六年拾二月十三日

會場　中央電氣倶樂部

出席　木子、牛村、原田、森山、木村、加護谷、野村、辰野、河合(清)、伊藤、谷本、吉井、大橋、小林、

記事

一會誌第三號編輯につき打合をなしたり。

一波江氏の編輯補を免じ、須藤眞金氏を後任とす。

一新入希望者六名の詮衡をなす。

一普通贊助員申込者の承諾は雜誌に發表する事とせり。

一尚當夜左の諸氏を招待し、本會のために終身贊助員たらん事を希望せしに、擧つて快諾せられたり。

鴻池組　鴻池忠三郎

清水組　德政金吾

木村組　木村篤三

竹中組　竹中藤右衛門

大林組　白杉龜造

橋本組　橋本料左衛門

都市計畫

前紐育市技師
亞米利加土木學會々員
チルソン、リユイス述

一九一五年桑港の萬國工學大會に於けるリユイス氏の講演



都市計畫

前紐育市技師
亞米利加土木學會々員
チルソン、リユイス 述

都市計畫の問題は今日は世界を通しての輿論となつた。大規模の改良工事を負擔し得る大都市の住民のみならず、小都會や小町村に至るまで彼等の社會の秩序を善くし、心地よき改良を企てゝ爲めに可成り熱心に研究せんとして居る。此趣意に由る會議や展覽會は歐米を通じて頻繁に開かれ、又、斯問題に關する著述と雜誌は盛んに出版されつゝある狀態である。然るに、其著者は、大低は建築士、園藝技士及社會學者等にして、其言論は可成り鋭きものなれども、それ程には經驗を積む機會を持たない。而して、肝腎の工學者は斯問題には餘り熱心なる態度を執らなかつたようである。白耳義ブルージ市の道路技師「フエルストレツチー」氏は、次の如く言つて居る。

「古代よりして今日に至るまで、各民族が都市の美化には其の最善の努力を拂づたのであるが、今日之を通觀するに、比較的注意に値すらものは殆んど近代のものに屬し、大低は美術趣味家の盡力に成りたるの觀あり。而して、工學者は冷靜に之を看過し來りたるの傾向は寔に殘念な話である。併し、將來、斯問題は、どうしても、都市の美化のみより進行せしむべきものではない」と。

蓋し、其意は、都市の實用的方面を十分に勘考すべきことを言はんとするのである。從來都市計畫に就て論ずる者は一樣ではない。中には、大廣場を作りて宏壯なる公館を集中することや、直通大道路を開拓し交通路の大改造を企つることを以て其主意とする者ありと雖も、斯くの如きは、計畫の一部修正であつて、決して其の眞髓に觸れざるものである。

左のニューヨーク市參事會長「ショージ、マクアネニー」の定義は、比較的傾聽の價値あるものである。

「都市計畫は市將來發展の準備行爲である。換言せば、社會の膨脹を適當に導く排除管にして、其當面の問題としては街路、公園、交通機關等の設備を完全にするを要求すれども其底意には、更に深遠なる目的を藏し、市民の精神上の健康と社會の健康と安寧を主眼とするのである」と。

今、著者が、一九一一年、紐育市の都市技術家會議に發表したる定義を再錄すれば、

「都市計畫は、其都市の秩序ししき發展と、其近郊を整正せ

んとする企畫にして、其目的は、健康、安寧、及便利の增進と商工業の進歩を助くる爲めである」

今、各國民の意向を見るに、自國の夫れよりも、却つて他外國都市の計畫に其長所を發見して、之を稱贊しつゝあるようである。例へば、英吉利にては、獨逸都市の廣小路や、會館の整齊統一を大に稱贊し、獨逸にては、英吉利流の工業都市の郊外に、花園村の設けあるを褒めそやすが如き、或は、亞米利加にては、舊世界の都市の計畫と、其配置を愛でて、自國のそれと對比し、大に學ぶべきものあるを稱するが如きは、必ずしも各國民間の謙讓と見る譯にはゆかない。之れ、恐らく、自己の見慣れざるものの長所は直覺し易きが故に、特にそれ等を唱ふるものと謂はねばならぬ。各國に於ける都市計畫の活動は、各自多少の特色を帶ぶるものなるが、パトリック、アバークロムビー教授は、其著作の中によく其狀態を言ひ顯して居る。

瑞典政府は、各國中最も早く理解し易き都市計畫法律案を發布した。其案に據れば、一設計案を以て各都市を通貫せんと企て、舊都の曲折最も多き市街をも、强制的に平凡一樣なる廣小路に改良せんとするが如き不合理を示して居る樣である。獨逸は、各國中最も新しき計畫を實施しつゝあり。而して法律上之を遂行するの權能は頗る狹きに拘らず、社會の輿論は頻りに之を迎へ、未だ曾て其實施に反抗を受けたことがない程、圓滑に進行して居るようである。獨逸式計畫の特徵は、專ら圈帶式を採用し、建物の高さを其圈圍に沿ふて一定せしめたことである殊に、舊城周壁を圓圈式廣小路に改造せしめたるプレメン市やケルン市の如き、又、舊都の城塞を巧みに保存せるフランクフルト、アム、マイン市やヌーレンベルヒ市の如き、又は、市の郊外地を市有として保有する如きは孰れも、獨逸以外には見るべからざる企である、中にも、ストラスブルグ市の市有地は、人口一人に付き五十七平方呎、ウルム市のそれは、市面積全体の八割に達し、伯林にては、市全体の三倍に達する郊外地を市有として居る。

澳匈國は、殆んど獨逸式に據れりと雖も、其首都維那は、獨特の性質を有し、其舊城壁内の輪街（リングストラッセ）は、世界有數の美しき街路であることは廣く知られて居る通りである。又、其外廓の輪街は、更に之を繞ぐり、樹林鬱蒼たる丘陵を帶ぶるの趣味は、恐らく、都市としては珍らしきものと謂はねばならぬ。

佛蘭西は、其都市の内部構造物に甚深の注意を拂ひ、街衢の紀念的輪奐の美を發揮せしむることに努めたことは、注意すべき特點である。其市の街衢と郊外との連絡が直通せることは恐らく巴里に若くものなかるべく、殊にオペラ通りの如きは、都市計畫としての大成功の一に數ふべきものである。英國は、都市の紀念的趣味の點に於ては、他の諸國よりは多少遲れて居る氣味である。各都市とも、一般に、交通の點に於て甚しき困難を感じてゐるのみならず、一も大公館の適當な地位に建てられたるものなきの狀態であつて、殊に、吾人をして其英國風なる を感ぜしむる點は、貴族邸宅が數世紀に亘りて保存せられ、都市の歷史を誇り顏に語り、以て都市の精神をあらわし居ること

である。

白耳義にては、ブラッセル、アトウアープ、ゲント及ブル！ジュ等の各都市が、各自に著しき特色を發揮して居る。併し、近來のブラッセル市の改良工事の如きは、全く巴里の流義に倣つて、之に接近せんとするものならんか。

伊太利は、都市改良計畫に就て、他の隣接國と全じく歩調を進め、殊に、法律上官憲に十分の權能を收めあるが故に、可成り多額の公費を其改善に注ぎ込みつゝあるの有樣である。

南亞米利加の都市中リチ、デ、ジャネロ及ブエノス、アイレスの兩市は、最近最も大膽なる改造計畫を實施し、濱岸の廣小路や其他の新開せる大道路の体裁等は、世界的の規模と言ふ價値は十分である。

北米合衆國にては、其都市計畫に、凡そ左の三大特徴を見ることが出來る。

一、地形の如何に拘らず凡て碁盤格子式の採用す。

二、交通を至便ならしめ、多くの雄大なる公館を以て市街を美化す。

三、科學的系統に據りたる各種娯樂機關の設備。

上述の如く各國の都市は、各自其特徴を示しつゝあれども、其根底を成すべき都市計畫の原理は、決して撞着したものではなく、唯、各地方の習慣や地勢等に由りて外形に差異を生して居るのみであること、猶ほ都市計畫の急先鋒者エドワード氏の言へるが如く、「英國に於ける都市計畫とか、獨逸に於ける都市改良とか、又は、佛蘭西流都市計畫と言ふ特殊のものゝなきこと猶英國の數學とか獨逸の數學とか言ふ異樣の科學が存在せざるが如くである」

しかしながら、普通一般に唱へらるゝ都市計畫には、往々重大なる欠陷あるを知らればならぬ。即ち、一般の都市の計畫者が最も屢々賞贊して採用せんとする傾向ある彼の大廣場の如きは、最近の亞米利加式都市には全然無意味である。

若し、獨逸國ローテンベルヒ市の美くしき街衢の狀態をニューヨーク州のロングアイランド又はミシシッピー渓の大遊園に之を寫さんとするが如き、又は、ヴエニスの廣場（ピアッツア）をピッツバーグ市に現出せしめんとするが如き企は、全く無謀と謂はればならぬ。「歐都を模倣す可からず」とは伯林のウエル子ル、ヘゲマン教授のみの注意ではない。

正當なる都市計畫は、急激に遣つては好くないのであつて。彼の英米の都市の欠點を指摘し歐大陸都市の如くに直ちに大改造をなさんとするが如きは、利害の關係上大に愼まればならぬ教授エベルスタート氏は言へり、「急劇なる且十分に阻嚼されざる都市計畫の實行は其都市の發展には害あるのみ」と。

現今亞米利加にて理解さるゝ都市計畫の運動は、一八九三年に故ダニエル、エチ、バーナム氏の英才と、同年のシカゴ博覽會協議員の一團により計畫されたる博覽會場即ち白市の刺撃より起れるものである。縱へ其の構造は臨時的のものにせよ、其調和されたる各種建物の配合や、通路廣場との調和等は、覽る者をして、如何にも理想的の文明都市に之を應用したき感念を起さしめたのは事實である。英國にては、都市計畫熱は却々盛

なれども、舊都市の改造は余り困難なりとして、寧ろ新開地に向つて理想的の美しき小都市を現出せしめんと努力する傾向を認めるのである。

人、或は、都市計畫の主要なる目的として、家屋問題や、娯樂機關より、市場市營や、廢物の處置、又は市民の保健法の研究や、或は、救濟事業、其他一般の公益營利事業に至るまで、凡て此れを含むものとすれども、之等は、單に都市の行政に過ざるものにして、此の講演に論ぜんとするプランニングと直接關係あるものではない。余輩は、寧ろ、從來の改良されたる部分を破壞する事なくして、如何に容易に其都市を健康に住心地よき樣に便利なものに改良ぜんかに就て、其原理を研究したいのである。

都市計畫の要素

正當なる都市計畫の要素に就て、詳しく定義を下した學者は未だ之を見ない。或る者は、都市行政と其社會的活動を主として之を論じ、或者は、一都市内に於ける各區の特殊要求を研究ぜんとして居る、故に、前者は、余程多岐に亘る項目を攻究せねはならぬのに、後者は、比較的簡單である。前者は、或る亞米利加の建築士の說にて、都市問題を十二項目に分ちて全豹を綜合し得るものとして居る。(一)街路(二)人の交通(三)貨物の交通(四)工場と倉庫(五)食糧と市場(六)上水と街生事項(七)家屋問題(八)公園(九)遊步場と市街計畫(十)建築(十一)各種の取締條例(十二)財政。即ち是れなり。

又、后者は、或る佛國學者の說にして、一都市の研究を爲す爲めに、之を四區に分ちて研究ぜんとするのである。(一)業務區域(二)製造工業區域(三)行政區域及(四)住居區域是れなり。

若し、都市の行政や業務活動に關して之を論ぜずとすれば、一都市の便利と心地よきとは、左の四項に依りて左右さるゝものと謂ふことが出來る。

(一)交通系統=即ち都市への出入の交通便と都市内部の各處間交通便。

一体都市の交通の激增は、之を精密に豫想する譯にはゆかない。併し、必要が起る際に直ちに之を充たす丈けの準備をして置かなければならぬ。交通の最大要素は、約り、市街にして其配置と幅員等が、其便利の能率を左右するのである。

(二)市街の系統=は、市民が所用を辨ずべき緊要なる手段であつて、一度び之を決定ぜんか、永久に之を變更する譯にはゆかない。勿論、其部分にあるもの、幅員を廣め、曲折を直すが如き事は出來ぬでもないが、全体の系統は、其都市のあらん限り之を直す事は先づ出來ない。併し、偶然の出來事で、例へば一六六六年の倫敦大火や、一九〇六年の桑港震災の如き場合には、大部分の市街系統を立て直す事は出來る。

(三)公園及遊樂地=は、市民の健康と慰安を助くる爲めである故に、若し公園の設備が不十分ならば、何時か之を新設せねばならぬと同時に、其公園の相互の巨離を考へ、市民の最も便利に到達し自由に利用し得らるゝ樣に、市街系統との關係を重んずべきである。

(四)公舘の配置＝は、公共事務を便利ならしむると、又其都市の威嚴を發揮し得る爲めには、十分に攻究を要すべき問題である。即ち、市街系統と其配置は、離るべからざる深き關係あるものであるから、都市の計畫には、必ず其の配置を準備せねばならぬのである。

上述の外、都市をして近代の要求に應ぜしむるには、各種の複雜なる機關に觸れねばならぬ。併し、以上の四箇の要件は、其都市を便利にして、且つ体面善きものにするか、不便なる凡俗の都にするかの分岐點である。一体、都市の發達を促し、民民の活動を便利ならしむるには、以上の要素が巧みに實施さるゝや否やに據ること甚大である。以下、順次斯の問題に就きて詳述せんとす。

㊀ 交通系統 ㊀

近代都市は、一般に其起源と發達とを交通の便利に歸する。内部の交通の便は、勿論供給地よりの便と製産品市場への便利とは、凡て都市の發達を促すものである。斯の傾向は、工業都市に於て著しいのみならず、人口の稠密地は凡てさうである。故に、都市計畫は、最初に交通の問題を考へて置かねばならぬ。併し、乍から、斯の研究に依り、果して、加何なる程度まで交通を便利に成し得るやと言ふに、先づ、其都市の現狀をなるべく崩すことを少くして、交通の膨脹に準備するより外仕方がないのである。若し、其都市の旅客及貨物の出入を便利にせんか製造工業や其他一般の事業は次第に吸引され、從つて、人口の増殖は著しく、延いて、市内の交通問題を惹起す順序となる。

都市の業務殷盛に赴くに從ひ、其中心區域は、地價の騰貴を來たし、住居を次第に外廓に驅逐するは明にして、職工階級の者は、若し適當なる家屋を支給せざる以上、市外の地價の安き處にまで其住居を移すの已むを得ざるに至る。一九一三年貿易協會の倫敦交通部の報告に據れば「市の中央區域より市外の健康地に向つて移住する此傾向は社會の爲に慶賀すべき事にして近來は交通機關の發達により益々此傾向を助成し、郊外地は愈益々廣く開拓されんとする。」故に、市外への交通の必要なることは、市内交互の交通が重要なると少しも其差がないのである一九一三年のシカゴに於ける都市計畫聯合會議の際マルトビー氏の言を引用すれば、

「都市にして陸と水面との兩方より交通の便あるものは其膨脹最も著しく、又、市内外の交通に於て最も安價に便利を得るものは、他の事情は凡て全じとすれば、其都市は最も著しく富強と發展を增すものである」

鐵道線路に沿ふ地處は、一般に余り好ましきものではない。故に工場又は細民住宅に之を利用すればよろしい。エドワードエチベンチット氏の說によれば、「市の中心より各方面に放射する鐵道線路の間に挾在する三角形の地所は、其他價高きに係らず細民住宅より外、役には立たない」と言ふて居る。併し、一都市の全体のプランが、幹線鐵道の便利なる終點を有し、各枝線も十分に配備され、水面との連絡にも萬端便利を得る樣の仕組になり居るものとするも、其の交通系統の問題は、工費の

最少と現業務の妨碍とならざる樣の程度に於て、必要の度に應じて設備を進めねばならぬ。

海港の都市は、近來までは、水陸運輸の聯絡又は合同に就て余り深く必要を知らなかつた。其理由は、其市へ輸入されたるものは、其市に於て消費するものか、然らざれば、更に加工して輸出するものと思ふた爲めで、其の分配機關の中心地たるを知らざりし爲めである。故に、鐵道は、自から他に交通系統なるものあるを知らざりしかの如く終點を造り、海港の棧橋も亦鐵道驛と何等交通の連絡の設けなきの有樣であつた。然るに、近來、港灣設備の問題は大に吾人の注意を引く事となつて來た。

今、此處に、都市の交通問題を論ずるに方り、之を一箇獨立したる項目として、都市計畫の根本義に關したるもののみを述べて見たい。斯の意味から言ふと、鐵道線路各自の適當なる連絡や、海港との連絡に就て、最初より之を置くことは、それ程必要なことではない。市俄古の如き、鐵道幹線系統の連絡の惡き爲めに、現在の困難を整理せんとして苦しんで居る。

又、紐育は、近來に至りリバプール や漢堡や或はアントワープ又はベノス、アイレス港の如く又マンチエスターやフランフルト・アム・マインの如き內地港に倣ひて、鐵道と船舶の終點を併立せんとして各種の設備を企てて居るのである。

鐵道及港灣終點の配備が、舊都市の計畫に缺如さるゝ場合。之を系統よく大改良の配備をせんこと最も緊要である。例令、其工費に多大の額を要するも、致方がない、若し現在にはそれ程緊急に其改良の必要を感ぜざるも、かゝる不便なる都市交通系統から起る損害は、何時までも之を除去する事は出來ない。而して、都市交通機關は、不急の如く見ゆるも、市民は、常に事務上又は交游上之を利用するが故に、果して何れの線路が第一着に必要なるやは豫想する譯には行かない。要するに、交通系統は、一團として其價値を發揮するものにして、競爭線の徒らに數多きよりも寧ろ少數の線路の系統よく統一されたるものを撰ばねばならぬのである。

大都市にあつては、屢々高架及地下鐵道の必要あれども、之等は最も激繁なる交通を要する部分に限らるるのであつて、其以前は、矢張り地上線にて用を足して居つたに相違ない。或る市街にては、地上に復線の鐵道を敷き、其間に車道を設け、舖道よりは地下鐵道に達する設備がある、ことによれば、其線路が三條四條を敷設するものさへある。高架鐵道は、市街の光線を妨げ、通風を害し、響々たる雜音は又甚しき不快を與ふるものにして、市街の爲めに甚だ好しからぬものである。併し、現在紐育のクヰインス、ブルバアールに建設しつゝある高架鐵道は、恐らく從來の凡てのものよりは、体裁其他に於て余程進歩したるものである。斯の鐵道は、三線路より成る高架にして、地上に復線の鐵道を敷き、道路幅員二百呎、鐵道數の兩側に各幅四十三呎の道路と、二十呎の步道あり、即ち、高架築堤の兩方とも、幅員七十七呎の道路にして、築堤の床は、堅固の凝結体構造なるが故に、音響も非常に輕減され、光線や通氣にもさして妨碍を與へさるべし。從來の大都市にても高架鐵道を以て市街を縱貫せんとするものは、上述の如き幅員のものは稀なれ

ども、幅員百五十呎のものは決して少くはない。而して實際には地下鐵道を設くるよりも、高架線路を用ゆるを利益とする場合甚だ多いのである、市街に於て急頻の交通鐵道を新たに築造する其の困難と工費は、實に多大であるが、從來より狹隘なり し街衢に當るときは、其困難の度は更に驚くべきものがある。其極端なる一例は、ニユヨーク市のウヰリヤム街に於ける急頻運轉の地下復線交通機關の築造である。斯の市街幅員は四十呎にして、築造さるべき鐵道線路約半哩なり、此線路の堀方は、巾二十九呎を要し、停車場にては、道路幅員の全部即ち四十呎を要するのである、深さは地盤以下平均二十五呎乃至三十一呎にして、地水面以下三呎乃至五呎でなるが、メーデン横通にては十四呎、ピアール街にては二十呎である。斯くの如き困難なる大工事は、延長僅に半哩にして最低入札金高は二百二十五萬四千六百七十弗即ち一呎に付き八百五十弗であつた。其驚くべき高價の工費は、恐らく大低の場合には禁制的の高稅と言はねばならぬ。

若し、地下線路の必要迫り來り、而も道路幅員の可成り廣き場合には、無蓋の切取地下線を設け、他日地上を街路とする時には、其上に相當の蓋床を設くれば足る、又、道路の幅員が許すならば、支壁を略して、勾配切取を以て之を充たすことも出來るのであつて、其際は、他日必要に迫れば、其勾配の部分を利用し得るのである。

實際、市内に於ては、鐵道線路延長の最大なる部分は電車である。是れに加ふるに、自働車、馬車、其他の交通機の通行の爲めに、幅員は益々大ならざるを得ない。即ち、鐵道線路と歩道との間に十分なる車道敷を設けざれば、交通密集して、捌きのとれぬことになるものと思はなければならぬ。紐育市の條例にては、車道四十呎以上にあらざれば復線軌道を許さず、又、歩道は軌道敷設の爲めに過度に狹くさることを禁じてある。余輩の考に據れば、軌道を地上に敷設せんとするには、其街路の幅員は、少くとも七十呎を降ることを得ざるべく、又、幹線道路にありて高架及地下鐵道をも併せて敷設を要するが如き場合には、其幅員八十呎を下つてはならぬ。（交通系統終り）

（以下續出）

編輯たより

○思ひ出多き丁未の歳暮れて、多望なる戊午の新春を迎へ、本會の基礎愈強固に、本會の事業益々發展し、本誌の任務も漸く重且大と相或申候、然も前途は尚ほ遼遠にして、斯界は益多事ならんとするに當り、吾人の努力は一歩も忽にする能はざることを感し申候、牛歩の遅々たるもよく千里に到達するを思へば、悠々確實なる協力邁進を持續せん事不堪希望候

○本年初頭、特に本會宛賀狀を贈はりたる諸氏不尠候一々御禮は不仕、乍略儀誌上に於て會員一同に代りて、茲に御禮申上候

○前號巻頭を飾りて、好評續々たりし、大正五年度、大阪市出火場分布圖は、實に大阪府警察部消防課の確實なる調査に基けるものに有之、特に本會のために便宜を與へられ候次第、茲に改めて奉感謝候

○此度普通賛助員として入會有之候諸氏へは、本號より發送仕るべく候、從つて會費は本年より徴集仕るべく候間御含置被下度候、尚本誌第一號第二號其御希望の諸氏は其旨御一報被成下度、代金引換へに早速發送仕るべく候

○會員外の諸氏と雖も寄稿は最も歡迎仕る處に有之候間、本會事業御賛助の目的を以て御投稿希望致候

（編輯員一同）

役員及職員

（イロハ順）

理事長　片岡安

理事　池田寛（主計）

葛野莊一郎（編輯）

武田五一（編輯）

宗兵藏（編輯）

波江悌夫（主記）

編輯補　佐藤四郎

設樂貞雄

本野精吾

須藤眞金

書記　山本辰郎

會員百九名、理事長一名、理事六名、編輯補三名、書記一名

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
十二冊	參圓六拾錢		貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
裏表紙表		貳拾五圓

（每月壹回　十五日發行）

大正七年一月十二日印刷
大正七年一月十五日發行

發行兼編輯人　山本辰次郎
大阪府東成郡古市村大字森小路六百五十二番地

印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　關西建築協會
電話本局二二四一番

明正社
渡辺建築事務所
河合幾次建築事務所
河合浩蔵建築事務所
神戸建築工務所
辰野・片岡建築事務所
宗建築事務所
木子建築事務所
茂・野村建築事務所
池田勘蔵
橋本料左衛門
大倉組大阪支店
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
久保田工務所
山本鑑之進工務所
山中建築部

松村組
鴻池忠三郎
安藤組大阪出張所
木村建築部
清水組大阪支店
清水福太郎
銭高善造
大阪煖房商会
高田商会
米国貿易会社
秋山小林商店
須賀商会
大阪窯業
内外土木建築材料
コルク工業
高島屋飯田
伊藤喜商店
松尾和助本店

桜セメント
村井工業所